

唐土名勝圖會

京所

四

唐土名勝圖會第一卷之四	
目次	
外城總圖	目錄
外城之東	外城之西
花園總圖	花園邦堀

ル 5
987
4



門凡 5  
卷

叶

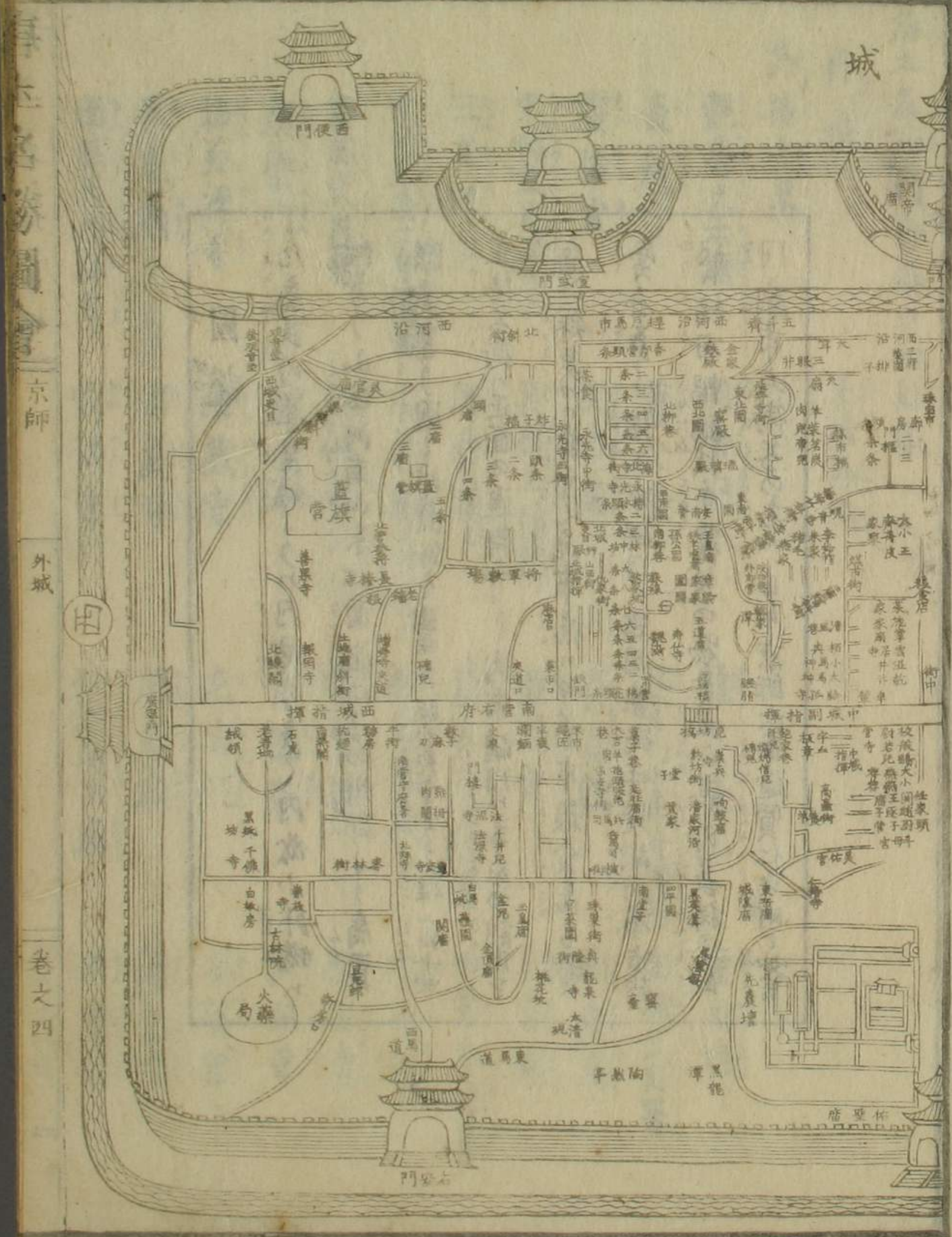
城

喜正名券圖會

京師

外城

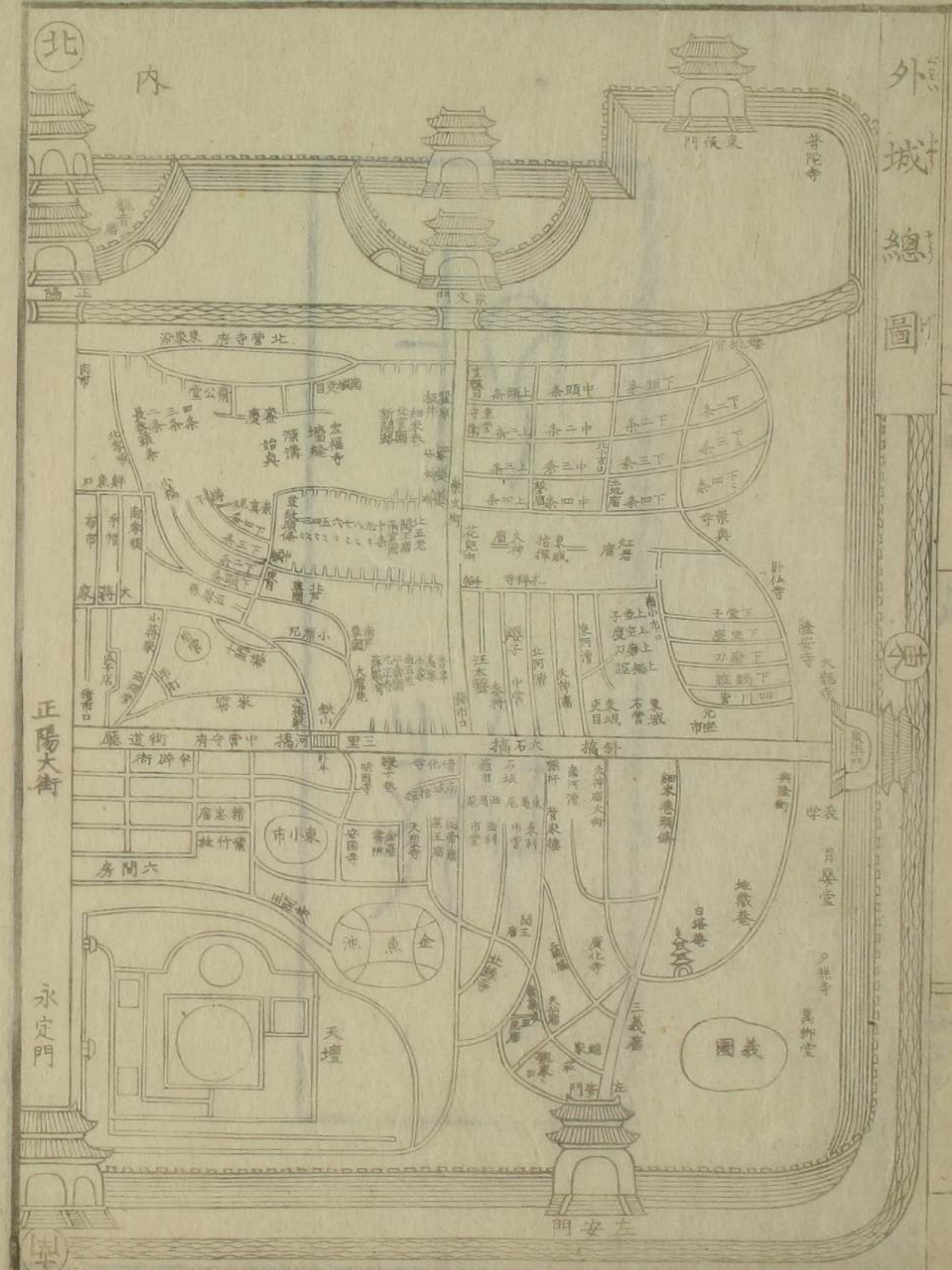
卷之四



京師

外城

卷之四



外城總圖

北

正陽大街

永定門

南

圖說

凡商民の屋皇城より内城を多く内城が外城の  
 増より山西河南山東江南浙江等の州郡より高買  
 穀物集りて此産物を鬻ぎ繁盛なるを雜言盡  
 正陽大街の正面の通街より肉市胡同の羊豕の割肉と  
 商の鮮魚の賣店より瓜市店より菜市糧食店を  
 賣店より珠玉市胡同の器用家街手帽胡同布市胡  
 同の結布帽踏は手履等の物と高し其外長椿寺胡  
 同廟市大街等の名日本京師六廟通賢仁寺町と聖

唐土名勝圖會卷之四目錄

外城

正陽外門

外城之東

- |          |       |          |       |
|----------|-------|----------|-------|
| 觀音大士廟    | 関帝廟   | 龍王堂      | 東月牆   |
| 查樓       | 蕭公堂   | 北宮内小東守備署 | 南城史目署 |
| 靈佑宮      | 関帝廟   | 崇真觀      | 関帝廟   |
| 中城史目署    | 呉越王孫修 | 鐵山寺      | 三官廟   |
| 三里河      | 関帝廟   | 崇文門稅務署   | 中營參將署 |
| 中營東南二守備署 | 火祿廟   | 都寬君廟     | 太平宮   |
| 東城史目署    | 卧佛寺   | 爐聖菴      | 隆安寺   |
| 廣渠門      | 義學    | 育嬰堂      | 夕照寺   |
| 拈花禪寺     | 法藏寺   | 龙安門      | 右陽宮   |
| 五虎廟      | 華嚴寺   | 関帝廟      | 清化寺   |
| 南城正指揮署   | 咽因寺   | 姚彬関王廟    | 天慶寺   |

永濟橋

南宮東南守備署

祈年殿

外城之西

西月牆

大學士李文安執印

鐵老鶴廟

北城正指揮署

洗象

大慈仁寺

西城文月署

白紙坊

聖安寺

玉皇廟

金臺書院

精忠廟

永定門

萬壽宮帝廟

大學士李文貞印

琉璃廠

松筠碑林

長椿寺

廣德寺

西便門

古林院

寄園

水月禪院

魚藻池

天壇

延壽寺

菽子園

永光寺

三忠祠

都土地廟

菩提寺

朱竹地寓居

火藥局

憫忠寺

怡園

東小市

園丘

擗頭巷

梁家園

仁川宮

順成門

懺園

歸義寺

廣寧門

右安門

萬壽西宮

大學士陳文簡印

園帝廟

恩密廠

恩龍潭

斗姥宮

苑園總圖

臥虎橋

方澤壇

西黃寺

望京村墩臺

東嶽廟

北城外西一守備署

黑松林

三忠祠

延壽寺

張相公廟

密臺

都城隍廟

先農壇

郊垌

多寶佛塔禪院

薊門烟樹

萃藏寺

北城外東小守備署

朝日壇

天妃宮

謊禮臺

削微墓

圓覺寺

元帝廟

恩恩巷

東嶽廟

親耕

松林園

北極寺

北宮游擊署

護國天仙廟

明令忠潔公墓

東城副指揮署

淨住寺

大通橋

中宮外東南守備署

宏善寺

晉陽巷

陶然亭

仁壽寺

觀音寺

土城園

功德林

東黃寺

滿井

碧霞閣元君廟

中宮外東守備署

隆壽寺

藍靛廠

祇本殿

隆禧寺

呂后新韓信	金臺	南苑	更衣殿
舊衙門行宮	瞭鷹臺	大園	雙柳樹
南紗宮	新衙門	因河行宮	碧霞元君廟
元靈宮	永慕寺	德壽寺	開帝廟
永祐廟	寧祐廟	龍王廟	南路同知署
草橋	百泉溪	豐臺	南宮外南二守備署
廣恩寺	九蓮慈蔭寺	祖氏園	年氏園
廣寧門	天寧寺	柳巷村	濕水
盧溝河	廣溝橋	金園寺	惠濟寺
大慈觀音寺	普濟堂	福生寺	西路同知署
元劉秉忠墓	白雲觀	怡魚臺	玉淵潭
崇壽寺	關帝廟	三義廟	右乙集仙觀
文月壇	寶塔寺	慈恩院	靜樂堂
慈壽寺	摩訶巷	伏虎橋	西城副指揮署

慈慧寺	西城寺	元福寺	顯應寺
雙林寺	西直門	高梁橋	樂善園
極樂寺	大真覺寺	白石橋	廣源閣
萬壽寺	萬壽街	暢春園	賜春苑守備署
清華園	洪雅園	白園	泉宗廟
永安寺	聖化寺	永通寺	龍翔寺
覺生寺	西苑園	圓明園	長春園
圓明園守備署	昆明湖	功德寺	雍山
清漪園	大毅恩延壽寺	耶律楚材墓	畫眉山
龍沐廟	玉泉山	龍王廟	靜明園
呂公洞	上下華嚴寺	西山	中宮遊擊署
靜宜園總署	普陀山	荷葉山	十方普覺寺
觀音堂	隆教寺	五華寺	廣泉寺
園通寺	大和巷	退翁亭	廣應寺

靜宜園	碧雲寺	香山寺	十八盤山
洪光寺	宗鏡大昭廟	寶相寺	中峯
翠巖寺	杏子口	靜宜園把總署	盧師山
平坂山	嘉禧寺	馬鞍山	仰山
滴水巖	油雲寺	百華山	燕山
西湖山	百望山		

唐土名勝圖會卷之四

故兼葭堂木世肅先生遺意

編述 法橋 岡田玉山尚友  
 岡 熊岳文暉 全  
 大原東野民聲 畫

外城

外城の内城の南面と包める城なり。南面の巨門三  
 と廣渠門西を廣寧門と云ふ北の隅は向ひて  
 東は正陽門西は西便門と云ふ西便門は以上七門  
 街と正陽大街と云ふ街の北は正陽橋なり。石梁三正陽門外城門は橋の南は正陽橋と  
 正陽外門なり。圍門常は閉て開くは唯天子の駕を御すにのみ開く。東の方廣渠門街の西の  
 方廣寧門街と直に通じ其正陽街の十字街と猪市口と名く瓦安門街



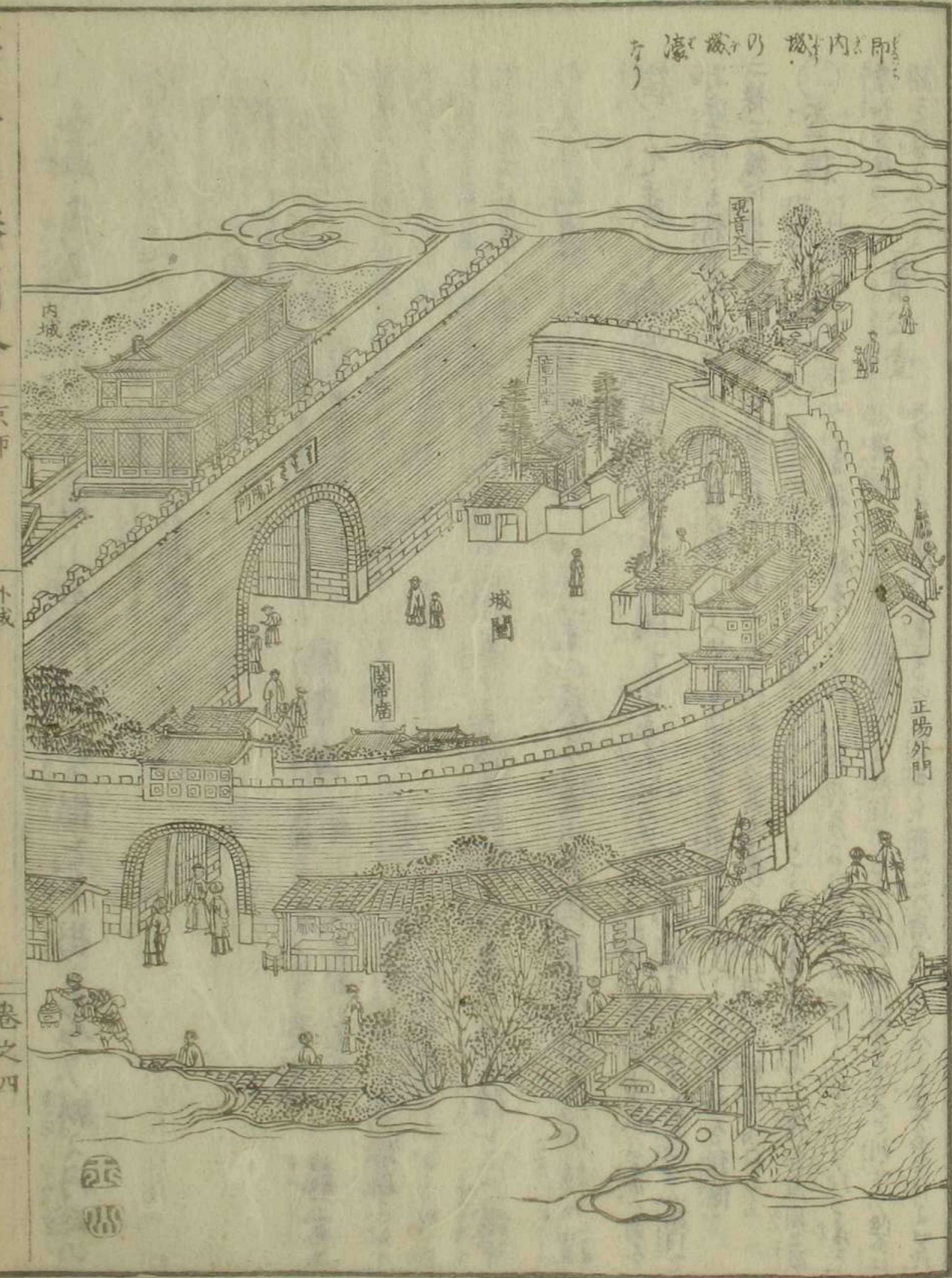
正陽門正陽橋

正陽門即內城之正南之門也  
正陽橋正陽街外城之橋也  
正陽門外城之橋也  
三條街一門也



外城之門也  
其秋園  
內城之西直門  
角之東使  
西使之門  
濠園は  
城河の水  
至水す  
後て所  
流と内城  
の九門と  
濠と外  
通河と  
東月  
東月塔

即内城之濠



京師

外城

卷之四





直内城の崇文門は通じて在基門の丁字街と本街とを斜に内城の宣武門は通じて

外城之東

觀音大士廟

月城の内東邊あり

關帝廟

月城の内西邊あり

龍王堂

東月墻

正陽大街石道の旁に棧蓋の棚房多くあり

御と悉く高賈匠作貨棧と用て生業とあり

查樓

蕭公堂

關帝廟

崇真觀

中城吏目署

鐵山寺

三里河

崇文門稅務署

都電君廟

東城吏目署

爐聖巷

北管内北東守備署

關帝廟

關帝廟

關帝廟

關帝廟

關帝廟

關帝廟

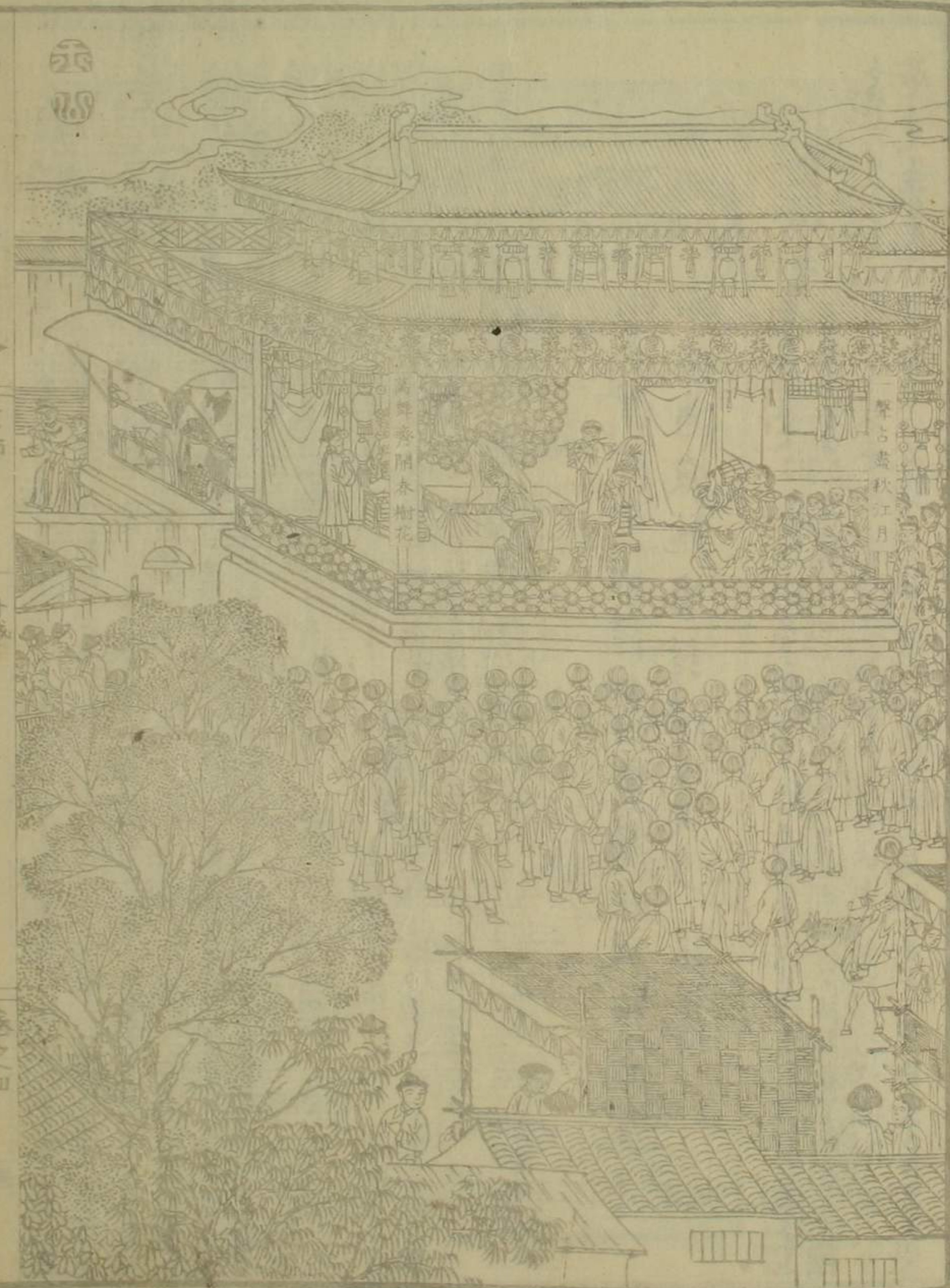
關帝廟

關帝廟

關帝廟

查樓

查樓の戲場の号と  
 日中のまはりの下にお  
 なと掛へ席と測り  
 は「查樓の方と金」  
 回中「戲臺ありて  
 記人の舞うま  
 況たり其間  
 夜は技師  
 姿を没せ  
 り観ると  
 其邊酒徒  
 廻る肉  
 捕菓  
 の群  
 と  
 と  
 と



京師

外城

卷之四

隆女寺 花見市の東南あり。眼の萬曆中蜀の諸侯某は之を築修して海去は堂と號し。後世隆女寺と稱す。念佛の法を弘め且早朝の禮を修す。佛の像あり。佛の像あり。佛の像あり。

廣源門 外城の東口也。義學 廣源門の内あり。雍正年間釋教の僧某は之を築修して海去は堂と號し。後世廣源門と稱す。念佛の法を弘め且早朝の禮を修す。佛の像あり。佛の像あり。佛の像あり。

育嬰堂 廣源門の内夕照寺の西あり。康熙元年育嬰堂と號す。師の内。嬰孩を養育する所也。佛の像あり。佛の像あり。佛の像あり。

夕照寺 萬柳堂の西あり。創建の年月未詳。寺の西あり。佛の像あり。佛の像あり。佛の像あり。

過夕照寺 萬柳堂の西あり。創建の年月未詳。寺の西あり。佛の像あり。佛の像あり。佛の像あり。

未僧院 愛幽清斜日軒意迥月明鐘磬不聞林鳥寂飽家詩唱古先生 藤田顯

拓花輝寺 即萬柳堂より廣源門の西あり。萬柳堂より西あり。佛の像あり。佛の像あり。佛の像あり。

萬柳堂陪讌益都公詩 古徐乾學

絲綸閣外唱彤騎攜客還為杜曲遊種樹

己成金澗勝鑿池初引玉泉涼綺堂晴帶

千峯秀碧宇雲開萬井秋醉吐車茵何足

道夕陽洗爵重淹留 森世黃書

法藏寺 霍家橋あり。寺内より高丈餘。佛の像あり。佛の像あり。佛の像あり。

文彩を陶以毛奇齡が萬柳堂の城あり。今寺中より園圍一頃

むらりけり。小山あり。即此の遺蹟を此の遺址なりと云

文彩を陶以毛奇齡が萬柳堂の城あり。今寺中より園圍一頃

むらりけり。小山あり。即此の遺蹟を此の遺址なりと云

文彩を陶以毛奇齡が萬柳堂の城あり。今寺中より園圍一頃

むらりけり。小山あり。即此の遺蹟を此の遺址なりと云

文彩を陶以毛奇齡が萬柳堂の城あり。今寺中より園圍一頃

むらりけり。小山あり。即此の遺蹟を此の遺址なりと云

文彩を陶以毛奇齡が萬柳堂の城あり。今寺中より園圍一頃

むらりけり。小山あり。即此の遺蹟を此の遺址なりと云

文彩を陶以毛奇齡が萬柳堂の城あり。今寺中より園圍一頃

むらりけり。小山あり。即此の遺蹟を此の遺址なりと云

とて遠りて七樂と奏凡金史の意とては、案燭の星のてく、香樂の聲中、彌着之、雲のハ、菩薩の末即り、終、京師乃宮民集り、祝、案、凡此寺令の天定り、剛、建、孫、院、と、景、泰、の、同、今、の、名、又、つ、た、い、門、道、多、が、碑、あり、道、ま、戒、壇、茅、一、代、の、戒、師、と、せ、慈、願、祖、師、と、稱、凡、

九安門 外燃南の。 ○五虎廟 法務寺の西あり、順治の初年、建、

蜀の五虎將軍、關羽、張飛、趙雲、馬超、黃忠の像を祀り、こゝ小ぢかき、依て、五虎廟、と、稱、し、以、

此寺仙露寺の講經比丘因秀、

用國男任師海が建るなり、

○華嚴寺 三轉橋あり、俗呼て橋寺と凡此地に魏村は、大市社、

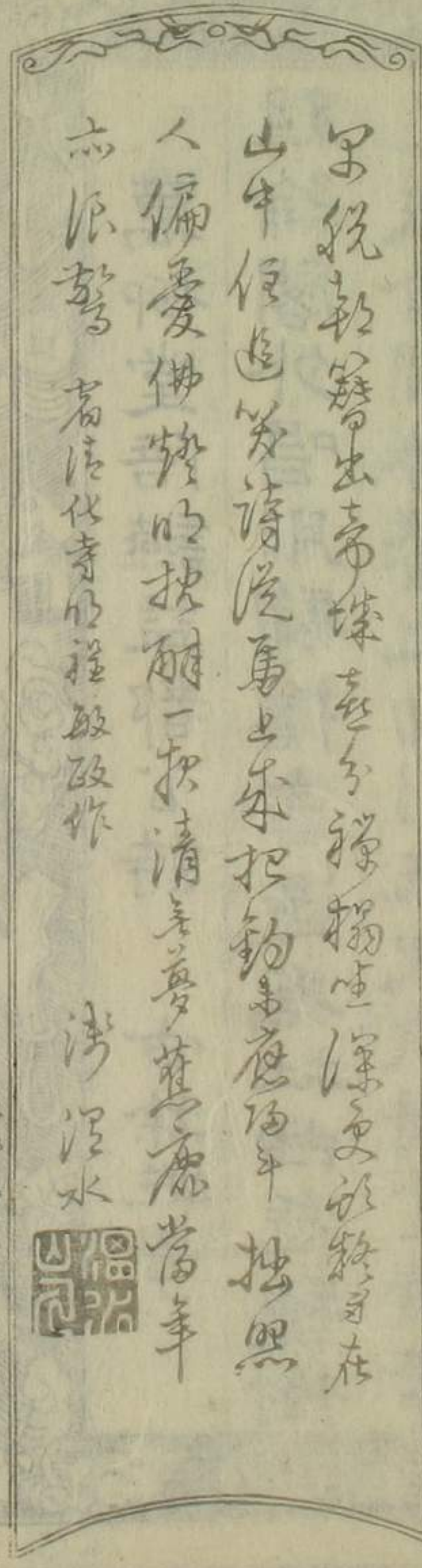
○開帝廟 正東坊三里河の南、

○清化寺 正東坊三里河の南、

○南嶽正指揮署 法化寺、

○明因寺 三里河の東あり、明の萬曆の初、

時を書せ、後海者、若の書あり、



○水濟橋 金皇書院の東あり、  
○金皇書院 金皇書院の東あり、  
○天慶寺 廣の西あり、  
○姚彬開王廟 金皇書院の東あり、  
○魚世源池 三里橋の東あり、  
○御製の碑あり、  
○魚世源池 三里橋の東あり、

端陽勝柳足飲嬉、  
傷損塘不歸、  
右王士頌、  
紀府龍江小田仲卿

金魚池



明の府三河の縣武河  
李偉之別業あり河水と  
て園中を流し茶葉を  
ひやく小舟と汎て池  
清澄以園中を梅を  
あり湖の石塔梅の  
下く傍の意のう其  
梅ありと門は梅り  
梅の取めは二画は  
と多し其外中用  
雲の及ひ紫紅赤  
梅の歌さるりの  
他を記しはしと梅  
乃梅ありあり流水  
ありと梅あり流水  
梅と記しはしと梅  
亭あり水園を  
教百間の長廊あり水  
を小亭とつり梅あり



小橋行過柳溪灣  
為訪園亭竟日間  
出郭已知依綠水  
登樓更喜見青山  
寒泉落木疑邱  
瘦馬深衣自往還  
刺米東籬尋舊約  
君應無夢到塵寰

李園小集

小橋行過柳溪灣  
為訪園亭竟日間  
出郭已知依綠水  
登樓更喜見青山  
寒泉落木疑邱  
瘦馬深衣自往還  
刺米東籬尋舊約  
君應無夢到塵寰

明劉同升詩



东小市

本堂協の南の際に十餘畝あり此不日寅卯の海潮市を其交易せり物成り而さるあり...

南宮东南一守備里

松志廟

東小市の西の康州同は建門外素槍松林にあり...

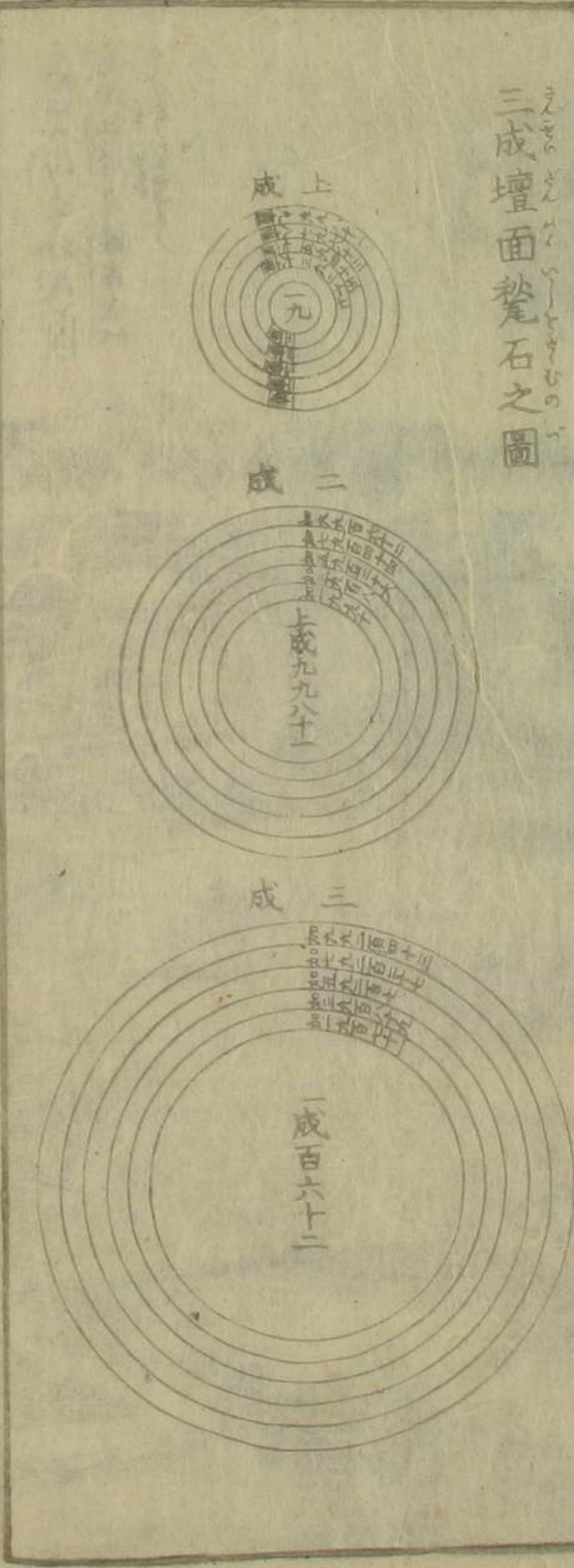
天壇

正陽門外永定門の東にあり...

三成壇

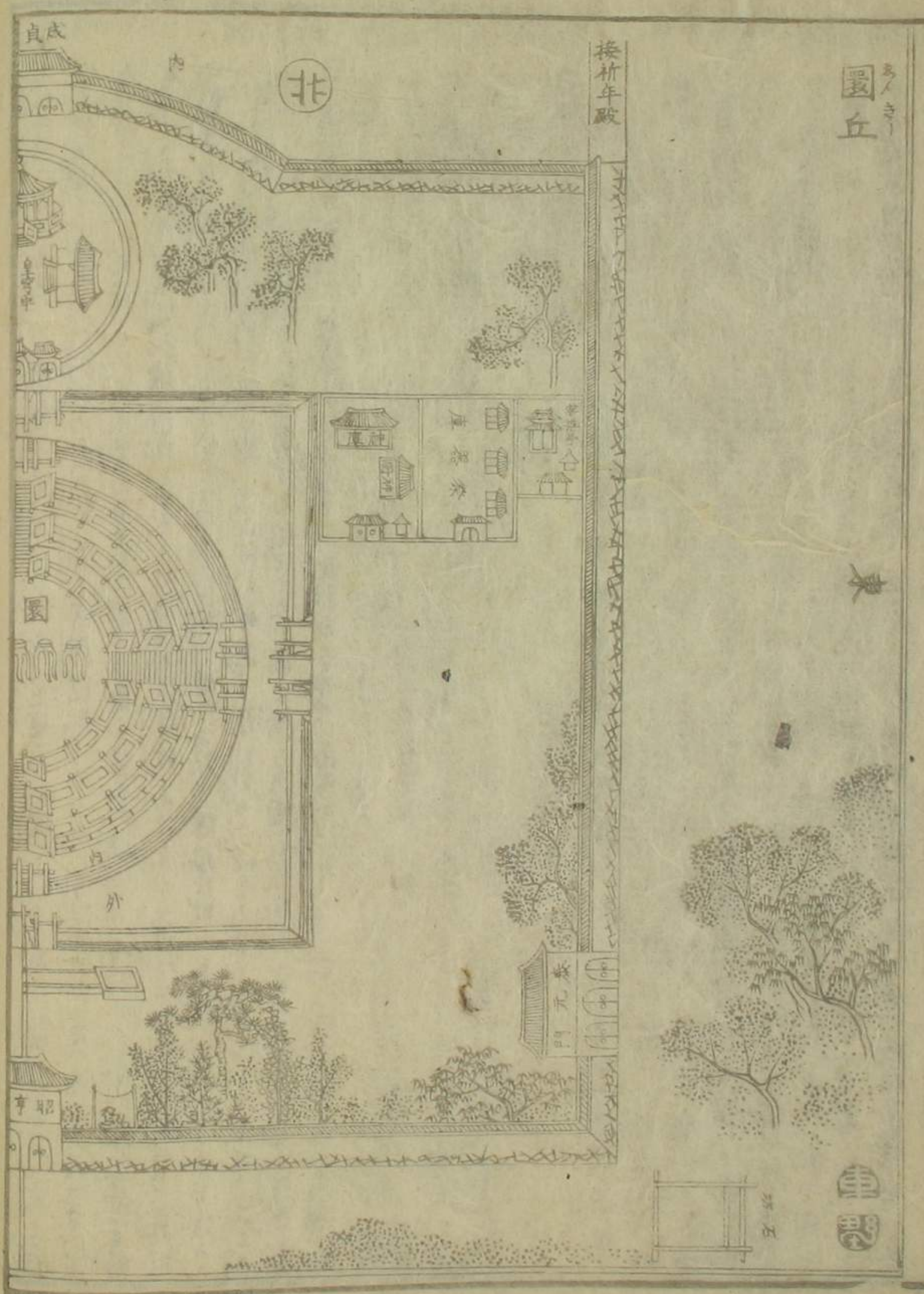
天壇の南にあり...

三成壇面堯石之圖



上成三成壇... 一圓七百六十二... 一圓九百九十二... 一圓九百九十二... 皇宮... 祈年殿... 皇乾殿... 祈年殿内遂の東門外は七十二間...

園丘

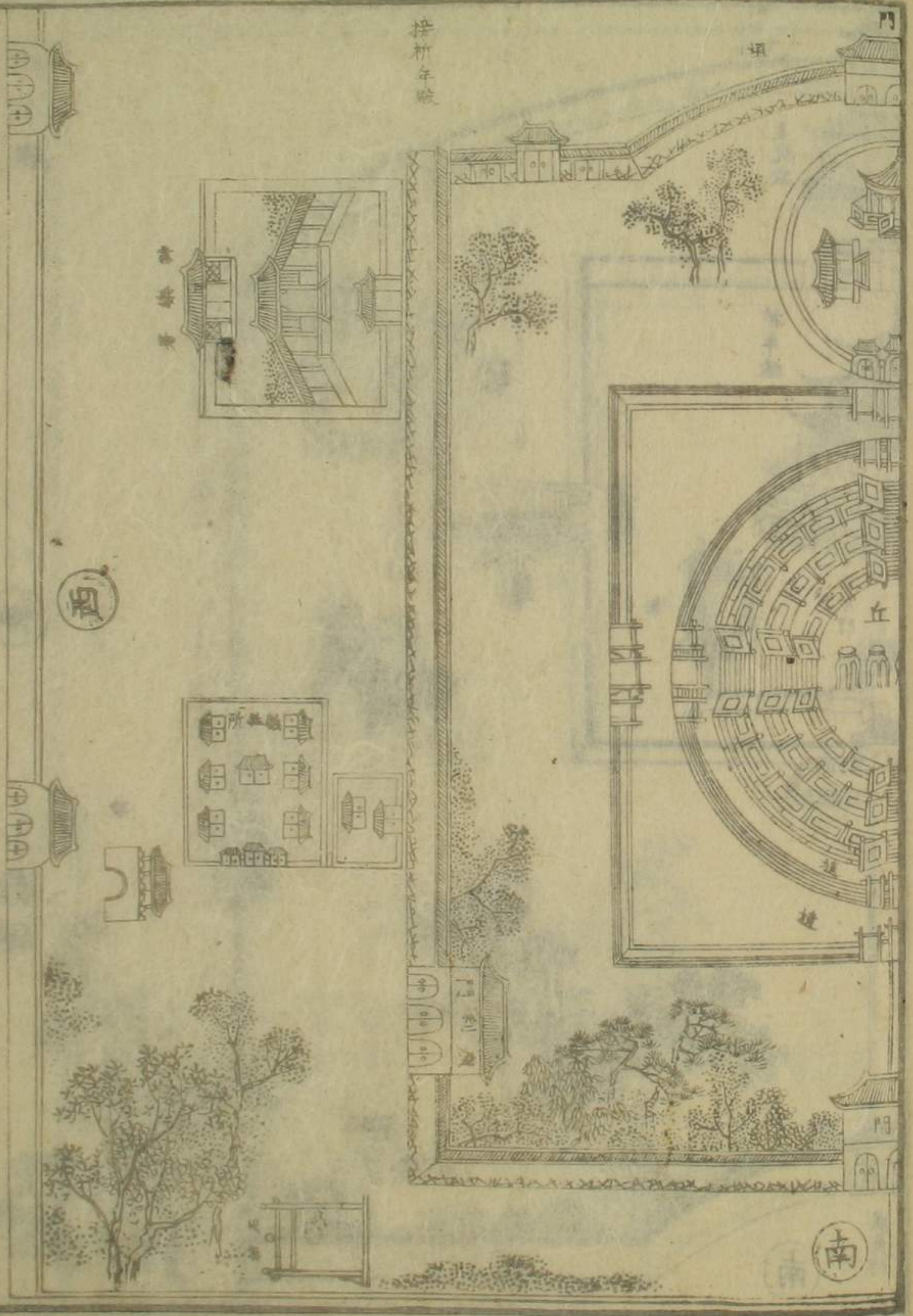


東

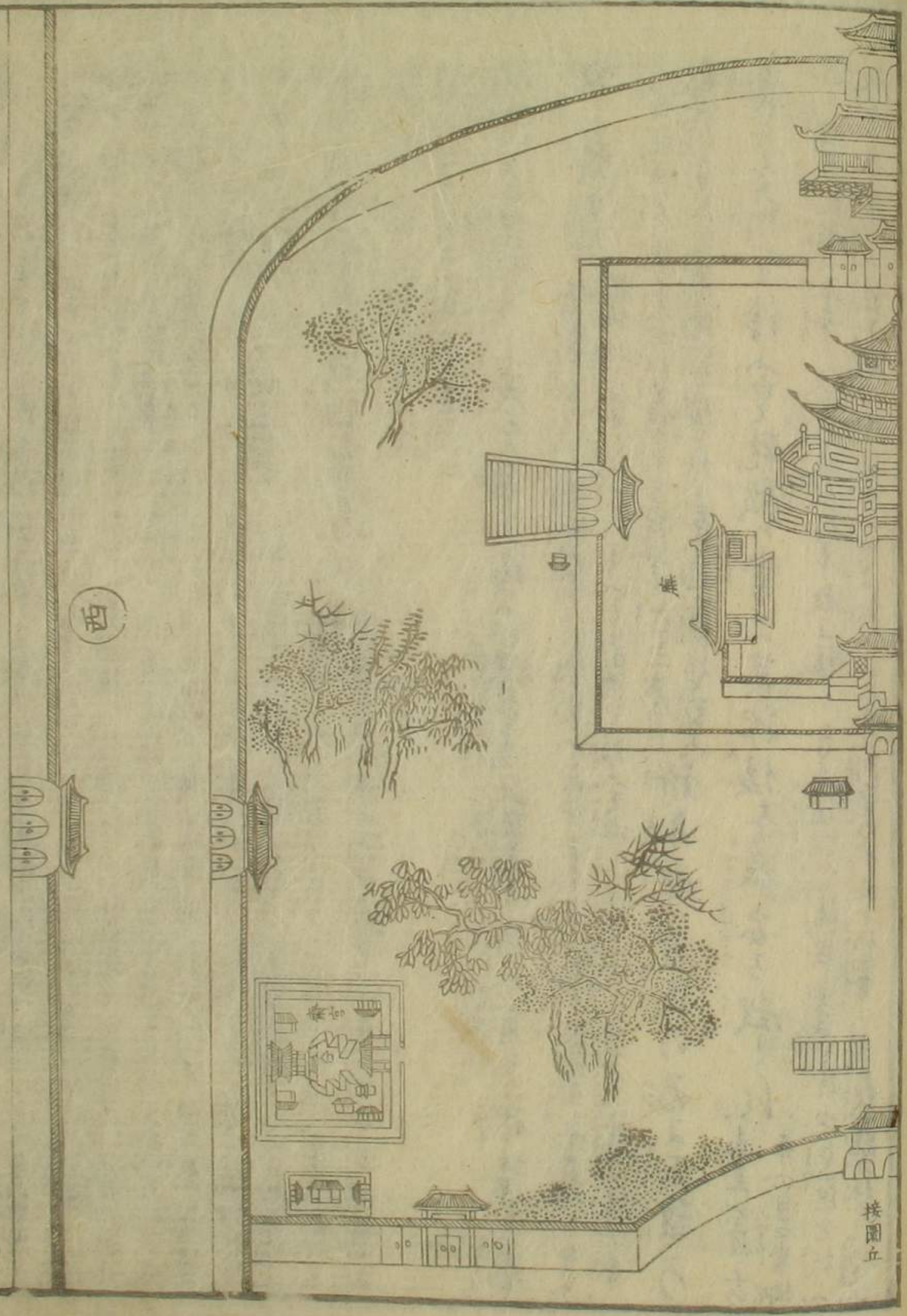
京師

外垣

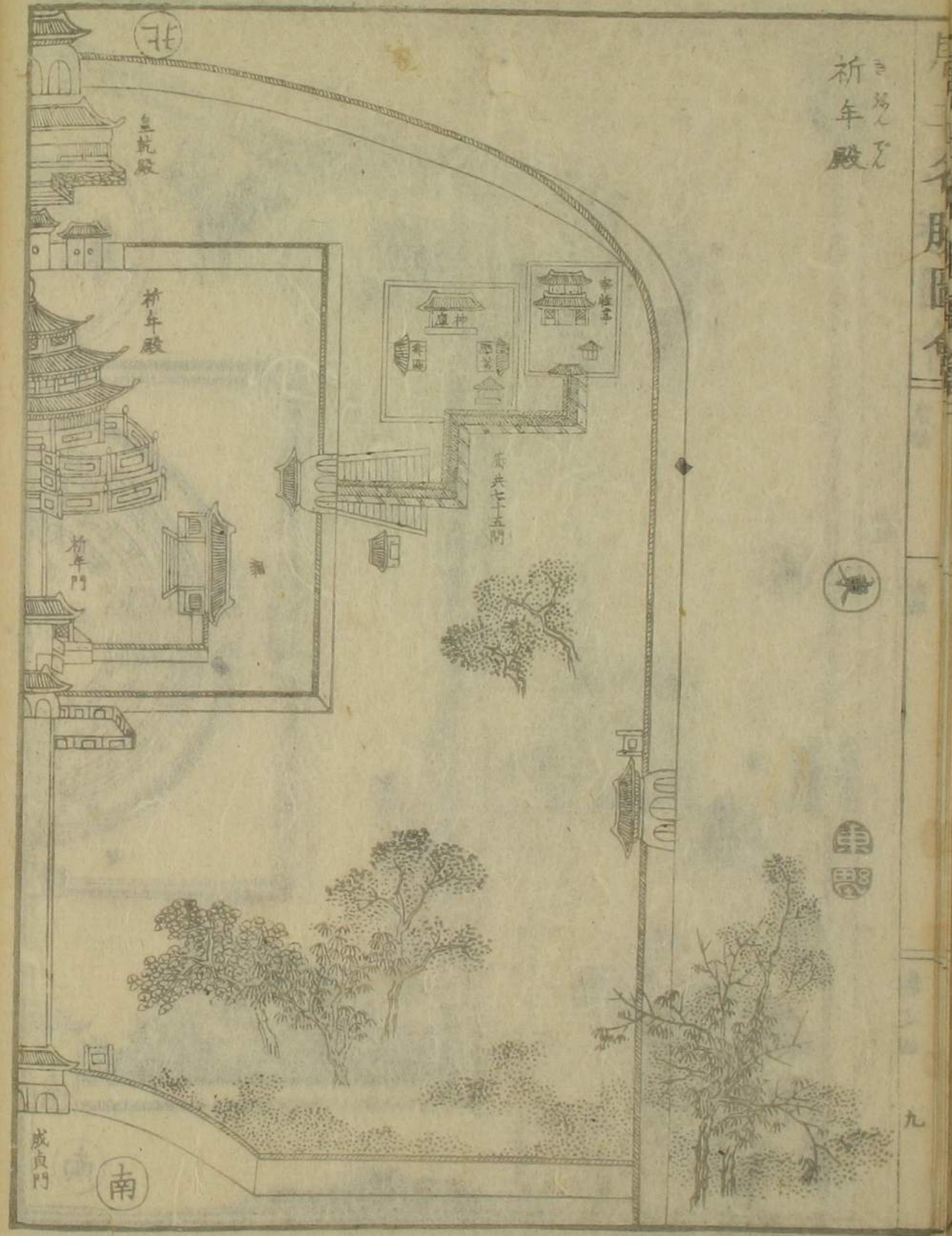
卷之四



東



祈年殿





齋宮 本真門外乾殿外園の内西南の隅ありて南へ向ふ正殿殿と内回廊小基石周東西三の階あり其階の南に齋戒神人の石亭と設け右に時辰碑の石亭一を設けり。〇殿殿と

八間、北に死殿者三間あり。〇内宮の階上六百二十二丈九尺六寸あり申三門を右に隔て外は池とあり。〇殿殿と

深三と架し、北を石の梁と架せり。又階内西北の隅に鐘樓一あり。〇外宮階上六百九十八丈三寸あり。以

東廊をめぐり、北を三間、外階又

池とあり。〇官門石階内階と同じ。 祿所門 祿所門の南ありて南へ向ふ。〇三間、房九十三間、中を儀物

庫ありて中を御り。 園丘竹竿殿者二園恒二重なり。 内高二丈二尺、周二丈八寸、外高二丈一尺

〇西へ向ふ二門を南へ向ふ

至り。〇西へ向ふ二門を南へ向ふ

〇西へ向ふ二門を南へ向ふ

〇西へ向ふ二門を南へ向ふ

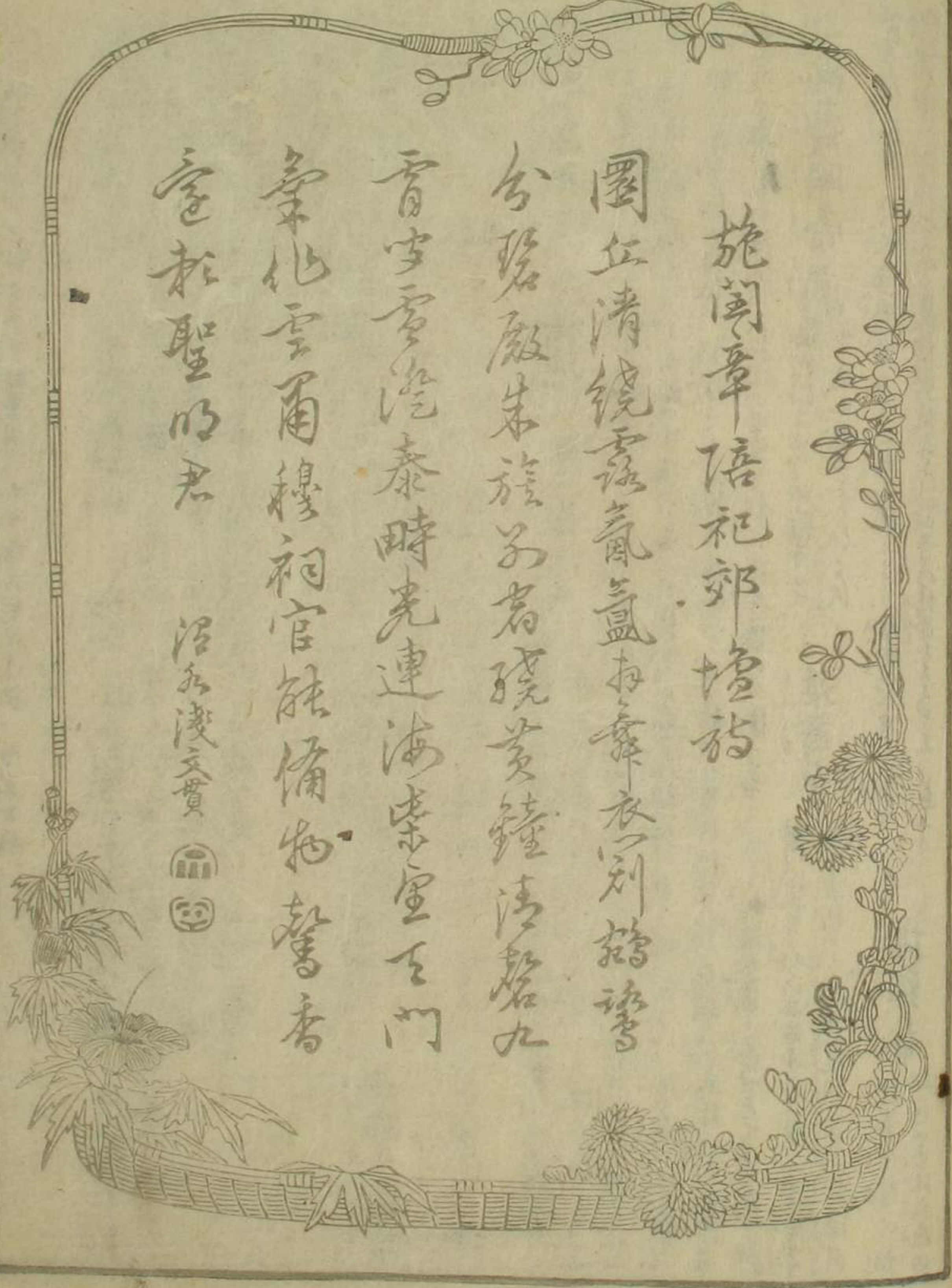
〇西へ向ふ二門を南へ向ふ

〇西へ向ふ二門を南へ向ふ

### 施園章陪祀郊壇祐

園丘清繞露氣盈  
分碧殿朱旌  
宵宮雪澄泰時光  
祭他雲雨穆祠官  
庭於聖明君

沿水淺文貫



京師土脈少甘泉願諸春芽証費煎只有天壇石盤好清波一勺買十錢

右 竹枝詞

鳴門錄

在王頂竹枝詞の記あり言京師の母水鹹くして飲べず以此天壇の井を味ひて甘しきなり此証あり居人皆汲て日用に用へ○天壇に龍蟠菜茶茶母茶生羽子とを搦りて膏と名は餅料は焦り效あり  
永定門 外城正南の門なり○外城内城を併せ北西中南の四城あり永定門の東城あり南城あり西城あり中城あり屬此城の正南を中城南城なりと云ふ也

外城之西

○西月牆 正陽門外月牆の西門ありて正陽橋より其形扇の如く正陽大街西側市房の後方り裡街は市屋旅店或は高販或は優伶叢集乃所

やと東城よりと尚殊は好小華なり 其樹の名は珠玉と名は食店と名は南の市房なり

○延壽寺 西河沿ふあり此寺を中城心城の寺といふ

○萬壽閣帝廟 西河沿ふあり此廟を中城心城の寺といふ

○提頭巷 親善寺街の後

○大居士朱文英軼邸 煤市街

○大居士文貞邸 西橋市大

○大居士文貞邸 西橋市大

○大居士文貞邸 西橋市大

○大居士文貞邸 西橋市大

○大居士文貞邸 西橋市大

○大居士文貞邸 西橋市大

○大居士文貞邸 西橋市大

○大居士文貞邸 西橋市大

○大居士文貞邸 西橋市大

○大居士文貞邸 西橋市大

○大居士文貞邸 西橋市大

○大居士文貞邸 西橋市大

○大居士文貞邸 西橋市大

○大居士文貞邸 西橋市大

○大居士文貞邸 西橋市大

○大居士文貞邸 西橋市大

過梁家園憶昔遊  
此地是烟水當年笑迎遊故人皆留草草新  
又驚秋門冷氣結霜雪今夕驚心永懷川  
上歎逝水竟心二 一廿夏日四郡公世

京師

外城

卷之四

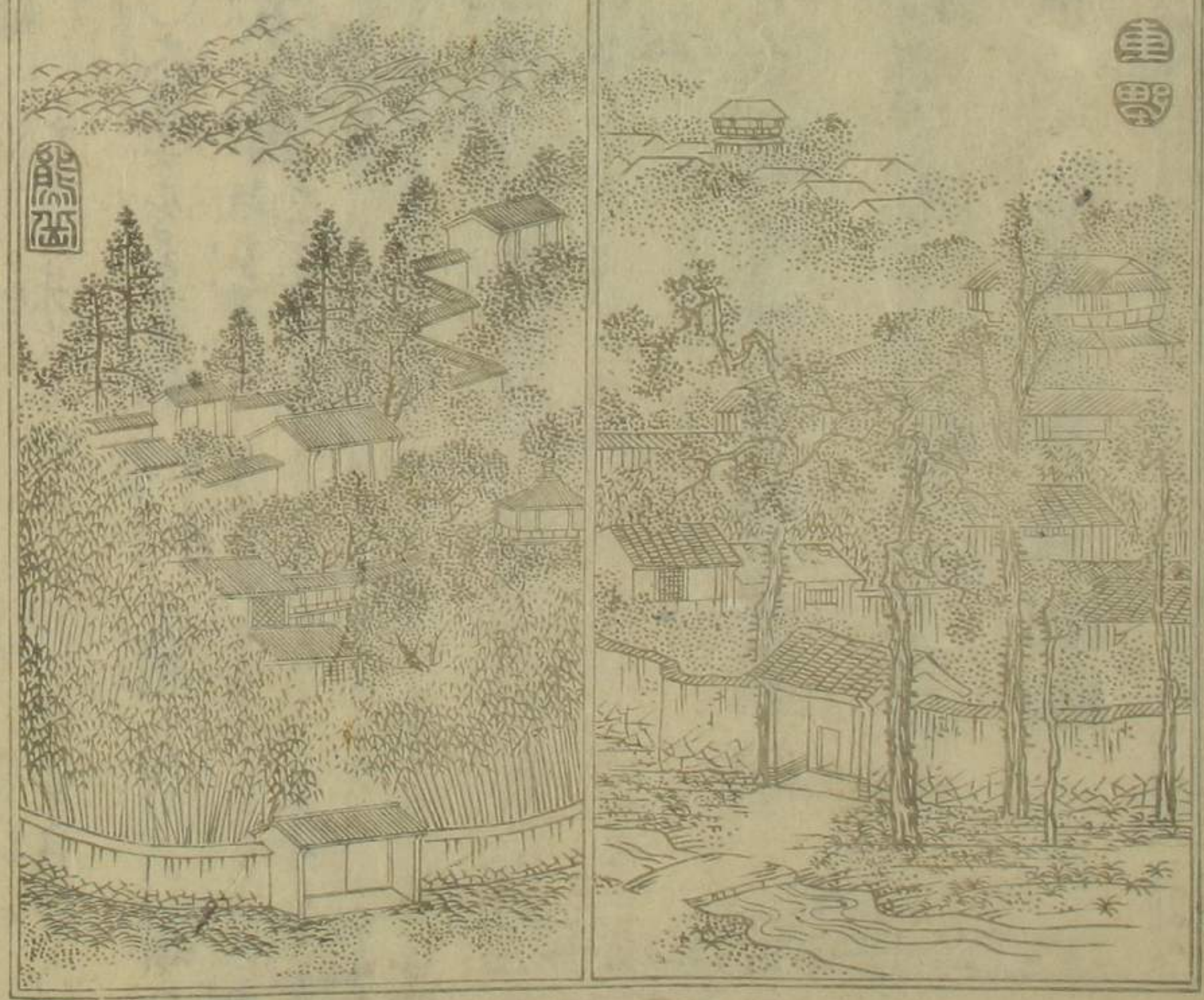
其地村之寓居、虎坊橋、乃小橋、  
深、水、深、照、之、同、湖、如、  
此、寓、以、曾、て、縣、と、集、む、其、の、  
中、也、

旁人錯比楊雄宅  
異代應教度信居  
此れをいふ、  
て、  
懸、く

孫少宰兼澤、故居、  
橋の西あり、  
衣、て、孫、公、  
懸、く

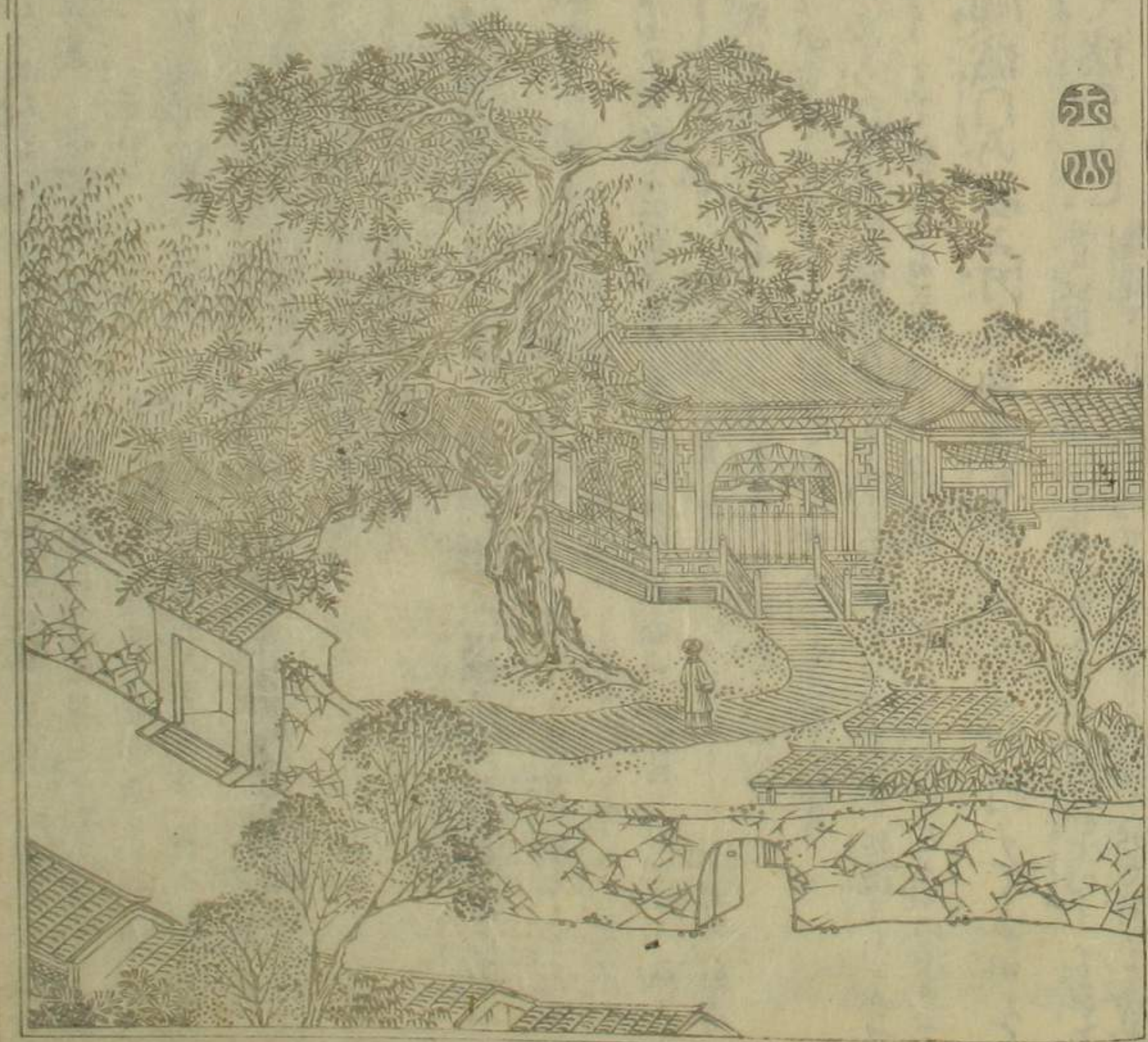
朱彙草集孫侍即研山  
齋詩

勝序愁和松高、  
近許過、  
圖書留客、  
少花藥、  
閉門多、  
興每耽、  
此、  
整衣、  
徒、  
挂、  
薛、  
蘿、  
千秋、  
論、  
述、  
作、  
出、  
憂、  
本、  
同、  
科



鐵老鶴廟

慶、  
之、  
僅、  
一、  
攝、  
同、  
帝、  
と、  
記、  
し、  
殿、  
の、  
特、  
妙、  
の、  
上、  
に、  
鐵、  
七、  
制、  
を、  
懸、  
置、  
を、  
没、  
く、  
風、  
を、  
去、  
り、  
て、  
旋、  
將、  
是、  
屋、  
上、  
に、  
も、  
の、  
粟、  
と、  
を、  
防、  
ぐ、  
ら、  
に、  
没、  
す、  
又、  
庭、  
を、  
に、  
槐、  
り、  
古、  
樹、  
あり、  
明、  
の、  
嘉、  
靖、  
甲、  
寅、  
割、  
澤、  
が、  
碑、  
あり、  
萬、  
曆、  
庚、  
子、  
の、  
年、  
送、  
り、  
た、  
る、  
瀟、  
一、  
宮、  
今、  
も、  
あり、  
也、



○永光寺

唐の聖武天皇の御代に造られたる寺なり。唐の聖武天皇の御代に造られたる寺なり。唐の聖武天皇の御代に造られたる寺なり。

○松筠潭林

唐の聖武天皇の御代に造られたる寺なり。唐の聖武天皇の御代に造られたる寺なり。唐の聖武天皇の御代に造られたる寺なり。

○琉璃殿

唐の聖武天皇の御代に造られたる寺なり。唐の聖武天皇の御代に造られたる寺なり。唐の聖武天皇の御代に造られたる寺なり。

○三忠祠

唐の聖武天皇の御代に造られたる寺なり。唐の聖武天皇の御代に造られたる寺なり。唐の聖武天皇の御代に造られたる寺なり。

○順城門

唐の聖武天皇の御代に造られたる寺なり。唐の聖武天皇の御代に造られたる寺なり。唐の聖武天皇の御代に造られたる寺なり。

洗象観る者兩岸よりきて傍のてし

唐の聖武天皇の御代に造られたる寺なり。唐の聖武天皇の御代に造られたる寺なり。唐の聖武天皇の御代に造られたる寺なり。

洗象行

王士禎

水關蒼々柳陰碧寶馬流蘇分絡緯日中傳呼洗象來  
玉河波駐珊瑚志頂更鉦鼓于雲霄萬丈聲奔奔如秋宵帝毛  
靈奴踞象頂邱山不動何岩峩岸邊突兀二十四直下波濤美崩  
墜縱橫欲蹴毫鼉宅騰達還成鴉鶴隊乍如昆明習門戰  
萬乘旌旗眼中見又如列陣昆陽城雷雨行天鬼神驚馬奴子  
胡旋氣道壯忽沒中流躍巨浪撒波一躍萬人呼蟠地却出層  
霄上今年宰相收夜郎技南盤况求王章遠隨方物貢  
天關屹然立仗金塔高聖朝自不貴異物致此心足威避  
荒黃門鼓吹暮復動海立山松呼浩洶大秦獅子多  
威神山林豈是天家珍 春嶽鼎新書 圖 圖

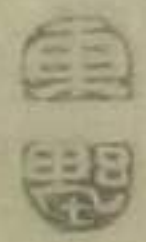
洗象



京師

外城

卷之四



洗象要具



牛の角にて造り、象牙の皮にて  
其の進退を令ん

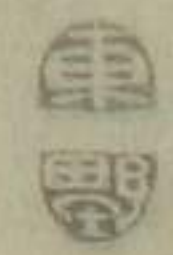


牛の角にて制  
徳行と按て其の  
脚を極むくを制ん

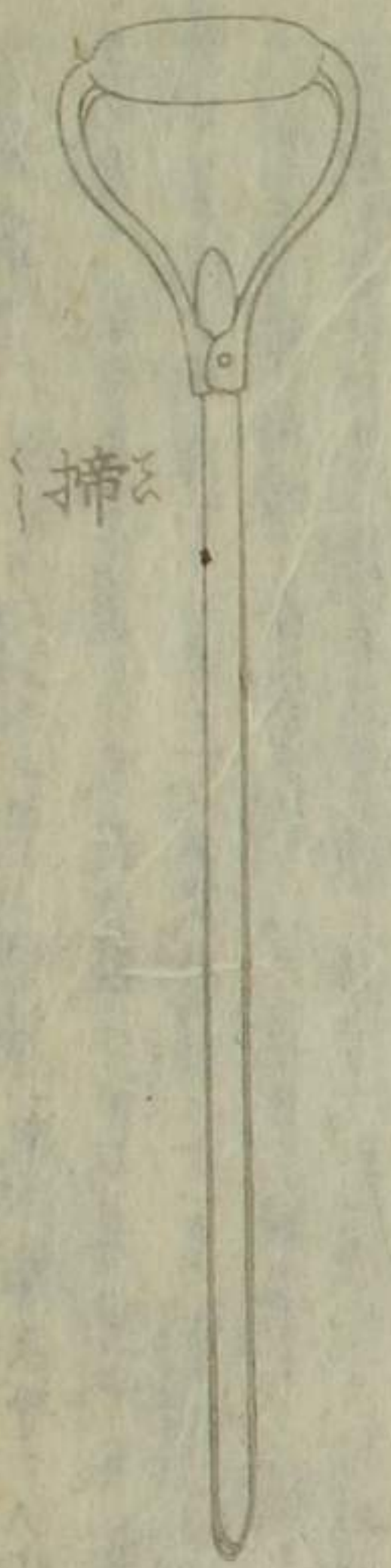
洗象全圖



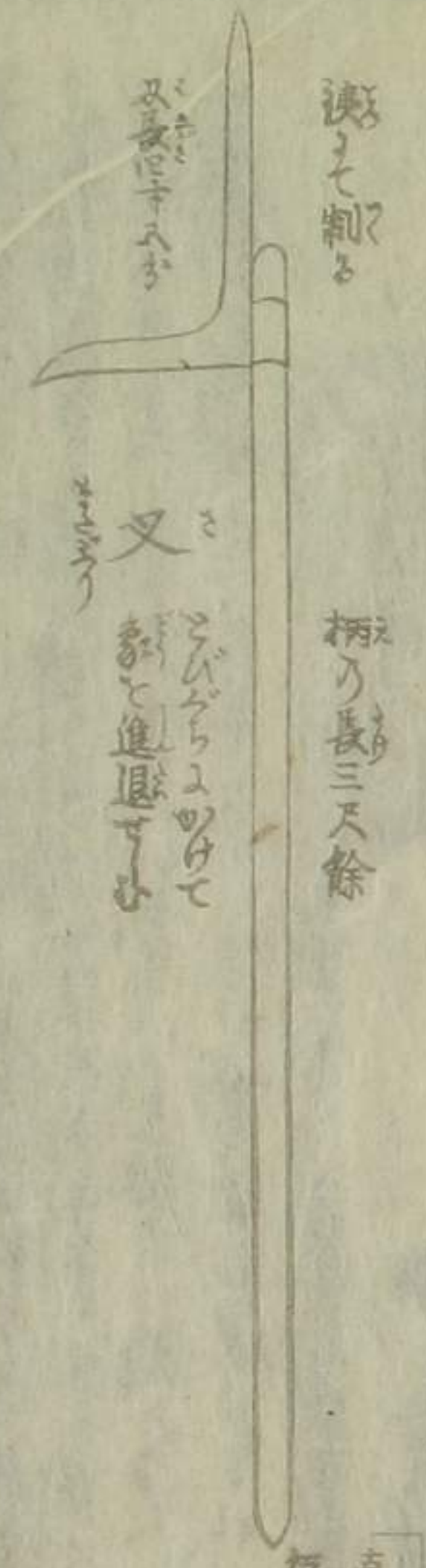
概  
河内にて造り、象牙の皮にて造り、象牙の皮にて造り



鉄制九寸計



掃



叉

その口を以て  
象の進退を令ん



箆

象の進退を令ん

耳鉤

象の耳を以て、其の柄を以て、象の進退を令ん

頸索



其の口を以て、象牙の皮にて造り、象牙の皮にて造り

○長椿寺

長椿寺の殿宇は、明の憲宗皇帝遷て以て水齊禪師と居りしに、沐小童帝、即  
二の廟と建中宮を遣して、これに監し、り、奉寧中布施の令を假して、これに備へ、  
遂に多量の佛塔あり、高二丈八尺、乾隆二十一年重修せり、是にて、  
大殿の素、佛画像十餘幅と納り、其中二幅、其の像と、  
三の殿と、きりて九蓮菩薩之後と、額せり、是れ、  
其、姿、天人の如く、額、昆盧閣と、  
下、  
臺、

李太后之位牌



劉太后之像



○都土地廟

土地廟、斜樹あり、元代の花君堂也、  
毎月三月十三日、二十三日、は、  
○鹹園

○鹹園

度寧門大樹の心、  
あり、

遊王大中丞園林

毛奇齡

攬勝竟在園入門生隱心、  
阿摩天、  
何内、  
中、

○大慈仁寺

大慈仁寺の殿宇、  
乾、  
移、  
手、  
覺、  
又、  
手、  
○廣德寺

○廣德寺

廣德寺の殿宇、  
多、

○歸美寺

歸美寺の殿宇、

○歸美寺

歸美寺の殿宇、

○西城夏月署

西城夏月署の殿宇、

西伎門

西伎門の殿宇、

○朱竹院寓居

朱竹院寓居の殿宇、

けし移相帽出標鞋隨分琴書占小齋  
 老古逢去去倍借為貪花市任科  
 街 朱竹徑移居掩市 藍染博 田 田

廣寧門 外城の西門なり元代

○古林院 白紙坊あり蓋里社河あり

右安門 外城南の西あり

○聖山安寺 午街の南有寺樹あり金代建

○寄園 某の西南教子湖ありあり唐熙寧間戶科給中第者士劉崇令尚書

屋角時同樂晚橋土橋一帶任周適行人欲語詩人寓危樹邨邊茅二家  
 茗垣舊刺玲瓏向土室新安曲盡林莫話寄園全盛事酒旗歌扇已滄涼

○順忠寺 某市の西南順忠廟の西あり唐の貞觀十九年

帝御書の額及び御製法源寺の碑あり又乾道十三年を修ありて御書の額及び御製法源寺の碑あり

○東の法坊得々者魏天祐の徳ありて何れ也

○水月潭院 某の西あり

○山莊清沐駐驂驛曲徑通街出巷南繞到射堂門啟處門紗映出一山藍毛奇齡



○大學士陳文簡公

德西謂曰... 魏正朔曰... 魏正朔曰...

○關帝廟

魏正朔曰... 魏正朔曰...

○張相公廟

魏正朔曰... 魏正朔曰...

○元帝廟

魏正朔曰... 魏正朔曰...

○晉陽菴

魏正朔曰... 魏正朔曰...

魏正朔曰... 魏正朔曰...

魏正朔曰... 魏正朔曰...

魏正朔曰... 魏正朔曰...

魏正朔曰... 魏正朔曰...

魏正朔曰... 魏正朔曰...

魏正朔曰... 魏正朔曰...

魏正朔曰... 魏正朔曰...

魏正朔曰... 魏正朔曰...

崇岡突兀南城水  
 信如雙闕美差佳  
 雲霧橫風雲  
 燕趙悲歌終古情  
 况有酒又日會  
 合一初便  
 醉荆鉞  
 白日入黑雲  
 殿登高  
 晚傳  
 中衛錄

黒密廠  
一ノ空基  
と名づく

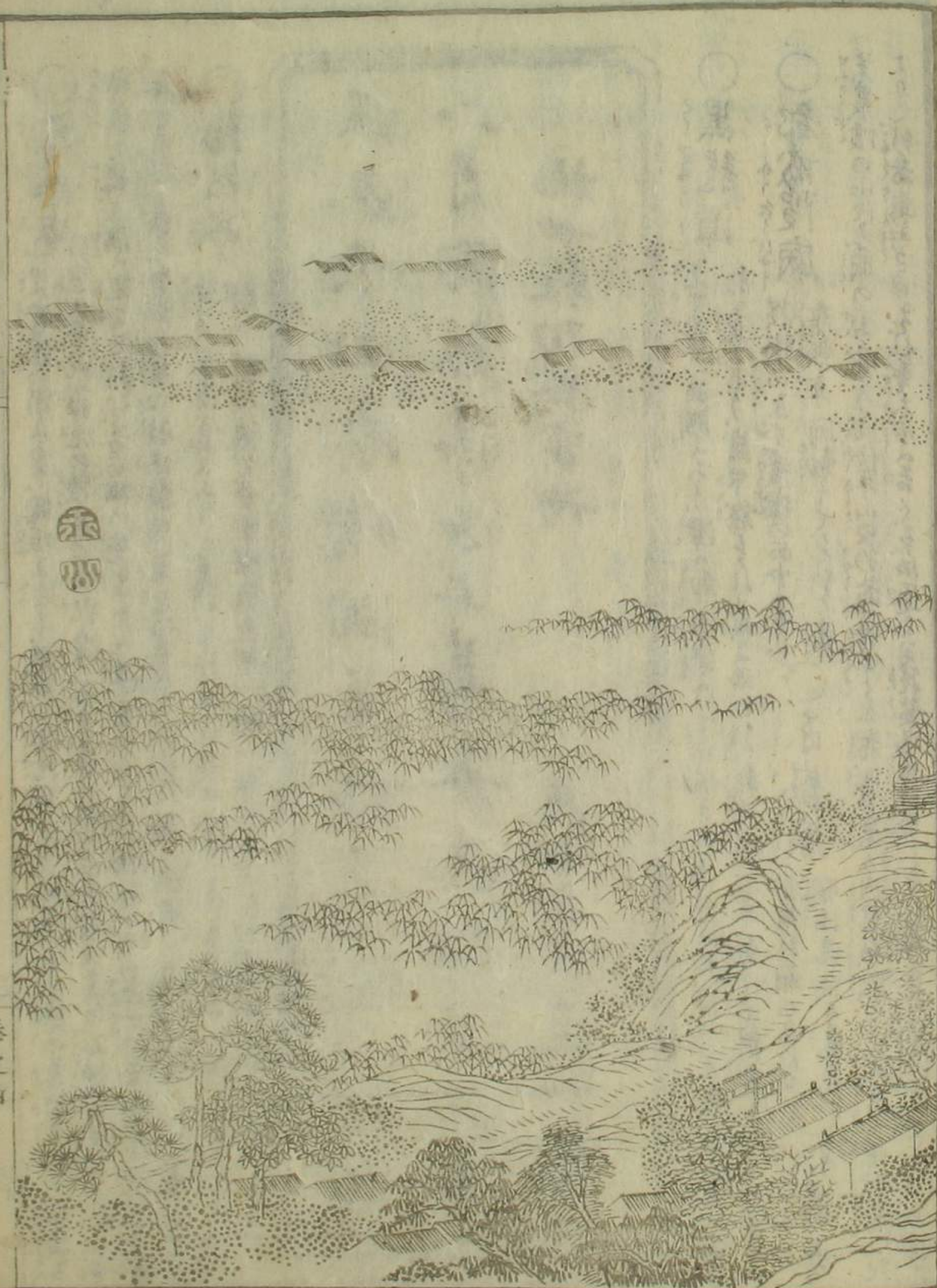


京師

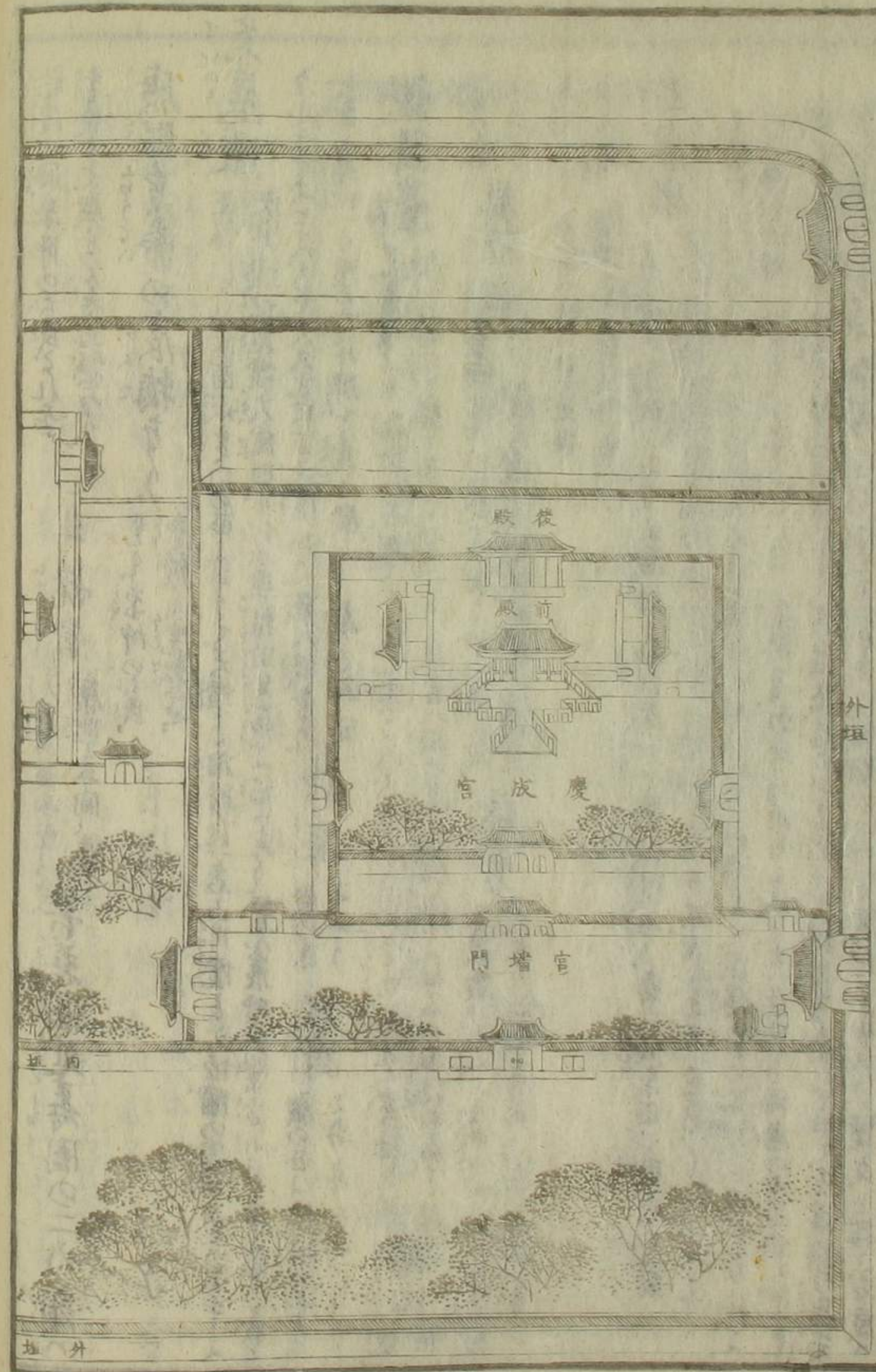
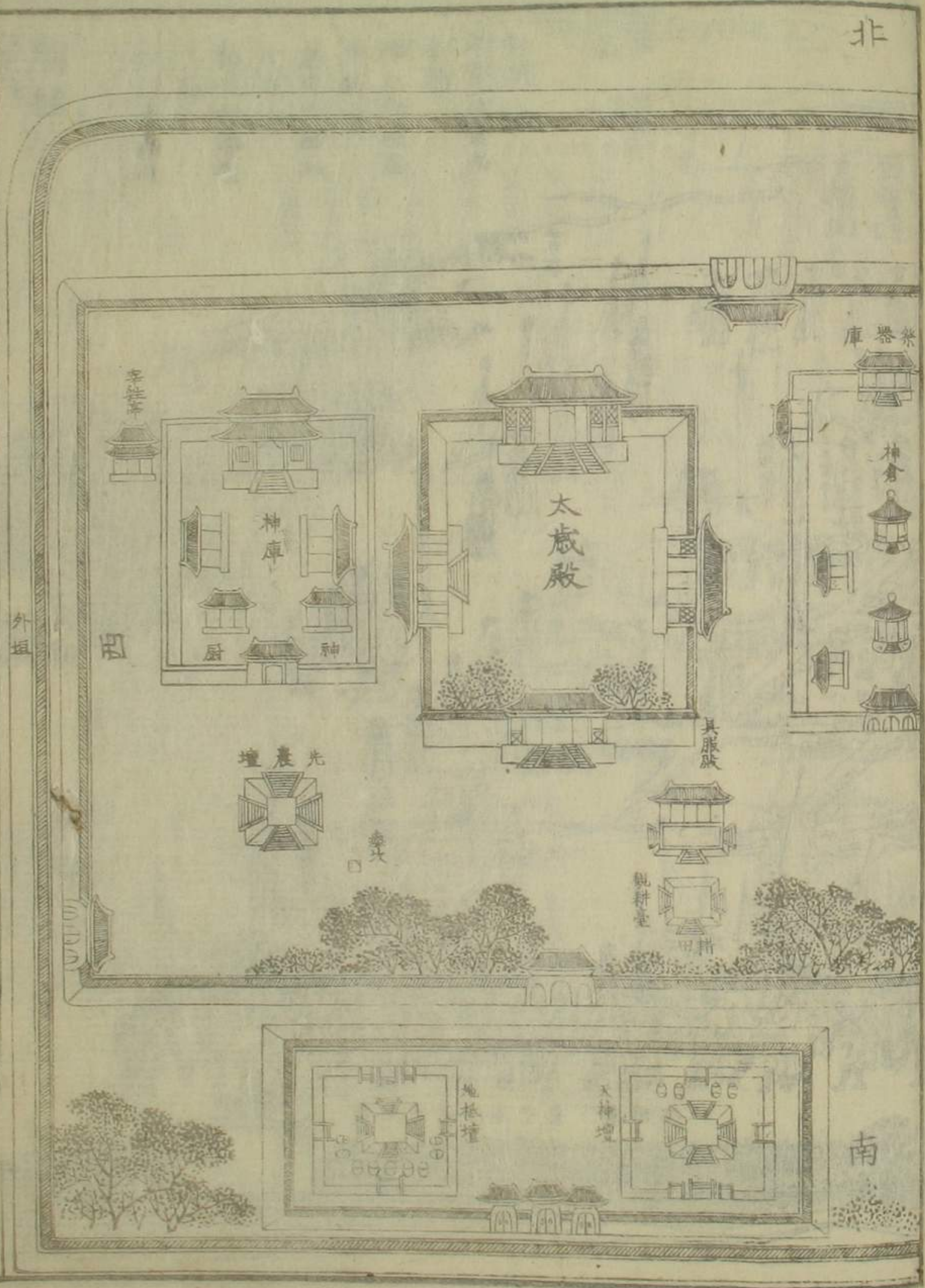


外城

卷之四

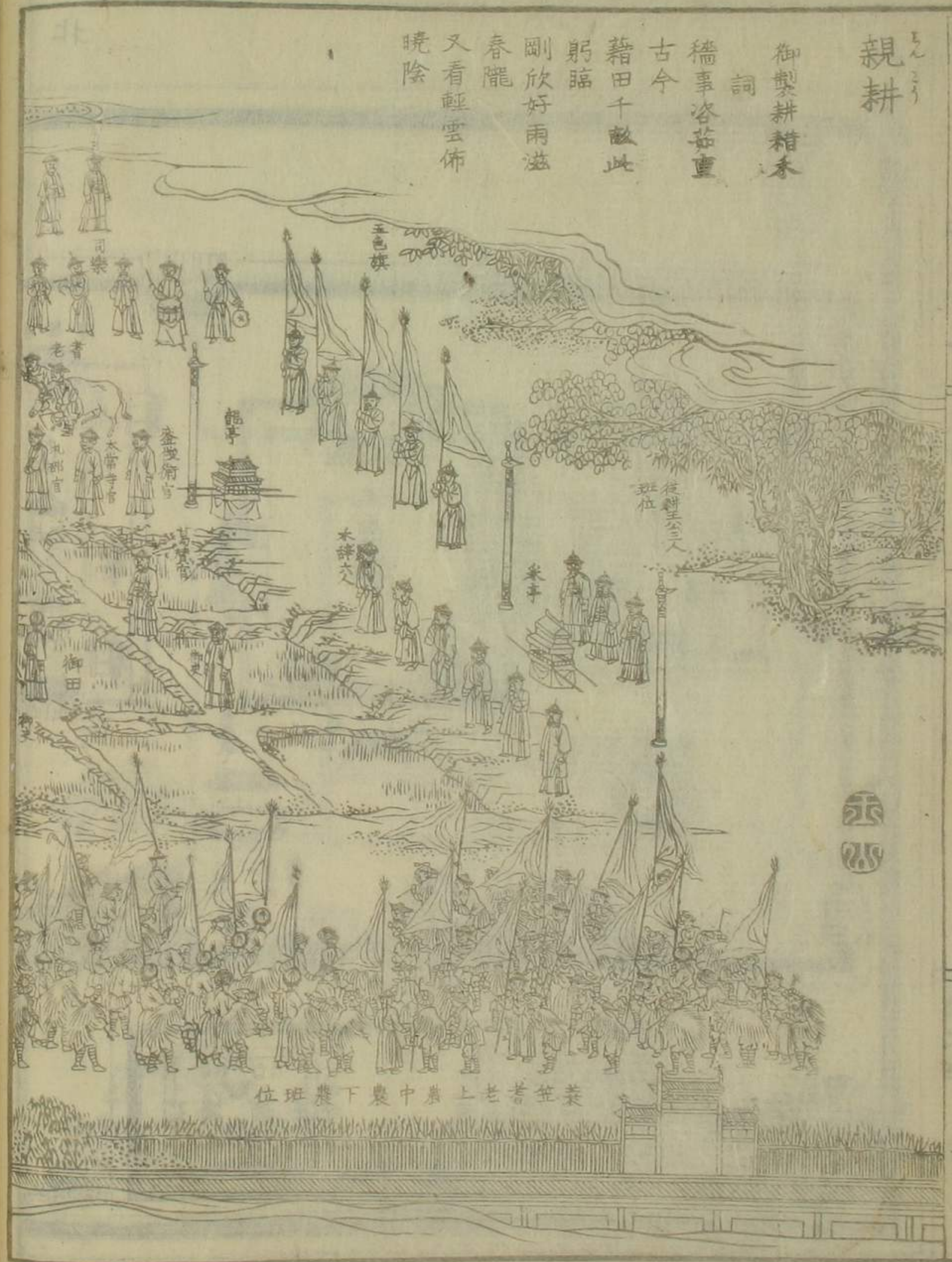






親耕

御製耕藉永  
穡事咨茹重  
古今  
藉田千畝此  
躬臨  
剛欣好雨滋  
春隴  
又看輕雲佈  
曉陰



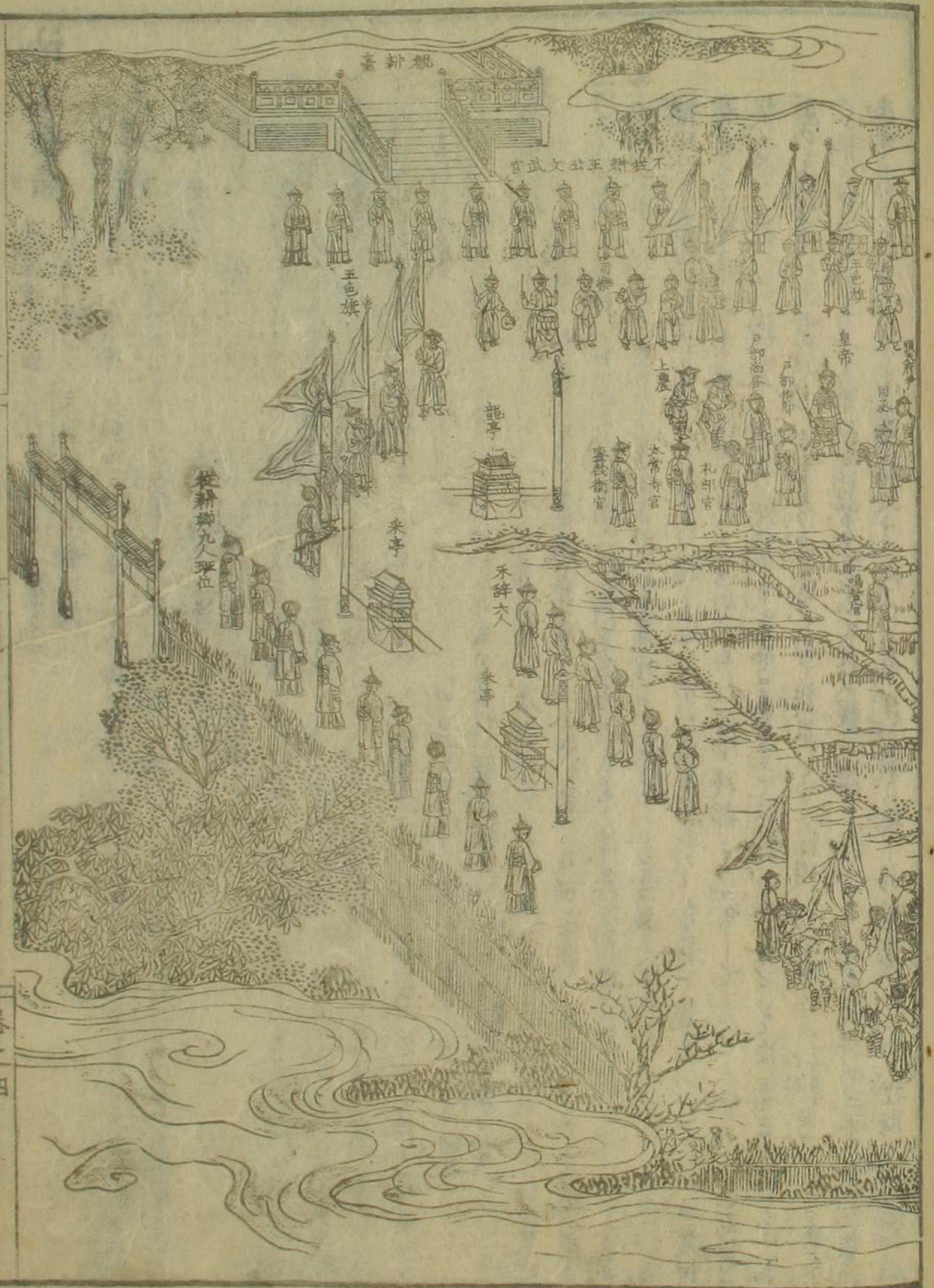
位班農下農中農上老耆筮莠



京師

外城

卷之四



神祇壇

神祇壇の内庭の外東南より西南より  
の門あり。壇の内天津地祇の二壇と誤り。

天津壇

天津壇の制方より南より北とす。高き五丈五尺の階の階  
あり。壇の中心より北の石龍にそそげ、雲散と稱し、より高き九丈三寸五分、手而風雷の津と  
あり。内庭方二十に六の入り又す。壇の西南より北より三門あり。

地祇壇

地祇壇の制方より南より北とす。高き五丈五尺の階の階  
あり。壇の中心より北の石龍にそそげ、雲散と稱し、より高き九丈三寸五分、手而風雷の津と  
あり。内庭方二十に六の入り又す。壇の西南より北より三門あり。

慶成宮

慶成宮の制方より南より北とす。高き五丈五尺の階の階  
あり。壇の中心より北の石龍にそそげ、雲散と稱し、より高き九丈三寸五分、手而風雷の津と  
あり。内庭方二十に六の入り又す。壇の西南より北より三門あり。

三門

三門の内、東門は外宮の南より北とす。高き五丈五尺の階の階  
あり。壇の中心より北の石龍にそそげ、雲散と稱し、より高き九丈三寸五分、手而風雷の津と  
あり。内庭方二十に六の入り又す。壇の西南より北より三門あり。

精田

精田の制方より南より北とす。高き五丈五尺の階の階  
あり。壇の中心より北の石龍にそそげ、雲散と稱し、より高き九丈三寸五分、手而風雷の津と  
あり。内庭方二十に六の入り又す。壇の西南より北より三門あり。

後

後の制方より南より北とす。高き五丈五尺の階の階  
あり。壇の中心より北の石龍にそそげ、雲散と稱し、より高き九丈三寸五分、手而風雷の津と  
あり。内庭方二十に六の入り又す。壇の西南より北より三門あり。

奉

奉の制方より南より北とす。高き五丈五尺の階の階  
あり。壇の中心より北の石龍にそそげ、雲散と稱し、より高き九丈三寸五分、手而風雷の津と  
あり。内庭方二十に六の入り又す。壇の西南より北より三門あり。

其

其の制方より南より北とす。高き五丈五尺の階の階  
あり。壇の中心より北の石龍にそそげ、雲散と稱し、より高き九丈三寸五分、手而風雷の津と  
あり。内庭方二十に六の入り又す。壇の西南より北より三門あり。

其

其の制方より南より北とす。高き五丈五尺の階の階  
あり。壇の中心より北の石龍にそそげ、雲散と稱し、より高き九丈三寸五分、手而風雷の津と  
あり。内庭方二十に六の入り又す。壇の西南より北より三門あり。

其

其の制方より南より北とす。高き五丈五尺の階の階  
あり。壇の中心より北の石龍にそそげ、雲散と稱し、より高き九丈三寸五分、手而風雷の津と  
あり。内庭方二十に六の入り又す。壇の西南より北より三門あり。

其

其の制方より南より北とす。高き五丈五尺の階の階  
あり。壇の中心より北の石龍にそそげ、雲散と稱し、より高き九丈三寸五分、手而風雷の津と  
あり。内庭方二十に六の入り又す。壇の西南より北より三門あり。

其

其の制方より南より北とす。高き五丈五尺の階の階  
あり。壇の中心より北の石龍にそそげ、雲散と稱し、より高き九丈三寸五分、手而風雷の津と  
あり。内庭方二十に六の入り又す。壇の西南より北より三門あり。

其

其の制方より南より北とす。高き五丈五尺の階の階  
あり。壇の中心より北の石龍にそそげ、雲散と稱し、より高き九丈三寸五分、手而風雷の津と  
あり。内庭方二十に六の入り又す。壇の西南より北より三門あり。

其

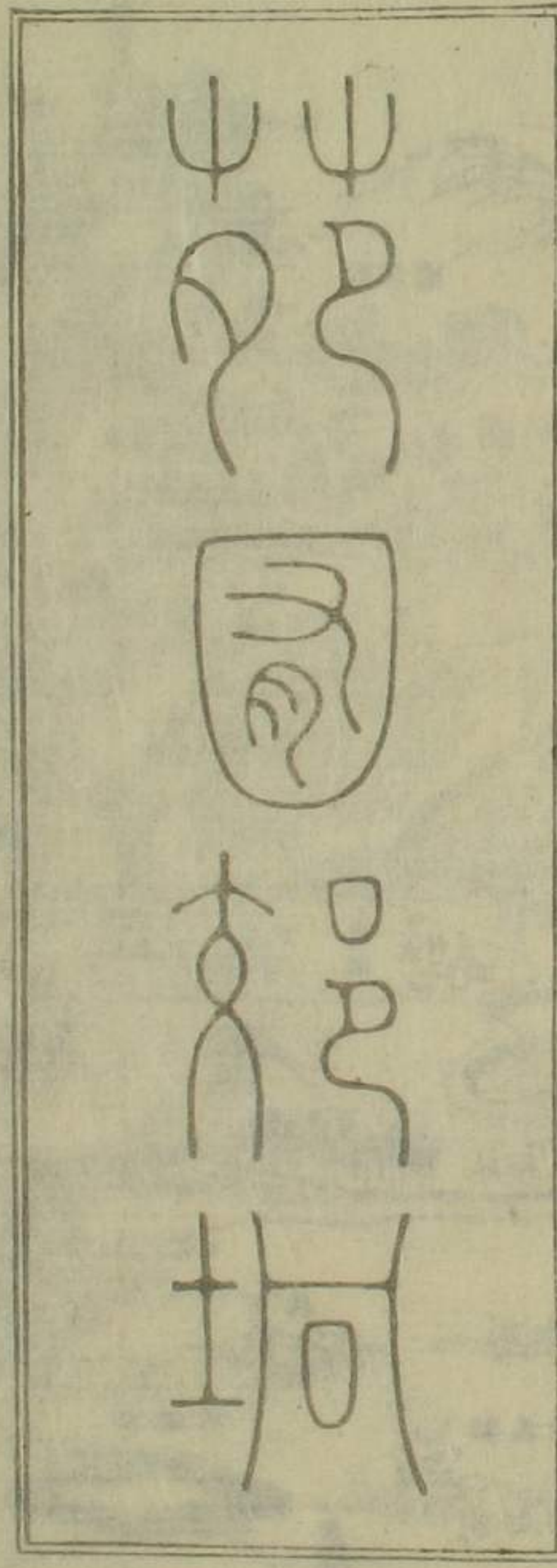
其の制方より南より北とす。高き五丈五尺の階の階  
あり。壇の中心より北の石龍にそそげ、雲散と稱し、より高き九丈三寸五分、手而風雷の津と  
あり。内庭方二十に六の入り又す。壇の西南より北より三門あり。

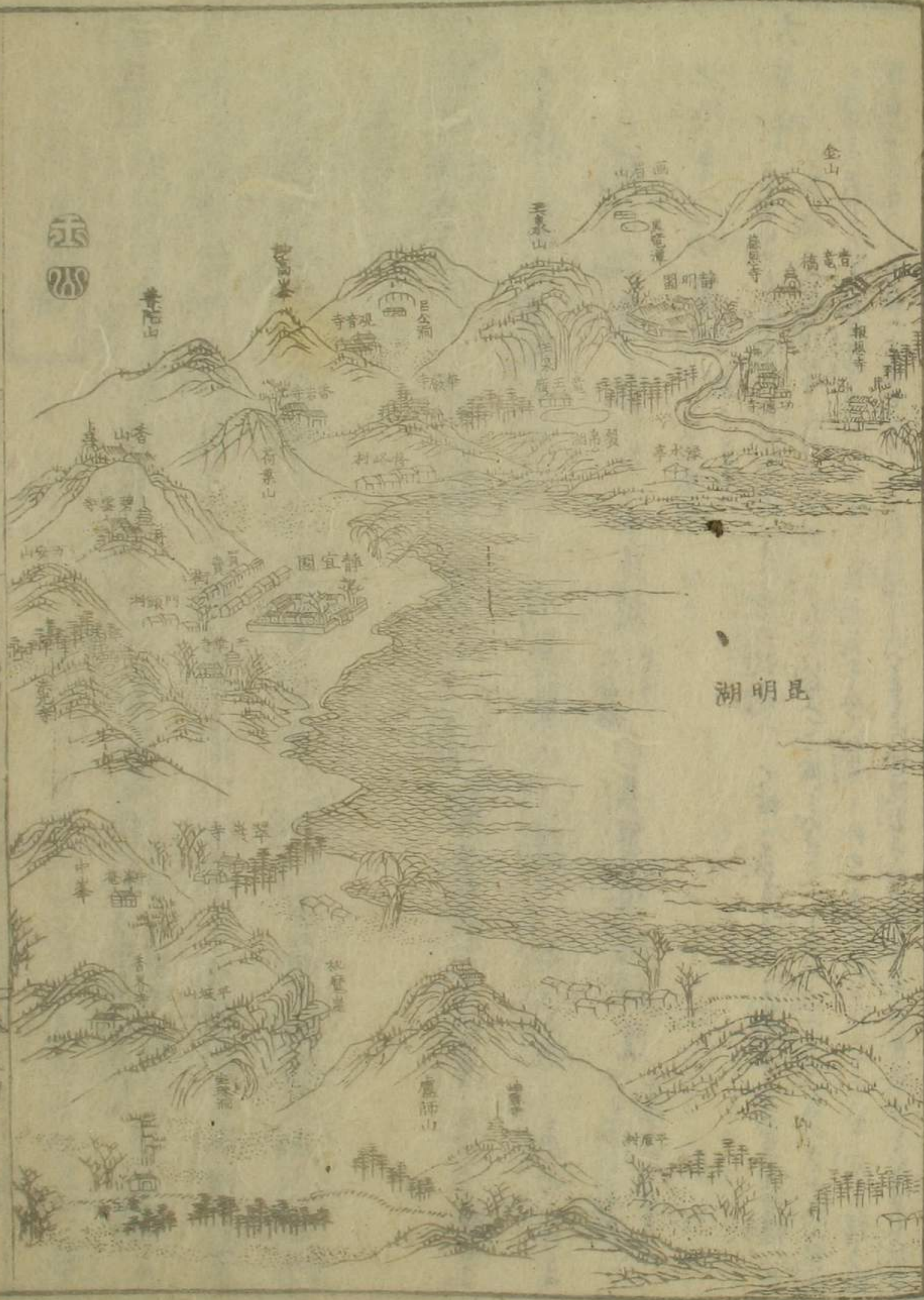
よき唱入尉順天府尹北面築て教を受く其尉順天府丞並箱を奉げて龍亭の上より海濱に  
 飛空閣正廟を建てて退く方り尉は都尚書奏しく觀耕臺を御し終るのを長く帝  
 帝やうて年墜り墜りて變へ終るに託託官人西の階より墜り其臺上の西南の隅より墜り官  
 の王三百餘人をして其臺下の左右に立しむ此より耕臺を御し終るに三王九卿次がを以ては教未  
 終るを老老一人年と率き農三人人穀と扶く順天府屬丞一人穀箱を奉し一人播種を以て  
 此尉三王の又推し入るは九卿九官推し九官使せり此年て各教未とてて現任は帝三  
 教未を各箱と率き農三人人穀と扶く順天府屬丞一人穀箱を奉し一人播種を以て  
 の首道と西より少面して互に呼聲を聞けり其唱入帝生とて東階より入り輿に乗て宮より海濱  
 前と終り此都尚書既よれの成ると奏しんは帝生とて東階より入り輿に乗て宮より海濱  
 此府道迎の樂と他し極平の率と奏しんは帝生とて東階より入り輿に乗て宮より海濱  
 夫は各布に正と婦人秋及びんで玉粒のなるを奏しんは帝生とて東階より入り輿に乗て宮より海濱  
 帝廟社稷を祀る小其祭未盛供し終る○天子時順首方し終る尉の處と遠して耕耨の後  
 を終ひ先農と祀りし終る  
 其處を後り終りては農を

○觀音寺

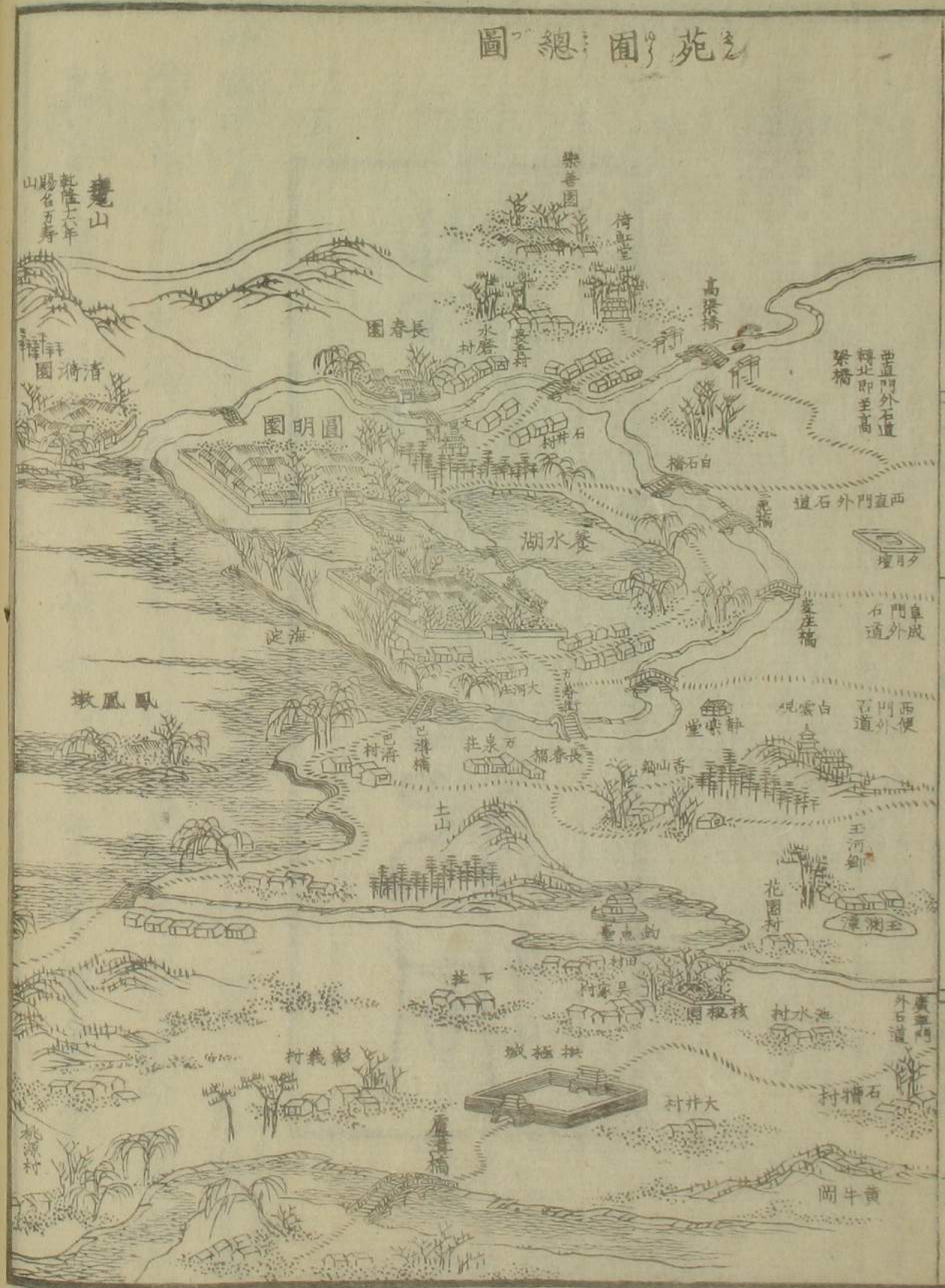
觀音の南に皇口より三ふあり明の崇禎の初王應麟と  
 つる者此あり牛と繋ぎて施養とせり其母今も存し高麗の碑あり

外城此より往きて其寺觀廟祠のりるに若いまくと此と觀せり九六内宮城  
 内城外城を以て京城と稱し卷首より洋に熱祭せば信國今の京師の  
 先景を識り怡し掌中より指が如し希りゆりせよ觀る事勿と





苑園總圖





苑園郊柵

松林園 其水玉氷山より發て高深橋 其水玉氷山より發て高深橋

流き徳勝門の外より別と二流あり其水田より内城へ入て御河より

一ハ松林園を出て東に流き安齊化の二門 系城の東 を經て通州より白河

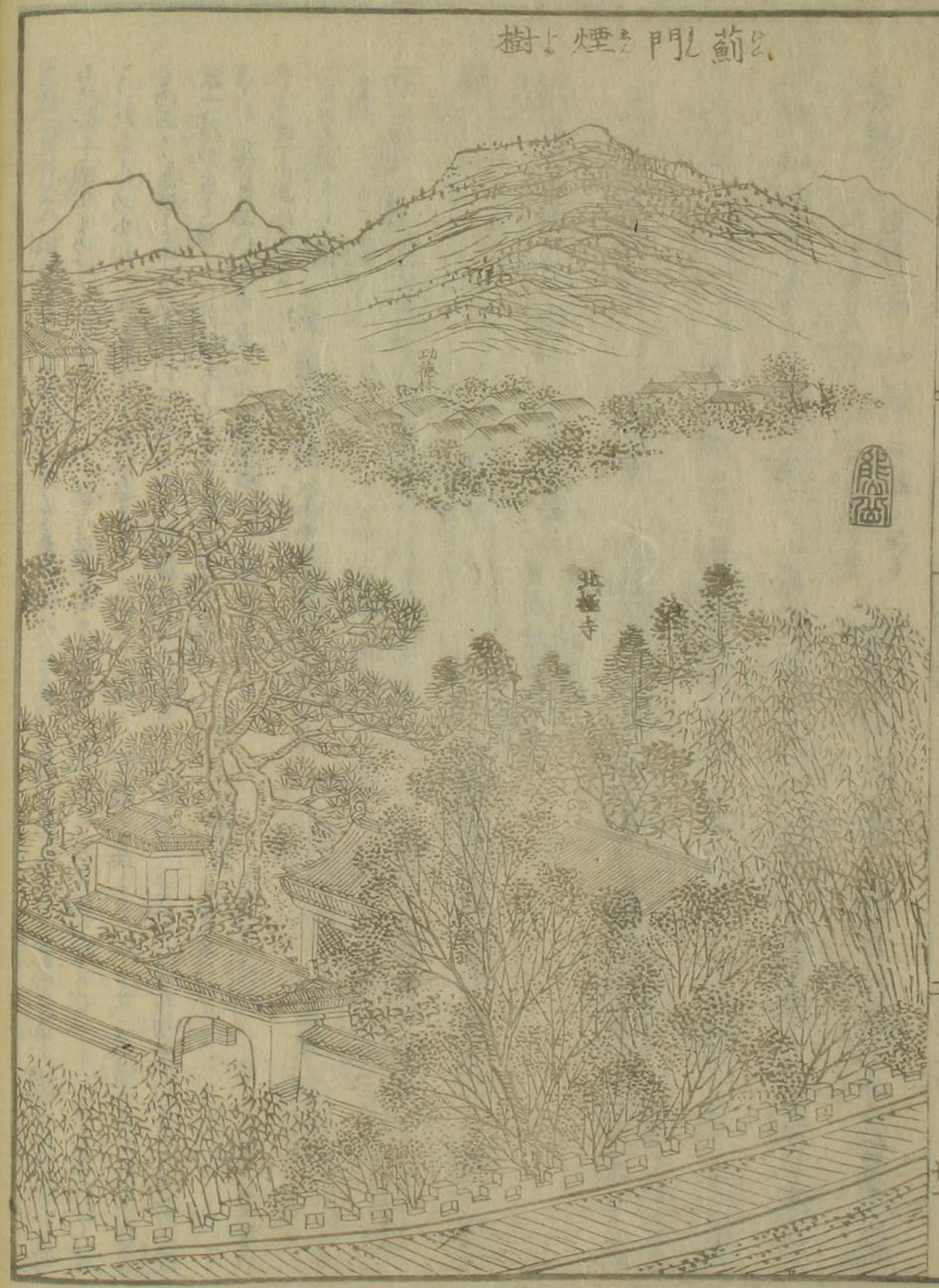
と合流と。 徳勝門の 今悉く廢れ唯林本其蔚蔚として蒼翠の姿深く即系師八系の一ツ

北極寺 ○功德林 北極寺の 今悉く廢れ唯林本其蔚蔚として蒼翠の姿深く即系師八系の一ツ

方澤壇 系城の東安齊門の外北郊より壇の形方より地を築きより方澤壇

上城二城は八城の間に方澤壇を築きより地を築きより方澤壇... 皇地祇室... 齋宮... 北營遊擊署... 東黃寺... 西黃寺... 華苑寺... 廣園天仙廟... 滿舟... 著石園を造りて舟の周りに木を植ゑる... 望京村墩基臺... 北營外東山守旆署... 順天府 苑園郊柵 卷之四

公薊門煙樹



熊

北極寺

野色蒼々接薊門  
 淡烟疎樹碧氤氳  
 過橋酒幔依橋見  
 附郭人家遠近分  
 翠雨落花行處有  
 綠陰啼鳥坐來聞  
 正京蓋日多佳氣  
 縹緲還看扶五雲  
 金切政作

張

多忠佛塔神院



臥虎橋

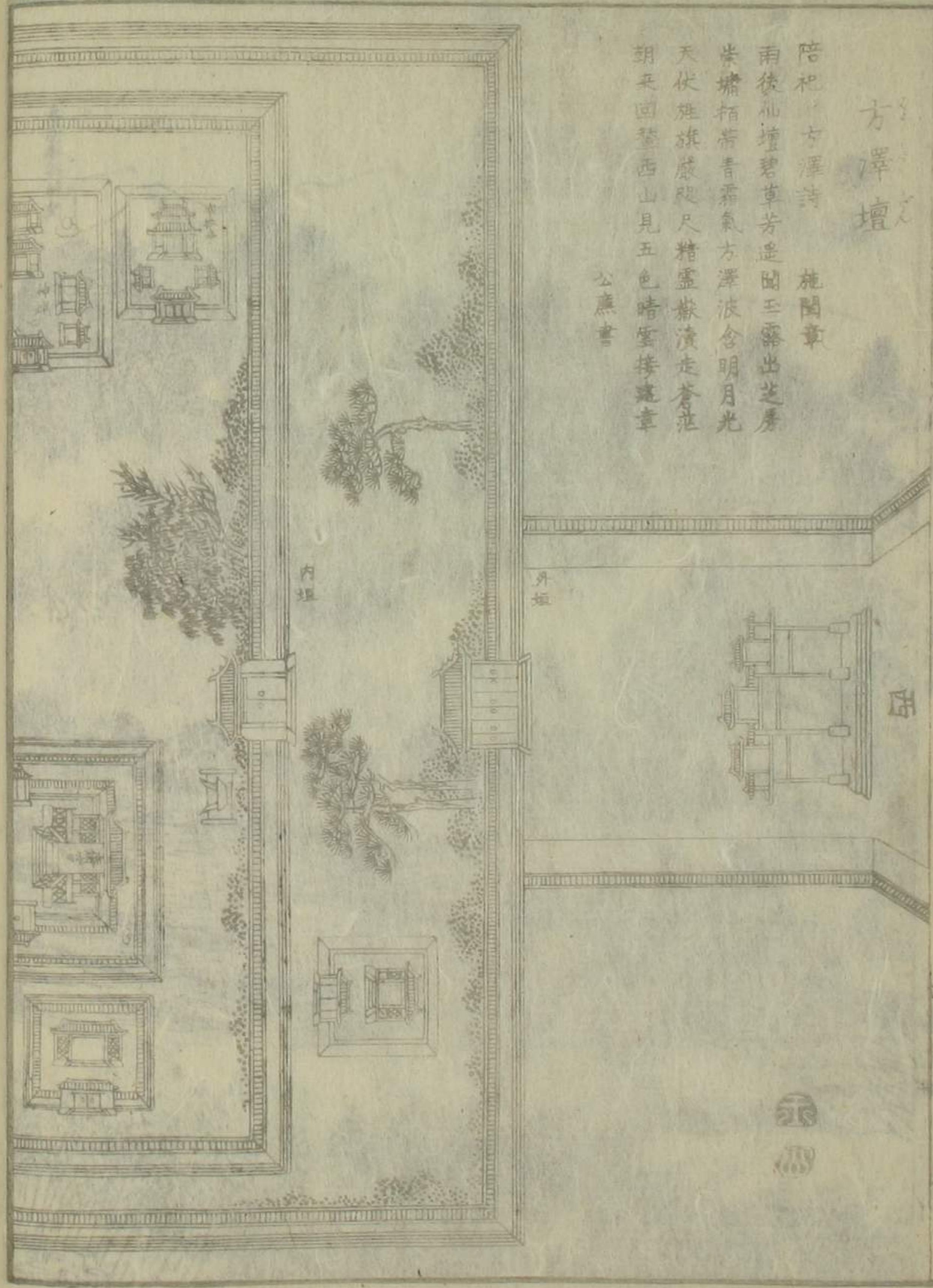
順天府

苑園郊坰

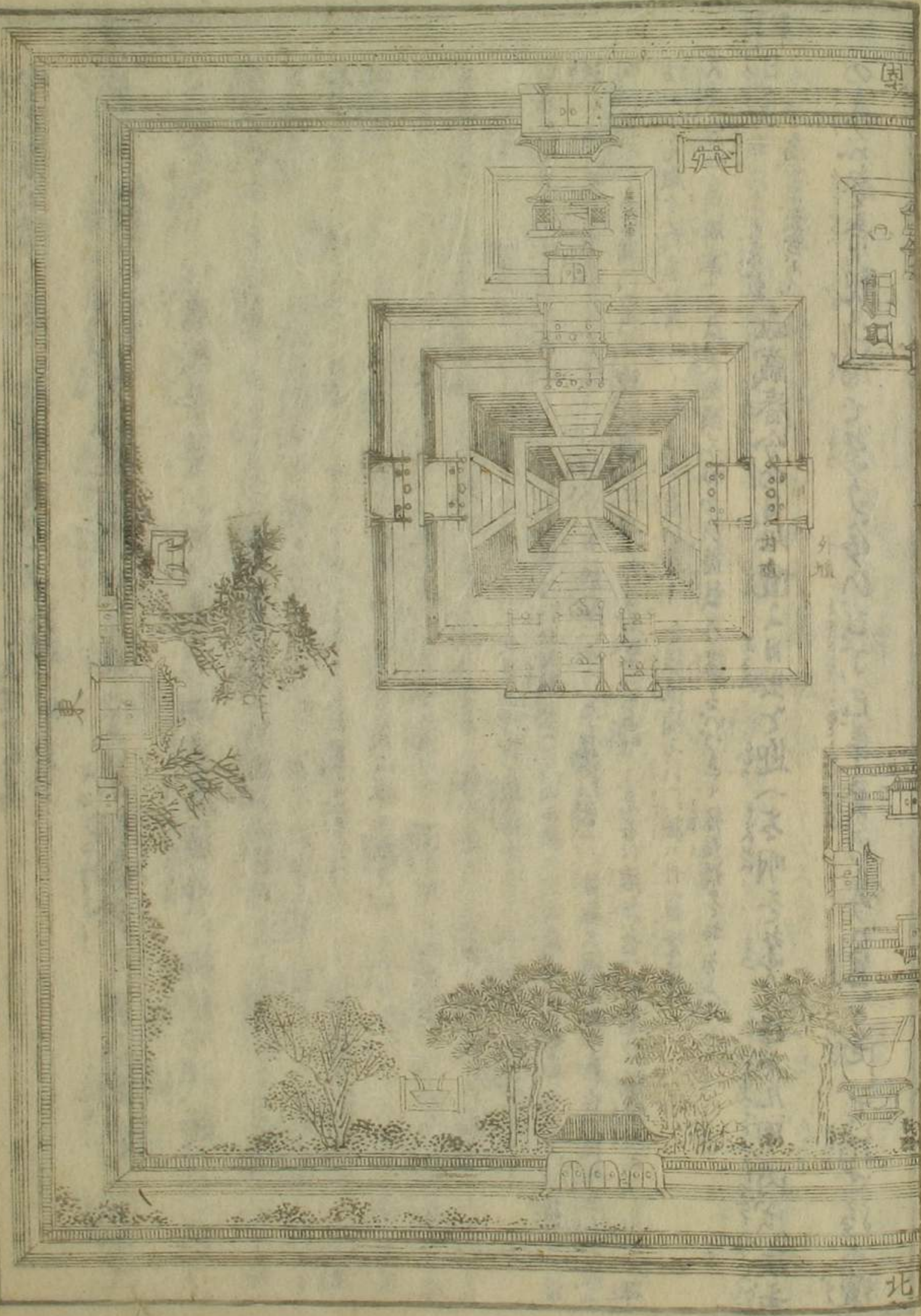
方澤壇

陪祀 方澤詩 施閏章  
 雨後仙壇碧草芳 遙聞玉露出芝房  
 紫壇柏帶青霏氣 方澤波含明月光  
 天仗旌旗嚴咫尺 精靈嶽瀆走蒼茫  
 朝天回鑿西山見 五色晴雲接建章

公廡書



北



北

順天府

花園郊外

令忠肅公廷之墓の御在霞元君廟以上東城の南の

東嶽廟東嶽の南あり 元の延祐年中に建らる。累朝勅修し終に廟戸を設けて

これを守らし、應熙帝暨仁乾隆帝の御書扁額を以て御製の碑詩をとり

其廟の型像を元の對表を造るをうぐ大都會長春宮の都憲張馮通頭より若路して東嶽廟を創り

其後、清くつゞく此廟像對表を創るふらうとんばけりたり。其奉正表を創りて人の心と懸ると

懸るといふより、此廟の心と懸るといふは、我々の心と懸るといふは、我々の心と懸るといふは、

其の心と懸るといふは、我々の心と懸るといふは、我々の心と懸るといふは、我々の心と懸るといふは、

○廟の制、市に對し内外、四門三間、階三間、門三間、階三間、門三間、階三間、門三間、階三間、

階三間、門三間、階三間、門三間、階三間、門三間、階三間、門三間、階三間、門三間、階三間、

朝日壇朝日壇の南あり 五歳春分の日に此壇に日出と迎へて、明を奉り終に九甲丙戌庚壬

の年ハ皇帝親臨して、壇で参り終に丁巳辛癸の年ハ宮と遊して祀せ終に壇

上の正位ハ人金版を設け大明之神位乃字と朱とんて書り壇の制方より西より

今觀を以て、九級白石の階に方より、礎に圍り七十六、八、八、西の方より三門あり、

南より門より及び、階圍皆白石、廊下、階下、階下、階下、階下、階下、階下、階下、階下、

厨、壇の外の外あり、宰牲亭、水庫あり、祭案、祭案、祭案、祭案、祭案、祭案、祭案、祭案、

具服殿、祭案の南あり、祭案の南あり、祭案の南あり、祭案の南あり、祭案の南あり、祭案の南あり、

扶桑一出通案中 壇埴 奉風神

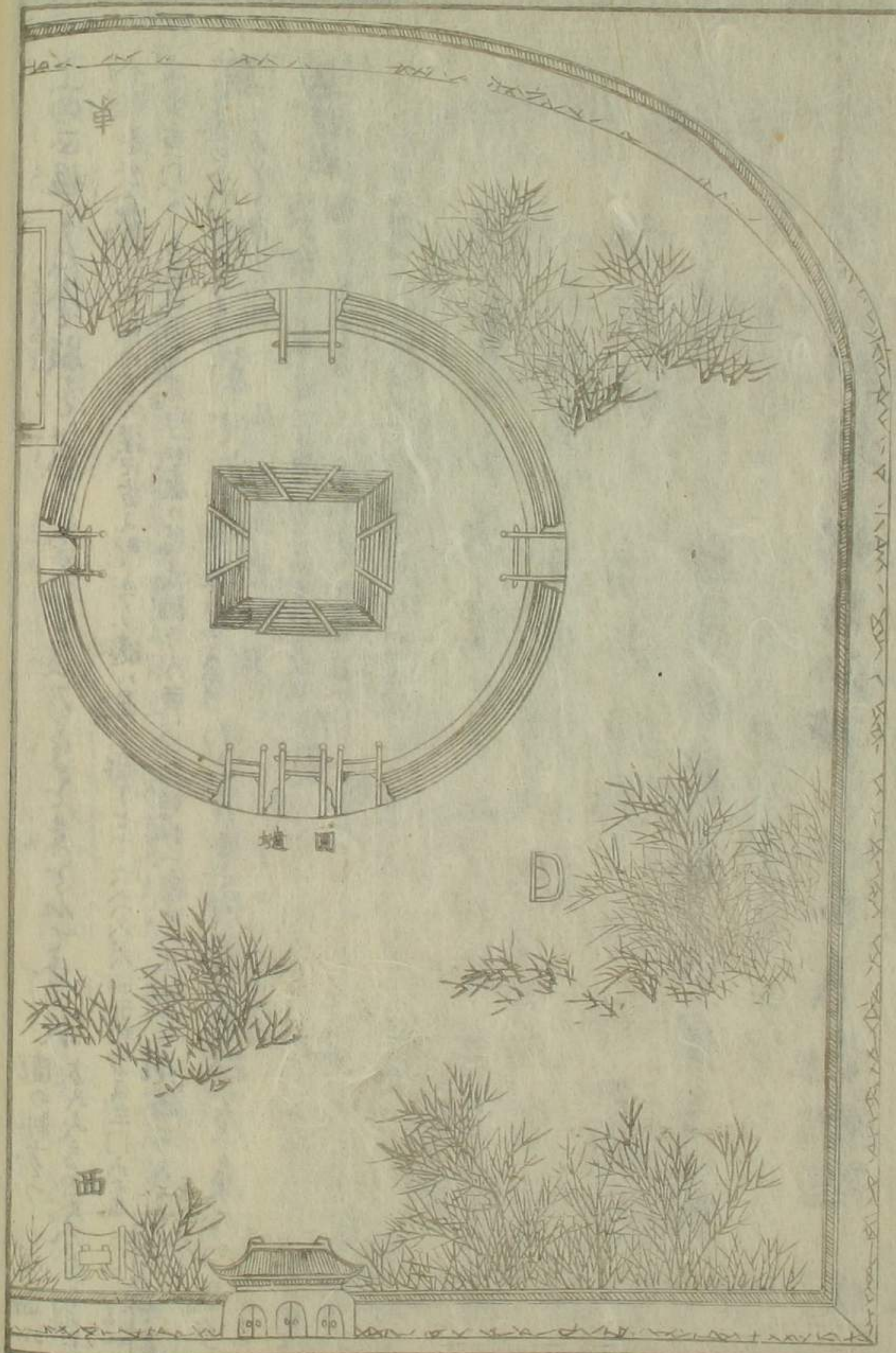
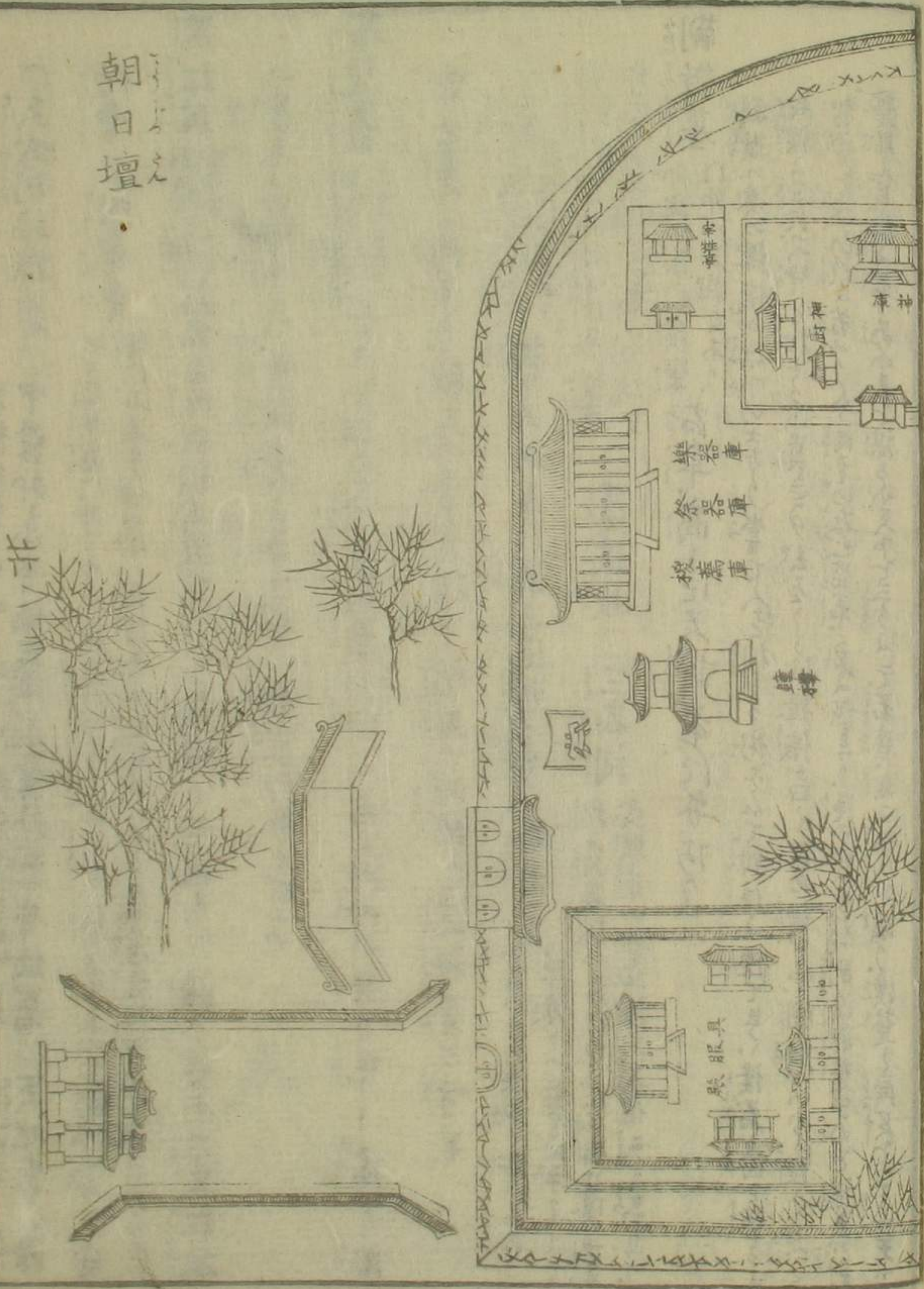
向未位首三尾光燭物象号兩曜晝

無空經天唐數乾坤合掃地規模

介澤一田九獻遠終歸稱諸金宮已射

右壇紅 芳之報朝日壇陪祀侍 奉義經

朝日壇





○中宮外東南守儀署○祿本

殿○延壽寺○國光寺

教里

宏名寺

年間去監五年

とと章公殿と呼ぶ

て春ぬき花を用い

盛衰其系持

人嘗て滑

の宗子并本

隆禧寺



韋公莊樹下宴

金臺 外城の西南方、永定門の南、土阜あり、上は亭と建乾隆帝御書、令其室夕照の

旧字を勅と、燕京八景の一方なり。 洋易水金臺

南苑 永定門の外、元代此を瓜稱して、飛放泊と云、明の永樂年中、其地と増

廣て南苑と名く、周垣百あり、清朝も又その明の制を法ひ、海

其邊は民と住居、一万余人を設る、千に畝の地と賜ひ、苑中と号し、以春と蒐、

狩、武を講じ、るの地とは、後、

の諸園あり、とて是と苑園と、 徠垣二万九千二百八十九の門あり、

稱し、とるら天子の御苑なり、 南苑總尉一人あり、後、心に罷り、海

を雙橋門と云、西と西に門あり、西を鎮園寺門と云、

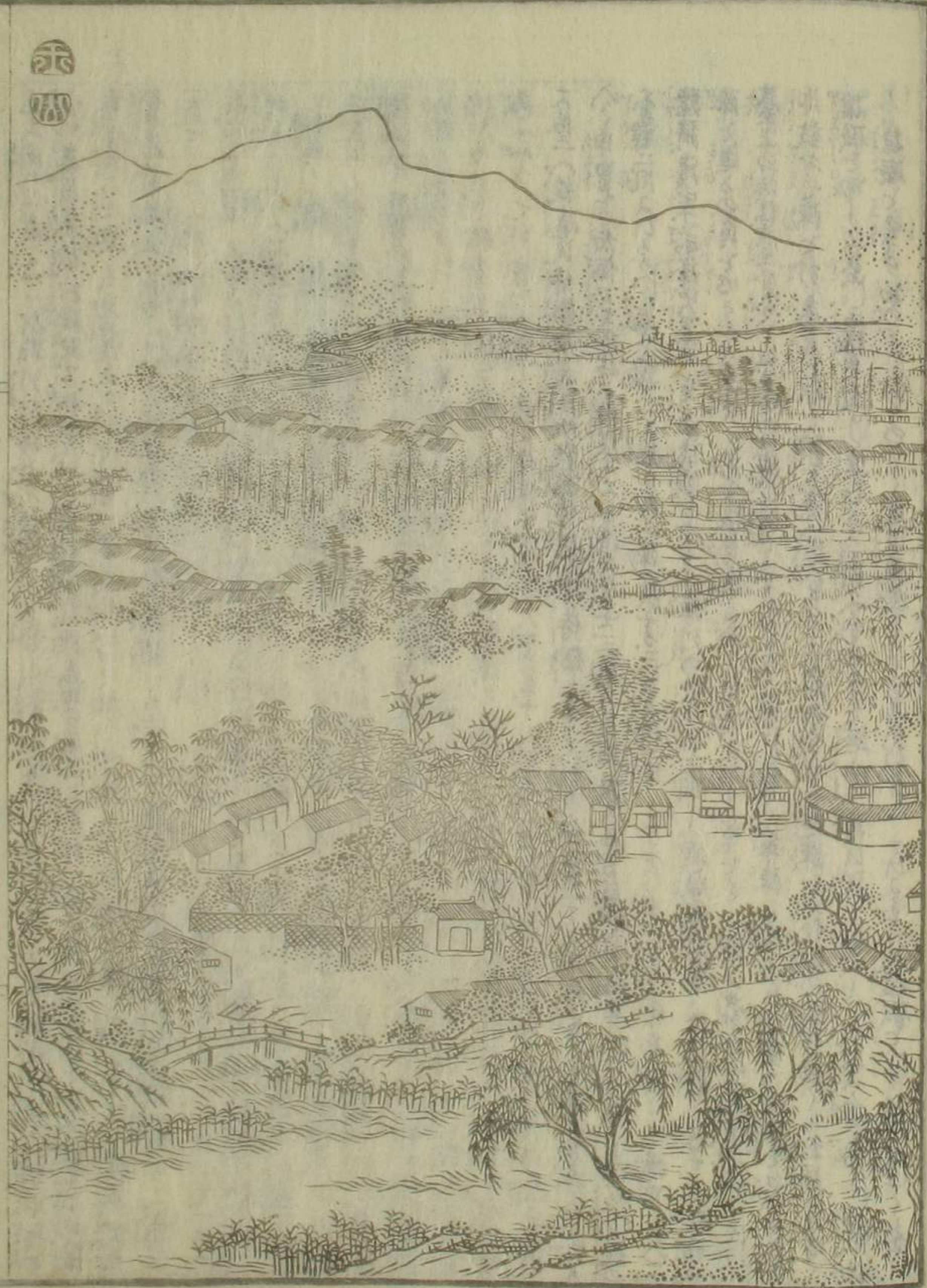
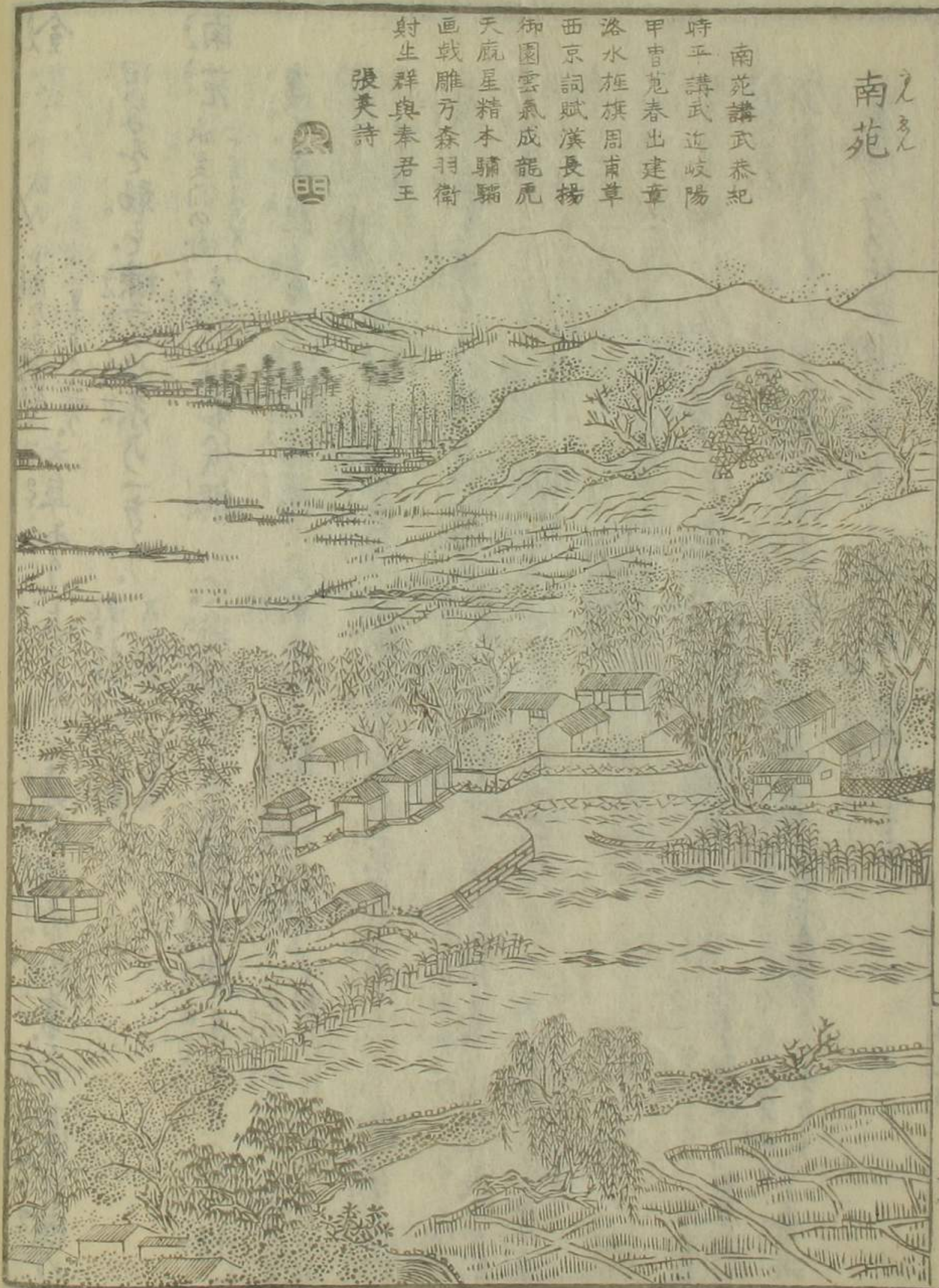
八人あり、後、心と品、未、

又御幸ありて、大園を奉、

南苑

南苑講武恭紀  
 時正講武近岐陽  
 甲曹苑春出建章  
 洛水旌旗周甫草  
 西京詞賦漢長楊  
 御園雲氣成龍虎  
 天廡星精本驕驍  
 畫戟雕方森羽衛  
 射生群與奉君王

張美詩



順天府

苑園郊坵

卷之四





皇帝



皇帝隨侍



親王



鎮國將軍



輔國將軍

奉恩將軍

領侍衛內大臣

侍衛儀衛所屬官以上同



和碩額駙郡主額駙

內大臣裏行之公  
侯伯散秩大臣以上同

縣主額駙

滿大學士  
公侯伯子男文武  
一品文二品以上同

三旗大臣  
文三品四品五品  
以上同

文六品七品八品  
九品同

八旗都統

八旗副都統



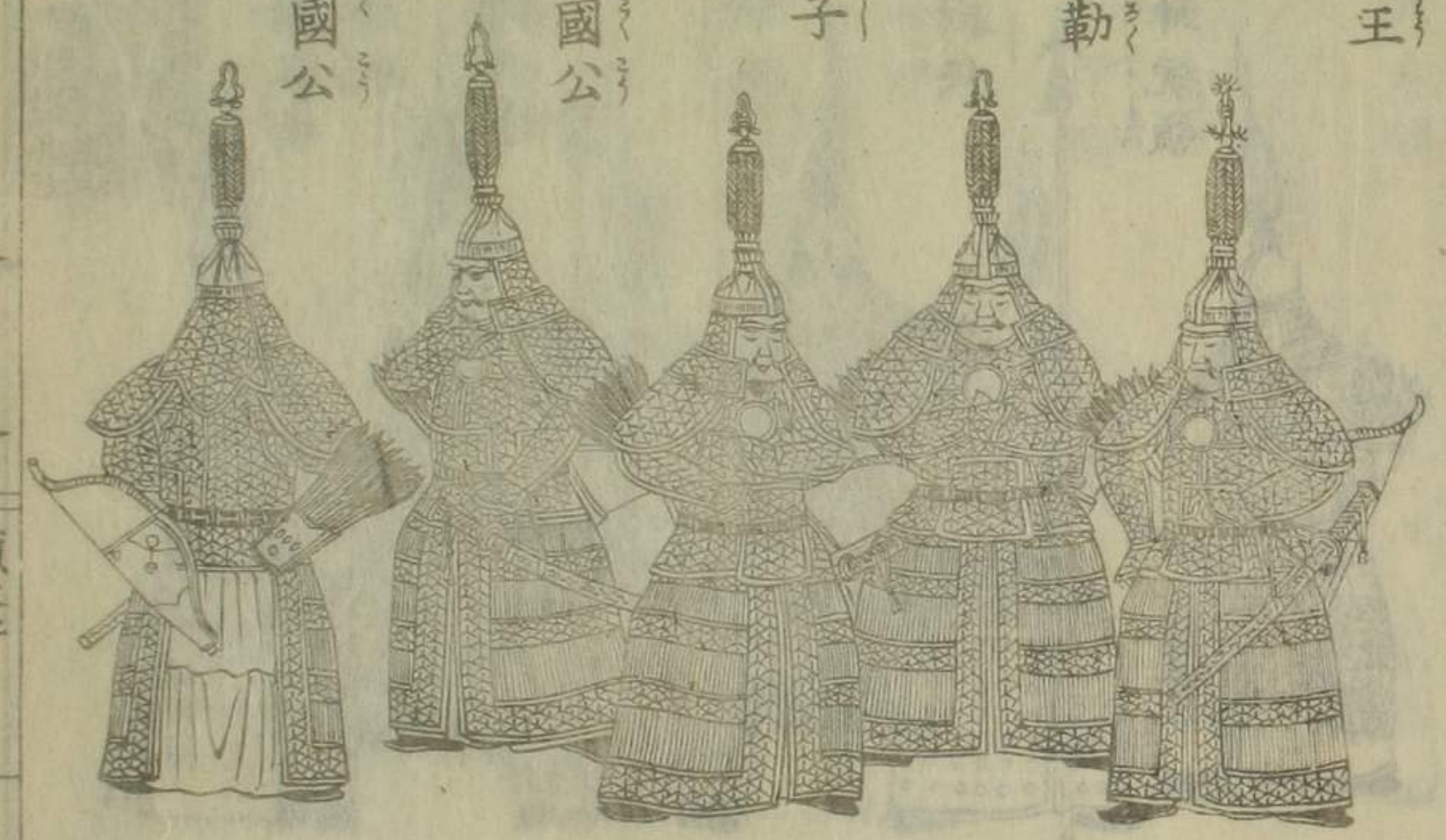
郡王

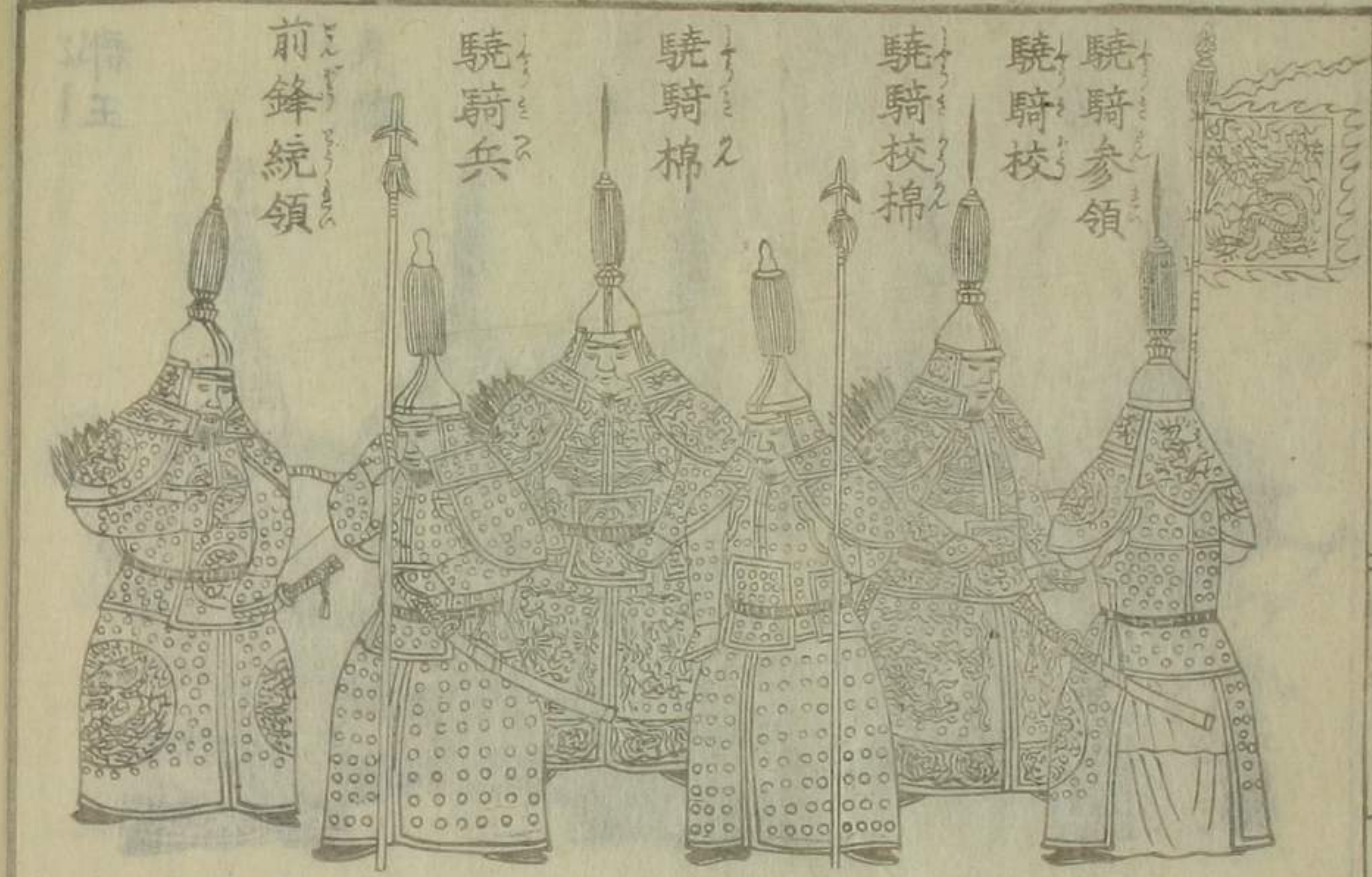
貝勒

貝子

鎮國公

輔國公





順天府

花園郊外

卷之四

卷之四

又三十五

○皇帝南苑及其外苑園郭相入猶一統之天將一稱之也此苑之南苑也波奉  
 宸遊之統園之巨とんて八旗の統領を管せし園場之布と海濱美の園場は此苑の  
 正に後漢後魏の正旗を二旗とて西翼を旗とて東翼を旗とて長と西翼を旗とて  
 西翼と東翼を旗とて西翼を旗とて東翼を旗とて長と西翼を旗とて東翼を旗とて  
 皇と出給ふに御園の池に系に引續て庭の外宮より終るなり先漢軍統の園場  
 御園軍統と率し其地を葦葦校とて御園とて且駕入給ふ宮兵を本務とて  
 皇帝園場と稱し親多著と御し夫とて御園とて且駕入給ふ宮兵を本務とて  
 村て六縣とて虎槍の宮兵集りて此苑を御園と稱し夫とて御園とて且駕入給  
 〇雙柳樹 海子居中 一うへ此所は柳の古樹二株ありは皆枯らう今舊は陸の柳樹を

捕ひ植て頌咏と譽しめ給ふ

新衙門 漢國寺内より門殿三層門の系に儀殿あり

〇南行宮 南苑の内より門の

〇園河行宮 南苑の内より門の

〇南苑 南苑の内より門の

〇龍王廟 〇南路日知署 以上皆南苑の内よりあり

南苑の内苑の西の隅に於て三月三日元曉の節に觀者數百萬とありけり  
 鴨鴨棲く呼べりしを鴨鴨棲の節とて觀るもの性を見給ふと人々も此南苑の鴨鴨棲の節の日は  
 うきうきとて而してその時を奇異たりと謂ひ又南苑西の隅の邊に廣き砂園あり其るより一の邊あり  
 葦の長きありて分り其天賦より  
 日よ余りうき人呼んで砂園とて

草橋 外城西南の隅に在り橋下衆水の河よりありて水田の邊にあり此邊の泉とて

加ふ葦の花を植りて業を成せり運地あり其香穀里にあり丹芍菜の多きなり猶麻の節に其余の

満花を植りてその節に御園を成せり御園の費きききとありて一查爾琛陳咏詩草橋十

里百花妍只有幽蘭種不傳生長

山中畏塵土托根誰羨帝城邊

百泉溪 府の西南十里平地より十餘里の泉あり匯りて溪とて流東南に流とて

柳村より入る

豐臺 右安門の外此所の居民藝花を業

ひと民 藝園即多其室の連なりあり此とて京師

碑二あり沈徳潛豊臺看芍藥詩系枝樓態若多情客裡看  
 花眼倍明略似少陵臨水見五家合隊麗人行



養花

草橋十

- 南營外南二守備署
- 廣恩寺
- 九蓮慈蔭寺
- 祖氏園
- 華氏園

廣寧門外城の西門あり門外には石道を築き盧溝橋あり。雍正帝御製廣寧門

外石道の碑あり又乾隆帝を修石道の碑あり。

天寧寺廣寧門の外あり此寺は唐高祖の魏の孝文帝創建の寺也唐高祖の魏の孝文帝創建の寺也

御書の額あり唐高祖の魏の孝文帝創建の寺也唐高祖の魏の孝文帝創建の寺也

柳巷村廣寧門の外あり財神廟湯柳巷村にあり

漫水即廣寧門の外あり馬陞山此河の名と廣寧門と山と出でて清水河と名く

洗馬溝廣寧門の西南に十里あり合流洗馬溝の府の西南に十里あり

盧溝河宛平縣と大興縣を経て南の方流

急方り此河の急なり

盧溝橋廣寧門の西南に三十里あり盧溝は跨り南北往來の大道なり

康熙三十七年を修ありて河の名と永定と賜ふ

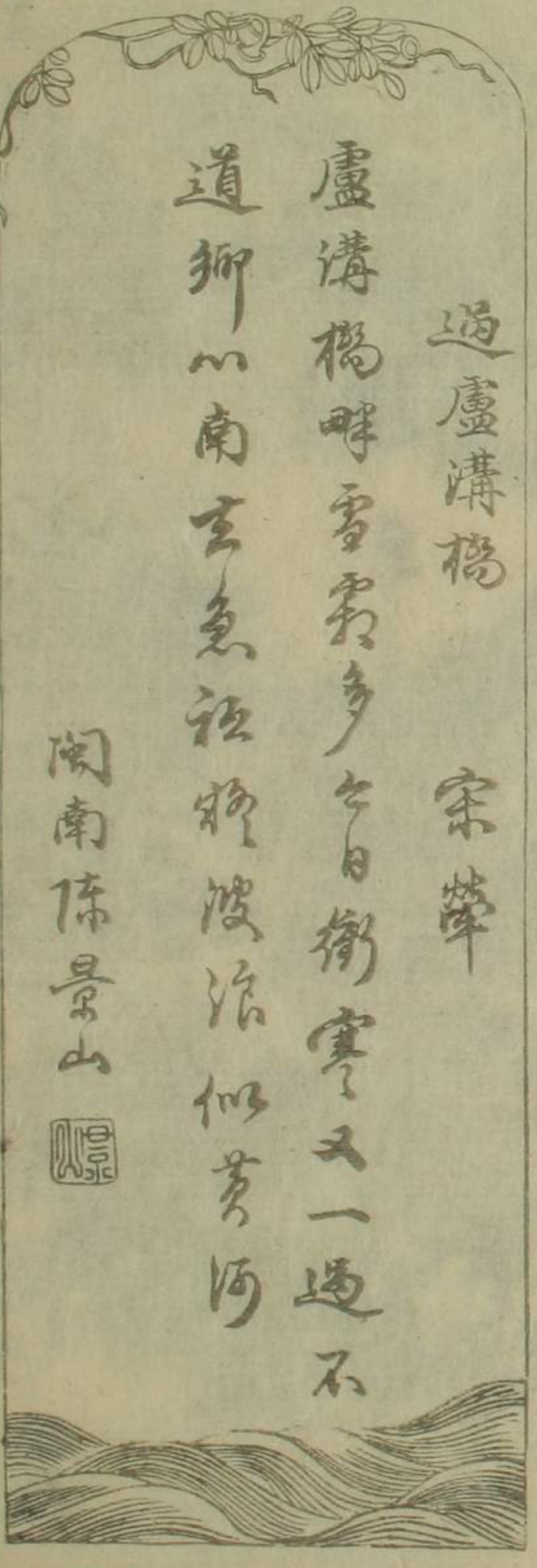
碑は勅以又乾隆帝御書の盧溝曉月のに多し

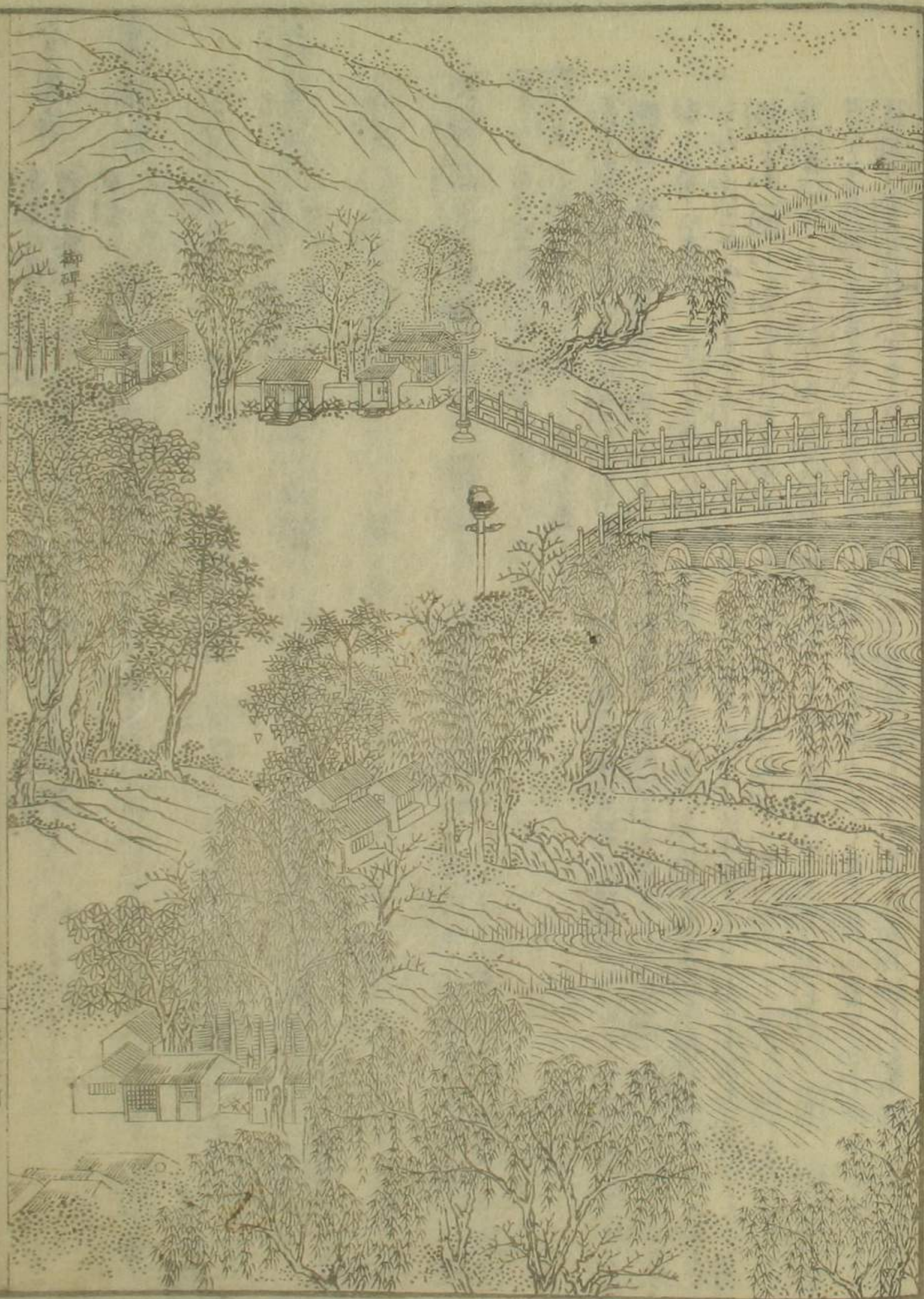
詩あり各碑は勅せり

過盧溝橋 宋榮

盧溝橋畔雪霜多  
今日衝寒又一過  
不道柳川南去急  
孤舟波浪似芳河

閩南陳景山





橋溝盧

拱極城



卅八

金園寺

龜嶺の北に石栗山あり石栗山の塔あり遠眺とくふふろし

惠濟祠

石栗山にあり 獲正年中又遠らる以て永定河の津と名まされ 御製の詩あり

○大悲觀音寺 ○普濟堂 ○福生寺 ○西院月知署 ○元々係制素意堂

白雲觀

外城西北の隅にあり 門の外一里あり

元の大極觀の故墟あり内は丘真人の塑像あり

毎年正月十九日都下の人群集しておとほひを燕九節と云ふ 康熙

乾隆兩皇帝御書乃 蘇頌并 御製の碑あり

真人の像を奉りて造りたる 一あり上の殿に下殿に内は又斗と名まされ

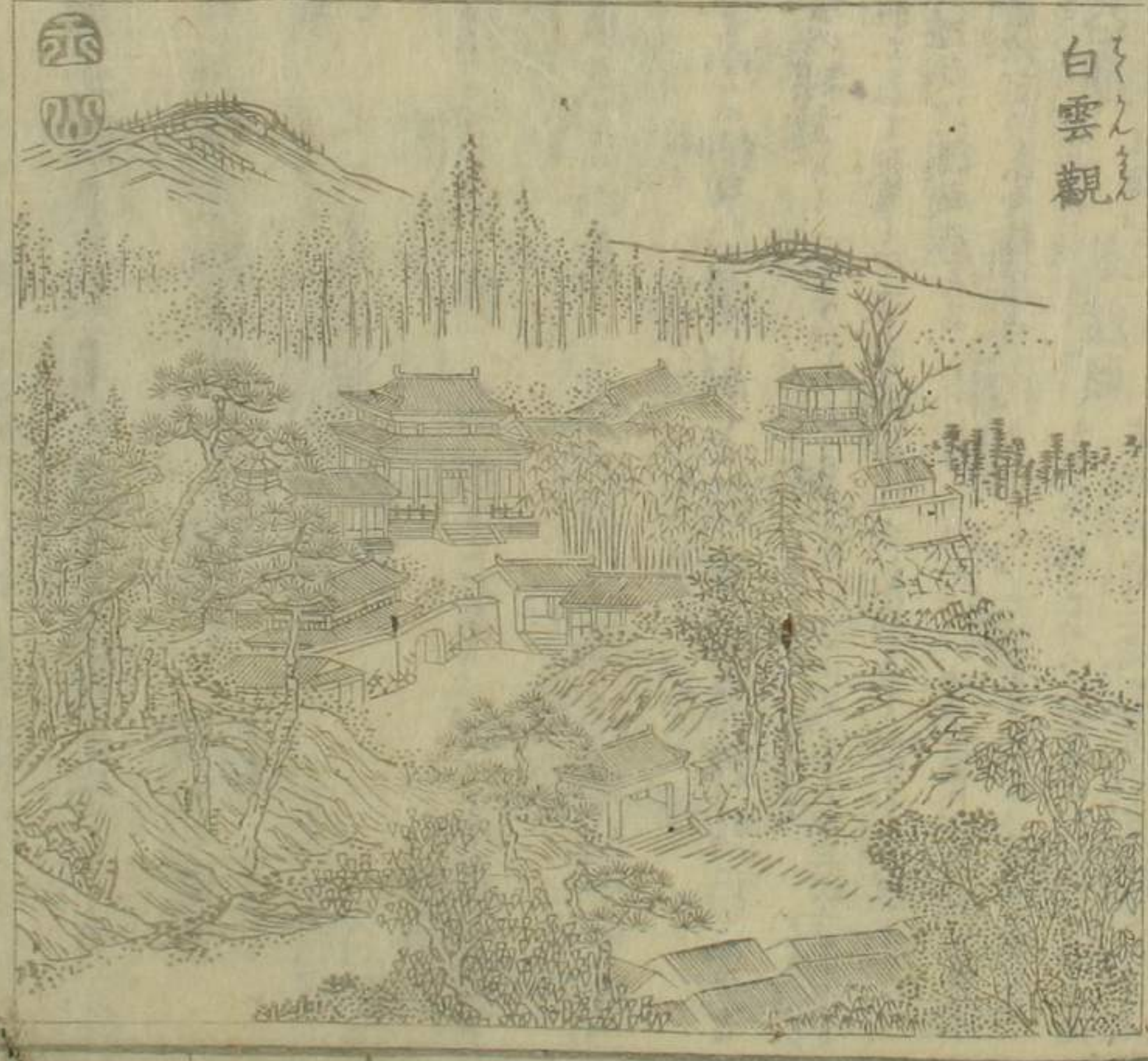
合せて内と云ふ乾隆帝御製の詩を其の中に 刻し 蘇頌の石坐あり 儲君の塔あり

長春真人の丘を蘇頌の遺徳を以て蘇頌の丘と名まされ 蘇頌の丘の遺徳を以て蘇頌の丘と名まされ 蘇頌の丘の遺徳を以て蘇頌の丘と名まされ 蘇頌の丘の遺徳を以て蘇頌の丘と名まされ

仙嶺と仰ぐて遊以年八十あり 至元己巳年 贈号長春海遊を教真人と賜ふこと

一心に教古人難多  
少通正格尔安字  
在物延文信國得  
均也擬美英村  
乃明朱國祀魁白  
雲親 汉高世圖

白雲觀



釣魚臺

白雲觀の西三里河の西にあり 三里河の東にあり

御書釣魚臺の三字あり 御製の詩あり

明一統志云 釣魚臺ハ蘇頌の西にあり

此寺の錫杖は佛の舎の所郡人王翳と云ふ者此の錫杖に池上の臺と仰ぐ暇はる所物とされて樂と依らる  
 其燈釣魚臺詩 金王鑿與幾度來釣臺高欲比金臺可憐臺下王飛怕不及餘魚得奮眼  
 玉淵潭 府の西十里 元の丁氏の人の故池なり池の隈に地ははましく柳樹と植て日景氣蕭  
 爽なり加之沙禽水禽翔を集り是を人暇賞佳處の不易なるなり

崇壽寺 西院門外西院の西 門外に鐵獅二あり 鎮宅獅子の多と稱す 府の西十里  
 二里半に在るなり

○國聖廟 府の西高 三義廟 府の西高 大乙集仙觀 府の西高

夕月壇 京洛の西高なる 每歲秋分の日此壇に月出と仰て夜明を告り以て小斗五星

二十八宿周天の星辰と祀り凡西辰未戌の年の天子自ら詣祀後其の余の

儀と考して多しせは壇上の五位より御の貴版と設夜明之神位の家と

白書せり 祝儀は編版金書なり 壇の制ありて東に向ひ一版と云はし方にふるはるは面を全

て平にして北に向ひ一版と云はし方にふるはるは面を全 神庫 神厨 壇の南門の外あり

宰牲亭 兵亭 樂器庫 樂器庫 具服殿 右祀殿者三間衛多小宮牆を以て

宮門三 壇垣 周三百三十八尺八寸東小宮門一階三門内小門の  
 南の壇垣 東小宮門一あり壇垣の流橋瓦を覆ふ

夕月壇陪祀

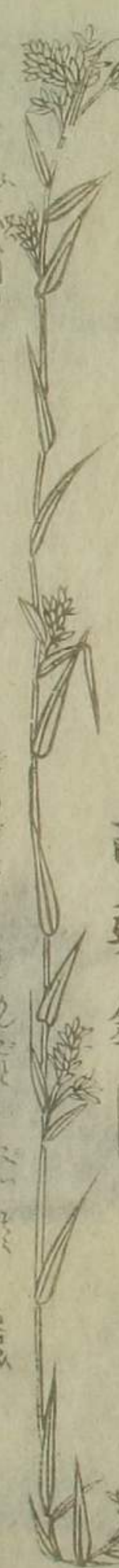
勞之辨

氷輪夕曜配朝暎設坎規模古制存尚白總依商

帝色位西仍避太陽尊節因小盡堂留葉魄待初

生桂露痕惹竊列卿空應象羞將衰髻照銀盆

西渠錄



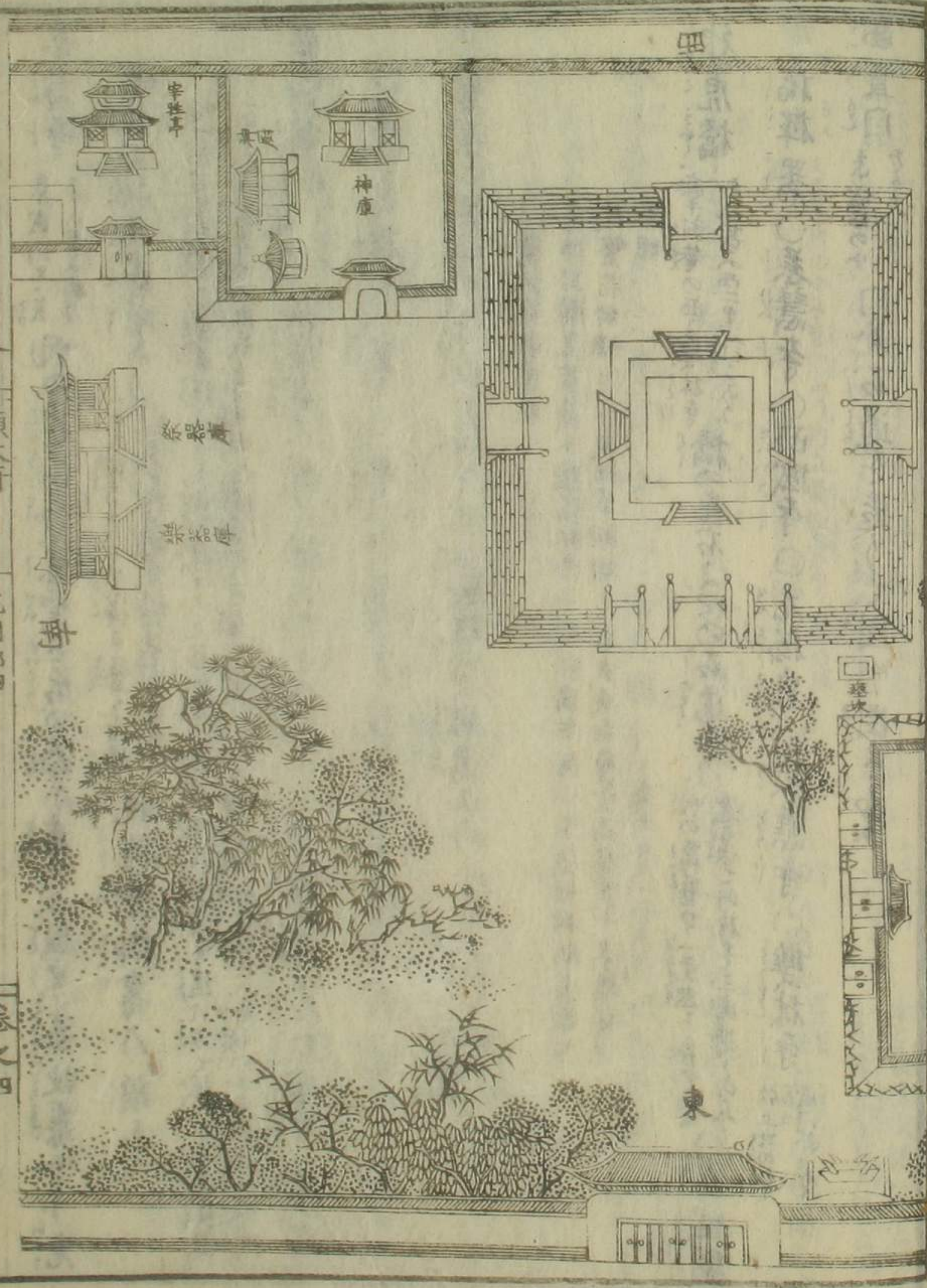
寶塔寺 阜成門の西に塔あり高と二丈計五層上面面毎に佛像と刻り

慈惠院 阜成門の西に乾隆二十八年潭柘の僧募緣してこれを建以て老人幼稚

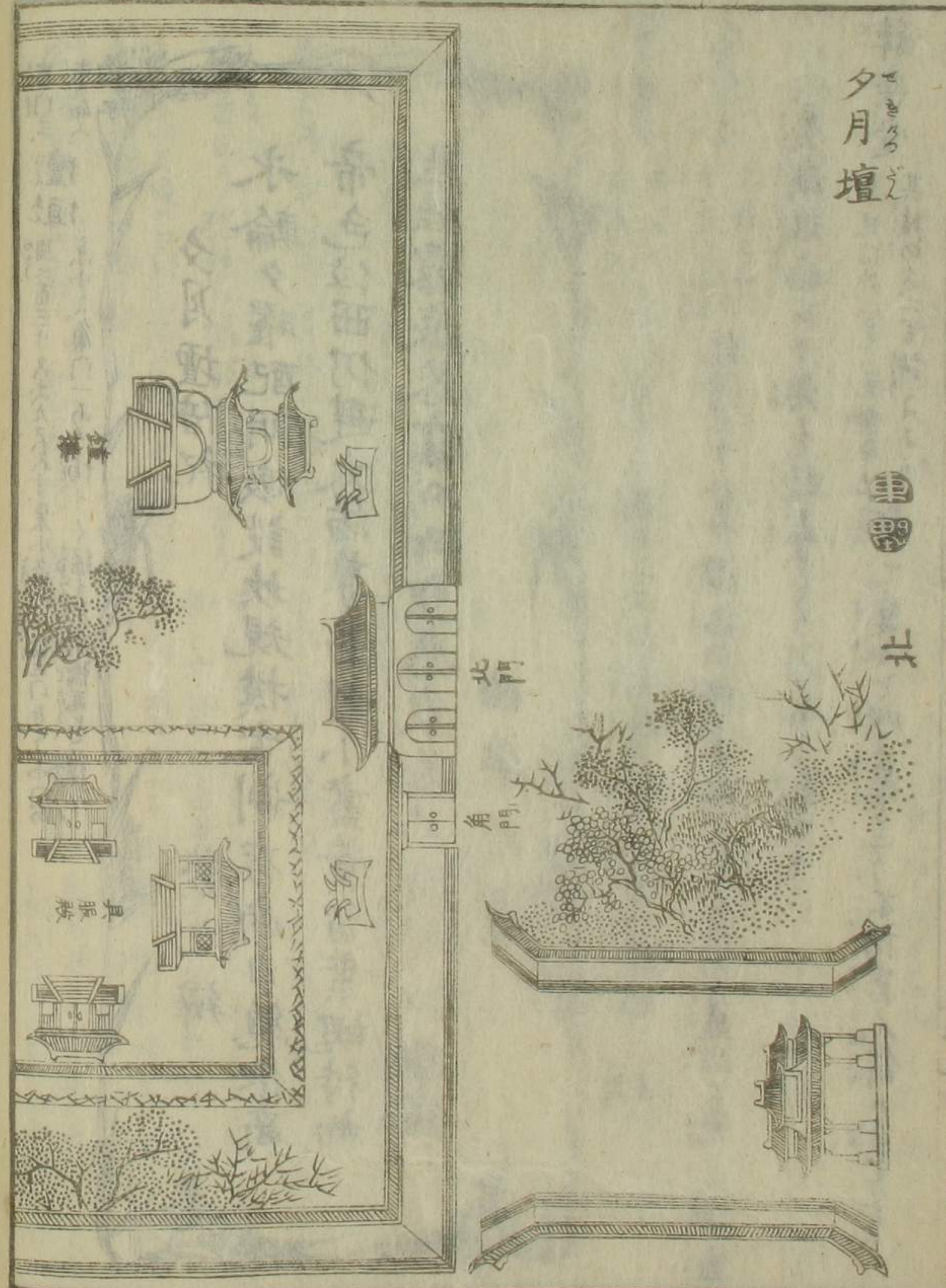
の廢疾難病りる者を收養する乃不と云せり

靜樂堂 阜成門外二里に慈惠寺あり 都て宮女と此を募りて不謂宮人斜に是なり





夕月壇



慈壽寺 阜成門外三里 明の永樂帝慈聖太后の御小建り。殿宇甚壯麗なり。花

の方ふ永安寺塔あり。十三級あり。雲漢は極厚なり。乾隆帝御書あり。額あり。

摩訶菴 飛鳥あり。此菴其大いなり。水とて深澤なり。特々甚し。松菴中よりあり。

に潤き高樓あり。登りて一帯の山に蒼翠と散ひ何れも甚きと帝て備せり小伽藍。

萬曆の後菴中杏花と接なり。餘株此に遊者山に正。天啓中け樹斃なり。

摩訶菴看杏花

青郊路轉見芳菲。日暖園林燕子飛。別圃乍經山杏落。僧厨新煮藥苗肥。繁花舞蝶迎人面。細草輕烟上客衣。更向層臺高處望。千峯螺黛送春暉。

高士奇

狝虎橋 摩訶菴の西雙林寺。橋の左右に石虎あり。明の萬曆中一虎忽らぬの因。西城副

指揮署。慈慧寺。西域寺。元福宮。廣德寺。雙林寺。以上皆阜成門外あり。

西直門 系城西の門外石道を造りて因明園あり。

高深橋 西直門外なるを跨ぎ高深河を渡る。石道の北二坊あり。南と長源永澤坊あり。

樂善園 高深橋の北二里許あり。内は僧伽堂あり。堂の西門あり。中は白の内に小溪と跨らせ。南を

穿堂と云ふ。東は向くを意外味と云ふ。石徑と南は橋して於此賣心と云ふあり。内と

合法齋と云ふ。東は清碧と云ふ。北は花圃と云ふ。南は雲霞波勃軒あり。其外園中

亭室樓あり。軒あり。或は村舎或は田舎連つて野のどし。春茶てまう。今春これと異なり。

極樂寺 高深橋の北あり。門外大柳樹三株あり。高きより天と拂ひ長枝疏と云ふ。

大真覺寺 極樂寺の西あり。明の永樂の時西域の印土の僧版船達来り。其者令佛五と云ふ。

詔して大國師と封し。此寺を建活し。其後乾隆二十六年重修ありて。御書の額額御製あり。碑と塔あり。

白石橋 西直門の西一里許あり。明の萬曆馬が白石を石なり。臺樹皆石本にして。湖郭園真の第一と云ふ。

廣源閣 西夏門の西七里あり 清朝類は此を修造し舟を昆明湖に入し續濟橋を造

清漪園 西夏門の西七里あり

萬壽寺 唐源閣の西 殿宇を以て慶福を名し其の方を鐘樓あり華嚴殿と懸り

鐘の極長二丈二尺内外は佛号懸し弥陀法華諸品經と刻す其数數十里に雲雨相傳信を事す 乾隆十六年此鐘を城山のそんす

寺は後以御製の碑清漢書を西番乃に懸の書あり

萬壽街 萬壽寺の西の橋は園口を渡り長橋あり是と萬壽街と名

暢春園 南海邊大河の西あり園の傍に 此園圓明園の南に當る花園も稱以宮門の内より小河と環し中より九經三幸殿あり後三の宮門を其中と春暉堂と名

後より密花門あり門内の殿と壽萱春承と名後坐殿と壽萱と名西角門の内

は後芳亭なり正宮と雲涯館と名 館の東南に樓とあり

後河あり橋と跨り南は方あり

園中殿あり餘慈松亭と名

玉洞 玉洞の令流と名 又門あり其内を瑞景軒と名香山翠華と名後よりこの延爽

樓は後ハ鶴を負躍車南に觀蓮所なり式古齋齋の後に綺樹と名 有餘慈松亭と名

あり思依寺の窟は帝の御容と奉し圓齋齋は康熙帝御書なり 額あり乾隆成展の九月園内西門の橋上ハ室帝御容と奉し御容の右とありて村と名し

大西門觀御射恭紀

瞳矚初日照西山百尺樓開紫翠間御苑經塞放草淺秋風講武值農間虎熊的畫

齊召南

賜遊暢春園恭紀

蔡升元

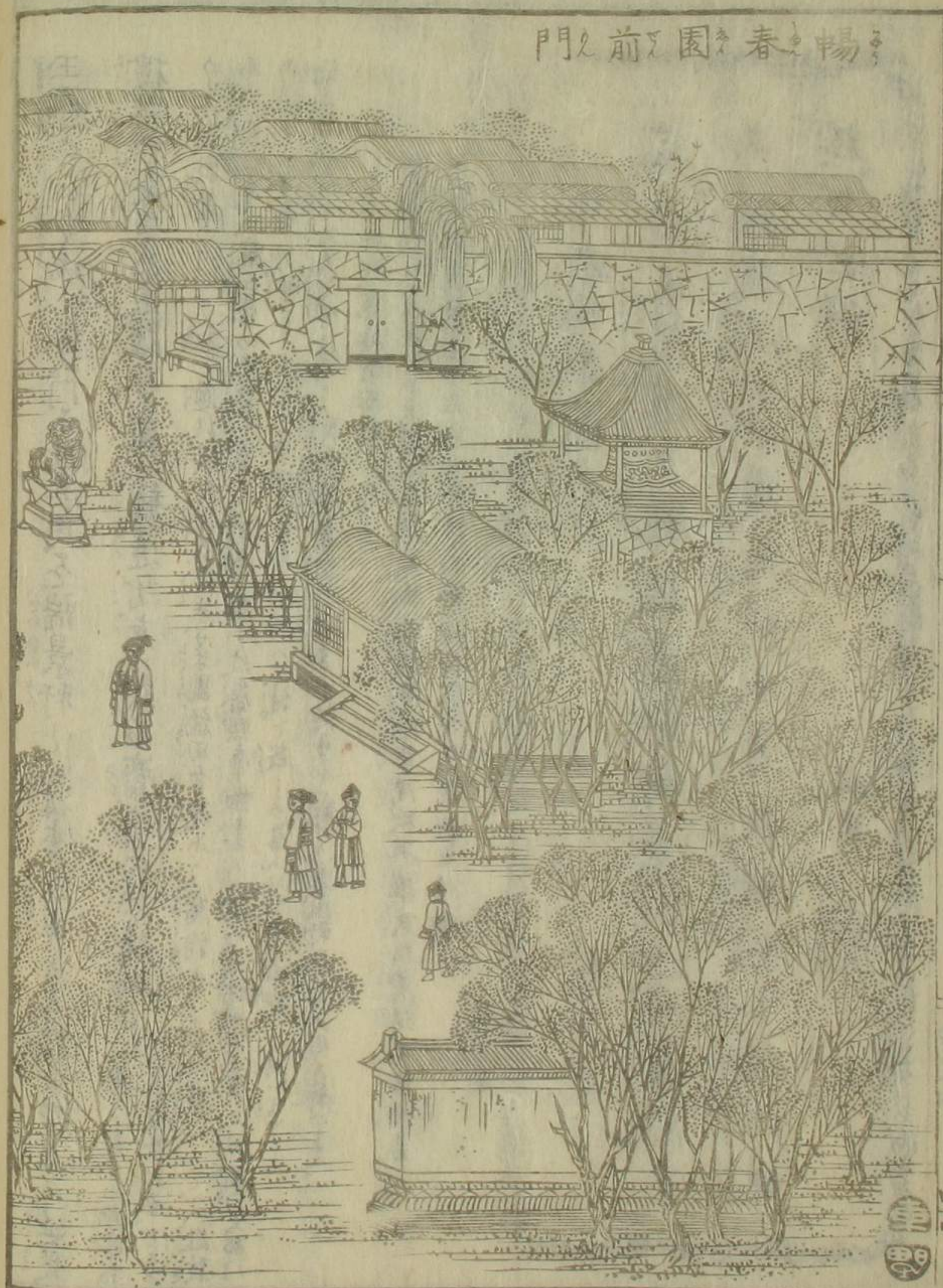
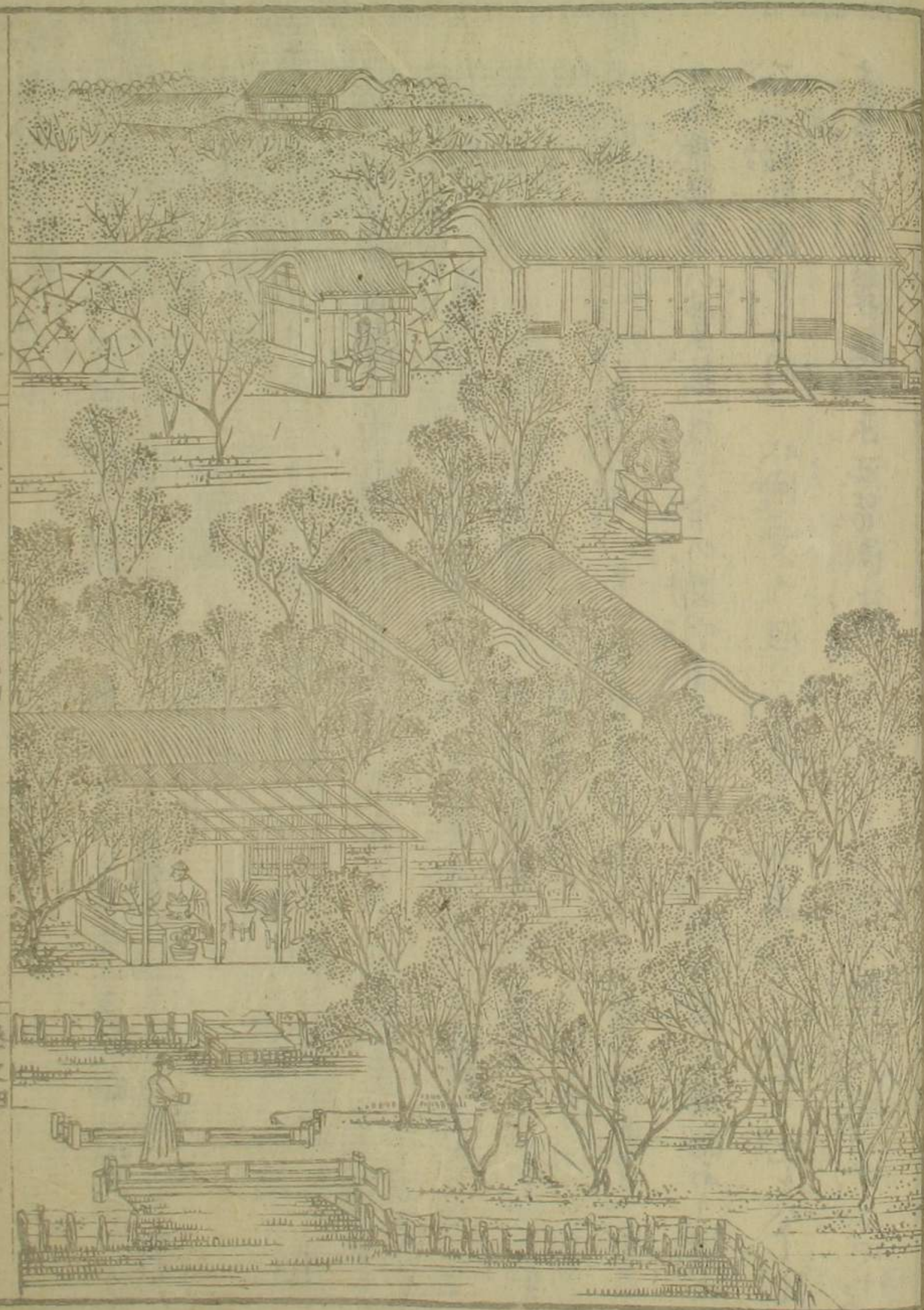
高齋凌碧漢中觀俯清漪靜檻無遺照登洲宣

易窺燕洞仍典籍花園和藹茂儉德尤堪紀規

模百世師

五景





暢春苑守備署 海濱在

清華園

順の季麻曠を別業の址方り園中亭とて後清華の二宮と號せり順の蕭を庭の手書り  
園守拉丹多く奇品異種地を比とせきもの内し其中は御膳所と名するものありと云ふに  
の附これとを海濱と稱し都

泉也示廟

丹徒園の南

乾隆三十二年又建

正殿は龍王の像と拱し殿の後極光園を  
上は真武と作りて龍王龍母の像を拱し

改帝御書の孫額并御製の詩又碑あり ○永寧寺 ○聖化寺

陞西帝の御書孫額あり永寧寺  
新後殿は十六羅漢を拱し

○永通寺

南海濱

○龍翔寺

馬家口

○覺生寺

留家莊

○西花園

暢春園の西あり園中正殿後殿馬殿圓武樓あり其外正殿坊舎  
堂帝御書孫額あり

圓明園

暢春園をより一里許御甲申の年より  
獲心の帝いさむるまはしく々の附の賜園方り園乃

名は康熙帝の宸翰獲心帝の圓明園の記乾隆帝圓明園の後記あり俱又

石は勅以園中又門十八間三あり殿宇堂室は稱麻のつく悉く記とくは

大宮門の花輦道の東西皆湖水にしてこれを花湖と稱以凡園の中は十

景あり各御製の小序并詩あり

は十景此園を奉て去地の老松と松の影を以て景と  
○正天光明○勤政親賢○九州清晏○蓮月洞雲○天

然圖畫○碧桐書院○慈雲普渡○上下天光○杏林春館○坦園  
安和○武陵春色○山高水長○月地雲居○鴻慈永祐○葉芳書院○日天琳宇○澹泊寧靜○映水蘭香

○水大明瑟○濂溪樂處○多稼如雲○魚躍鸞飛○北遠山村○西峯秀色○日賞書屋○方壺勝景  
○溟身浴德○平湖秋月○蓬島瑤臺○樓秀山房○别有洞天○交鏡鳴琴○涵虛朗鏡○廓然天

公○坐石臨流○鞠院風荷○洞天深處○以上圓明園の十景と稱以

御製正天光明殿詩

勝地同靈囿遺規暢春尚年成不日奕代永居  
辰義府遮羅璧恩波水瀉銀草青思示儉山靜  
體依仁只可方衢室何須道玉津經營懲峻宇出  
入引賢臣洞達心常豁清涼境絕塵常移雲館  
蹕未費地官縉生意榮芳樹天機躍錦鱗宜堂  
彌塵念俯仰惕心頌 米菴河三災書

圓明園

甘霖普降特台大  
 學士內廷翰林圖  
 明園泛舟恭紀  
 甘露昨喜徧郊畿  
 詔許新晴覽翠微  
 萬井膏腴方被沃  
 一園草木已含暉  
 波隨擢影初生數  
 涼沁荷香暗襲衣  
 幸奉良遊瞻聖藻  
 疇咨念々切民依

右徐本  
 作



御道

湖前

能

四十六

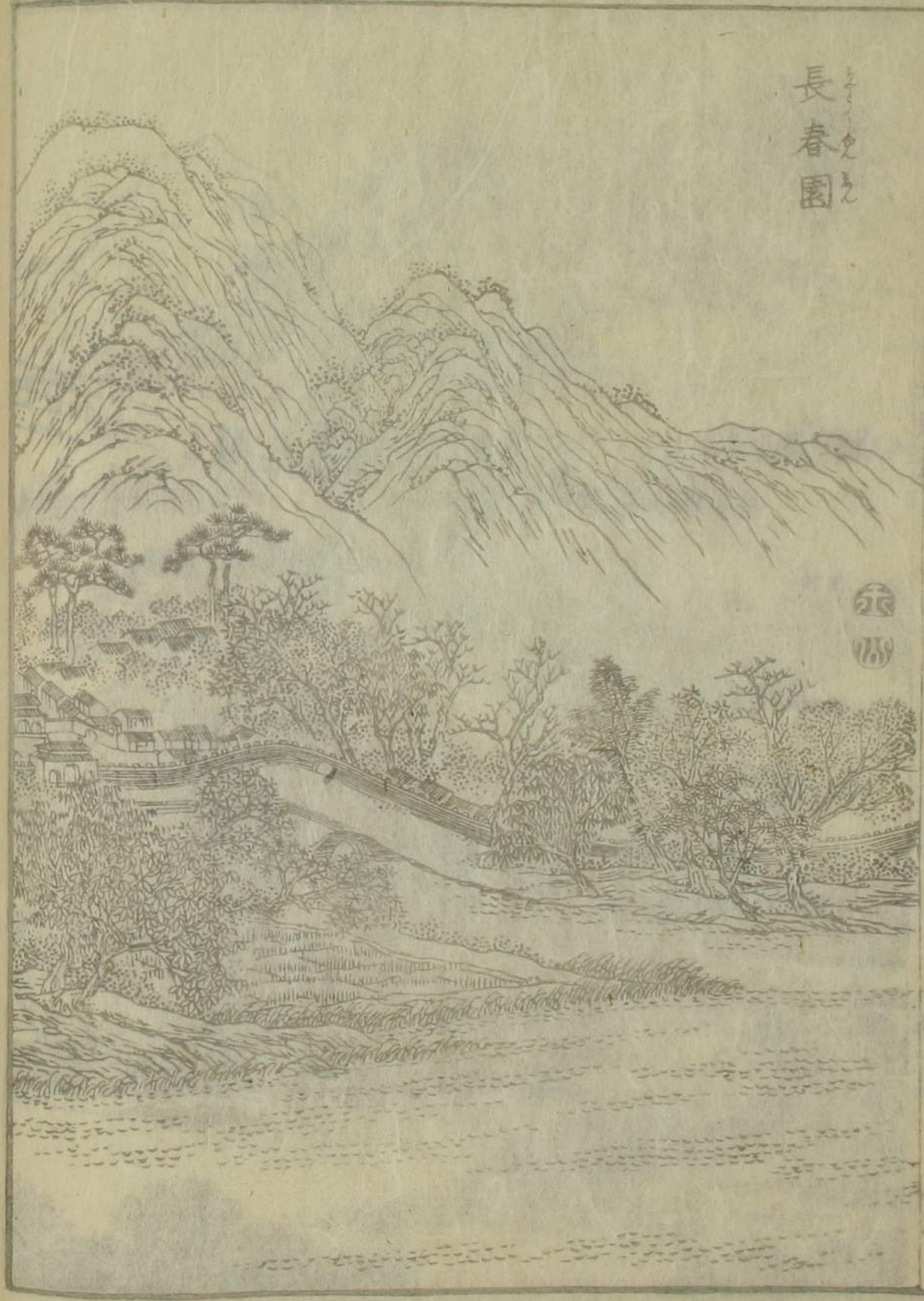


順天府

花園莊

卷之四

長春園

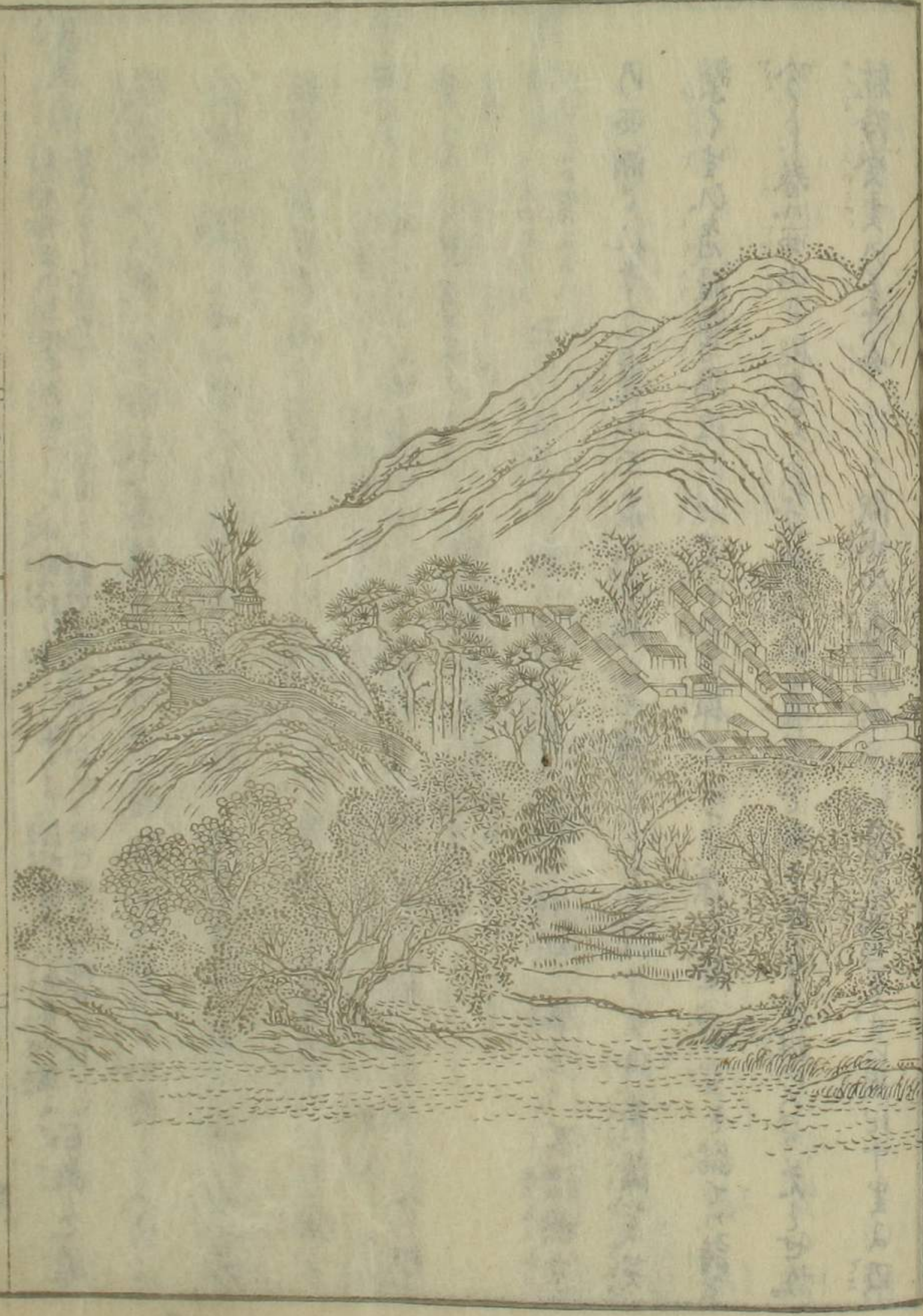


永  
西

順天府

花園郊坳

卷之四



唐土各勝圖會

長春園

舊園明園の東垣の際地より水磨村と号し木を削り因明園中の長春仙館を造り殿を造り近き小よりして池を命けて長春園といふ園中流水とれて七ツの所と憐れて梅田と云く

懐堂といひ後の衆樂亭其後河の川又数字あり雲宮水態とて南又

長橋を架し西又合夜堂有り後淳化軒とて其東西の廡又淳化園帖の

石刻と嵌其後を藪真齋といふ園中堂あり舊園の即長春園の正殿の

西より舊園の八畝あり。朗洞齋。湛系橋。芸香軒。書蓬。標勝亭。別有天。額天然。五芝苑。藏。是方。又柳。紅橋。恆山。約系堂。法同園。夜半。磴道。石峯亭。これを神

林の八畝 如園 圓明園守備署 掛甲屯の西

昆明湖

玉泉龍泉水其餘の諸泉集り爲て湖水と爲り石溜燕京

の西湖とれ方り甕山玉泉山を西湖の匯といひ其繞十里許荷蒲菱芡

繁く生ひ雁鷺鴨鷓鴣浮い遊り小舟又棹として涼を迎へ白雪と踏でり詩と

吟し春に西山に桃李を爲り又秋凡の蘆花と動り人を東涯のさきとせり

乾隆癸亥の年命して湖水の庭と爲りし岸を用きて其園に十里及び

べ且西山の泉派を擣り池勢をまきり收奪して湖中に流澄せり即湖

名を昆明と賜ふ堤上又廓如亭あり亭の北崑崙石あり御製の詩

と勒せり側ふ湖を範にして舟を造り其背の上又御製合本の後と爲

り其外萬壽山崑崙湖の記を石に勒り各乾隆帝の御製あり

圓明寺名を元朝時其地は湖に渺渺なり是より三里功德寺あり諸僧其地を治す其地は南に流

業あり其地は湖に渺渺なり是より三里功德寺あり諸僧其地を治す其地は南に流

業あり其地は湖に渺渺なり是より三里功德寺あり諸僧其地を治す其地は南に流

功德寺元代大業天護聖寺と名く天歷二年板菴禪師創建せり明代名を功德

寺と改む規制をさしめて巨藩たり乾隆の園を修めて御書額御製の碑を

刻す板菴禪師集韻あり法後て用と辨りてり其の地は湖に渺渺なり是より三里功德寺あり諸僧其地を治す其地は南に流

刻蘇松像維金柱虎口開時古殿崩事去木德樞首懶更誰と未故殘僧

乾隆十六年名を萬壽山と賜ふ山の南に崑崙をまきり湖

唐土各勝圖會

順天府

苑園郊坵

卷之四



昆明湖



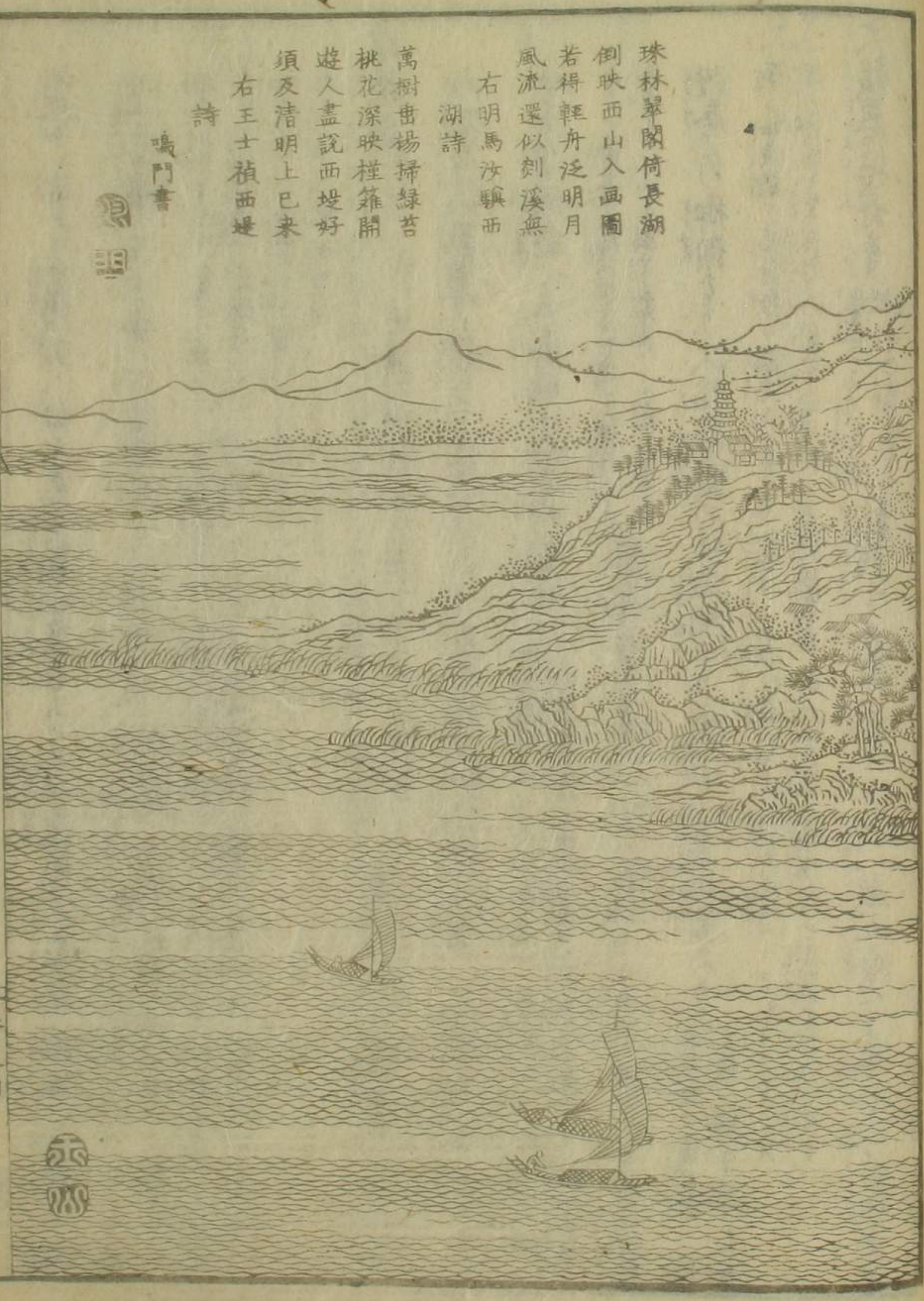
珠林翠閣倚長湖  
倒映西山入畫圖  
若得輕舟泛明月  
風流還似劍溪無  
右明馬汝驥西

湖詩

萬樹垂楊掃綠苔  
桃花深映槿籬開  
遊人盡說西堤好  
須及清明上巳來  
右王士禛西堤

詩

曉門書



曉門書

順天府

花園郊湖

卷之四





清漪園



萬壽山

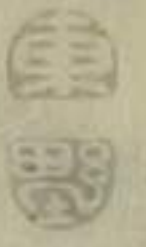


順天府

花園郊

卷之四

黑龍潭龍神廟



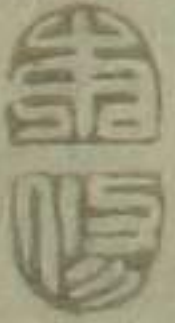
玉泉涌出其石頭と擊て橋の頭とぬく。泉水此橋より噴出せり。其味こと  
 佩玉のごとく其色い素練のごとく味極て甘く。瀕て池と成り。廣きう二三丈許  
 亦よ小石橋を跨し。水橋下を流る昆明湖に入相傳ふ。金の章宗  
 嘗て暑と此に避暑し。燕京八景の二つと名けて玉泉の垂虹と云。乾隆帝  
 御書乃玉泉石橋の石と橋付と云。玉泉山の文殊菩薩の窟あり。其窟の  
 窟より玉泉の泉水あり。其泉水の味極て甘く。瀕て池と成り。廣きう二三丈許  
 亦よ小石橋を跨し。水橋下を流る昆明湖に入相傳ふ。金の章宗  
 嘗て暑と此に避暑し。燕京八景の二つと名けて玉泉の垂虹と云。乾隆帝  
 御書乃玉泉石橋の石と橋付と云。玉泉山の文殊菩薩の窟あり。其窟の  
 窟より玉泉の泉水あり。其泉水の味極て甘く。瀕て池と成り。廣きう二三丈許

游玉泉

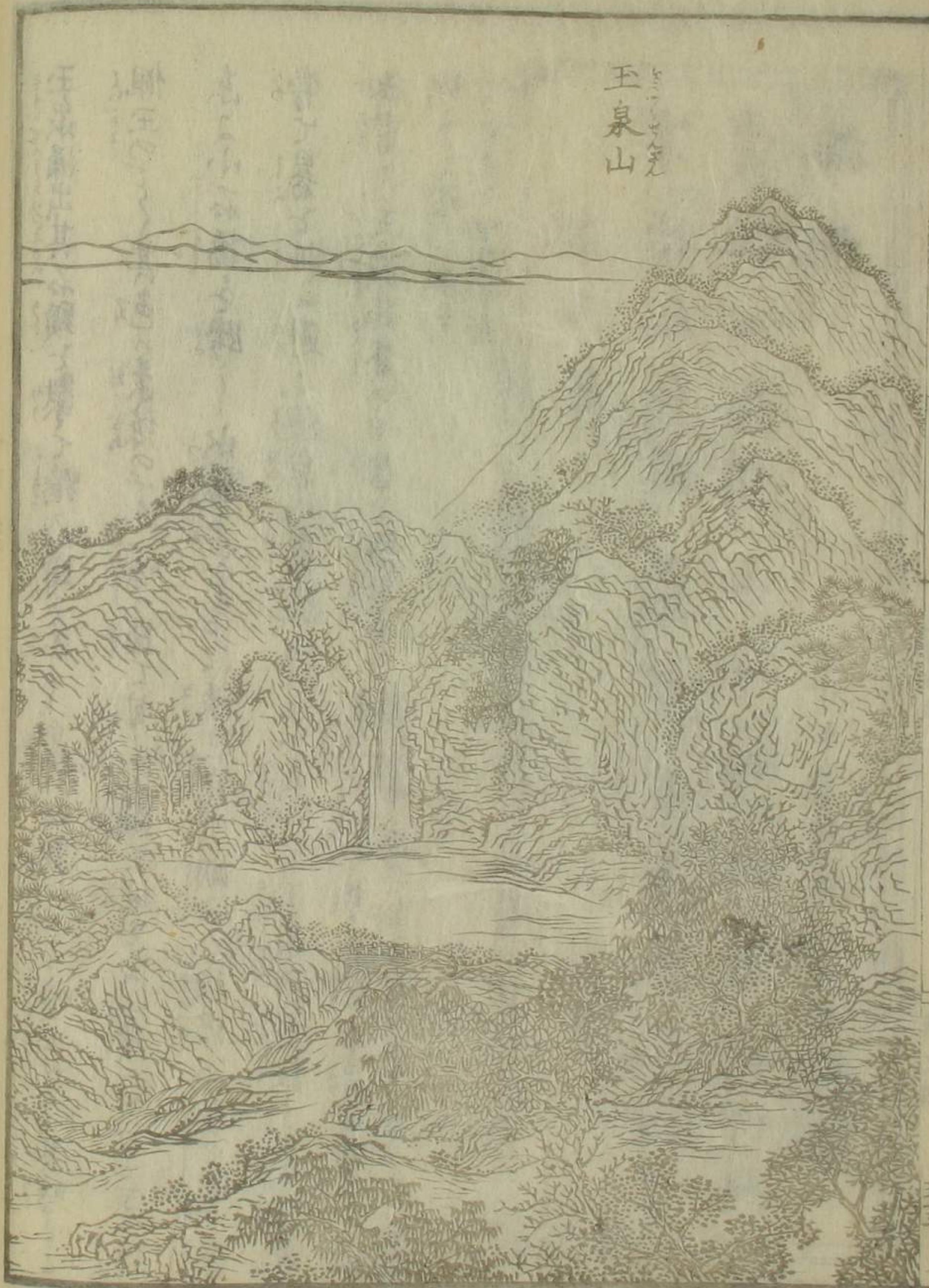
王暉

峯頭乱石關 崖穿水底浮光浸碧  
 霞段絶似蘓門山下踏惜無修竹與  
 梅花

七十七公羽林原共谷本倚



王泉山



王泉道中  
晚來聯騎踏晴沙  
風景蒼茫一望遐  
幾處白雲前代寺  
數村流水野人家  
鶯啼別墅春猶在  
馬到西山日未斜  
回首不知歸路遠  
九重宮殿隔烟霞

明劉大夏詩



順天府

苑園郊坳

卷之四

皇朝名勝圖會

龍王廟 玉泉山の 廟に泉上の湧出よりなる。龍の窟と教大涌泉あり。常と製  
 ぐらに改り名けて製帛湖と云。山奇石洞に透るる。或は雪の飛ぶごとく。或は  
 珠と輝く。又似たり。古楡をげく渡りて覆ひ幽秀たる。風を筆端の吹く處  
 あり。唐の正隆三向ふんぬ。其後清の元を移りて。門に楸并藤樹あり。  
 其後清の元を移りて。門に楸并藤樹あり。

製帛湖 王士禎  
 裂帛湖光如玉環人家終日映  
 溪淺分烟一幅蔡侯紙寫出  
 湖南千萬山 河世寧



靜明園 玉泉山のちりあり 康熙十九年又建て澄心園と名三十一一年今の名に改む  
 即範圍の二なり

康熙雍正の間に此園を乃木と改む。今其の石は「靜明園十六景

あり第一と廓然大公と云。園の中心あり。第二芙蓉曉照 廓然大公の後 第二玉泉

踏雪 玉泉山下第一の池あり。第三竹籬山房 龍王廟の南あり。後又製帛湖あり。第四

五聖因緣繪 風帝廟の南あり。第六補壁詩態 聖因緣繪の南あり。第七溪田課耕 補壁の

西あり。東より南あり。第八清涼禪窟 漢田源耕のふりあり。西 第九素衣雲徑 後妙

乃のあり。第十使雲琴音 招鶴庭の 第十一玉峯塔影 高基あり。わらわら音をゆる

あり。石と妙高峯より山は麓と 第十二風篁清聽 會神堂の南の樓あり。此より進ま

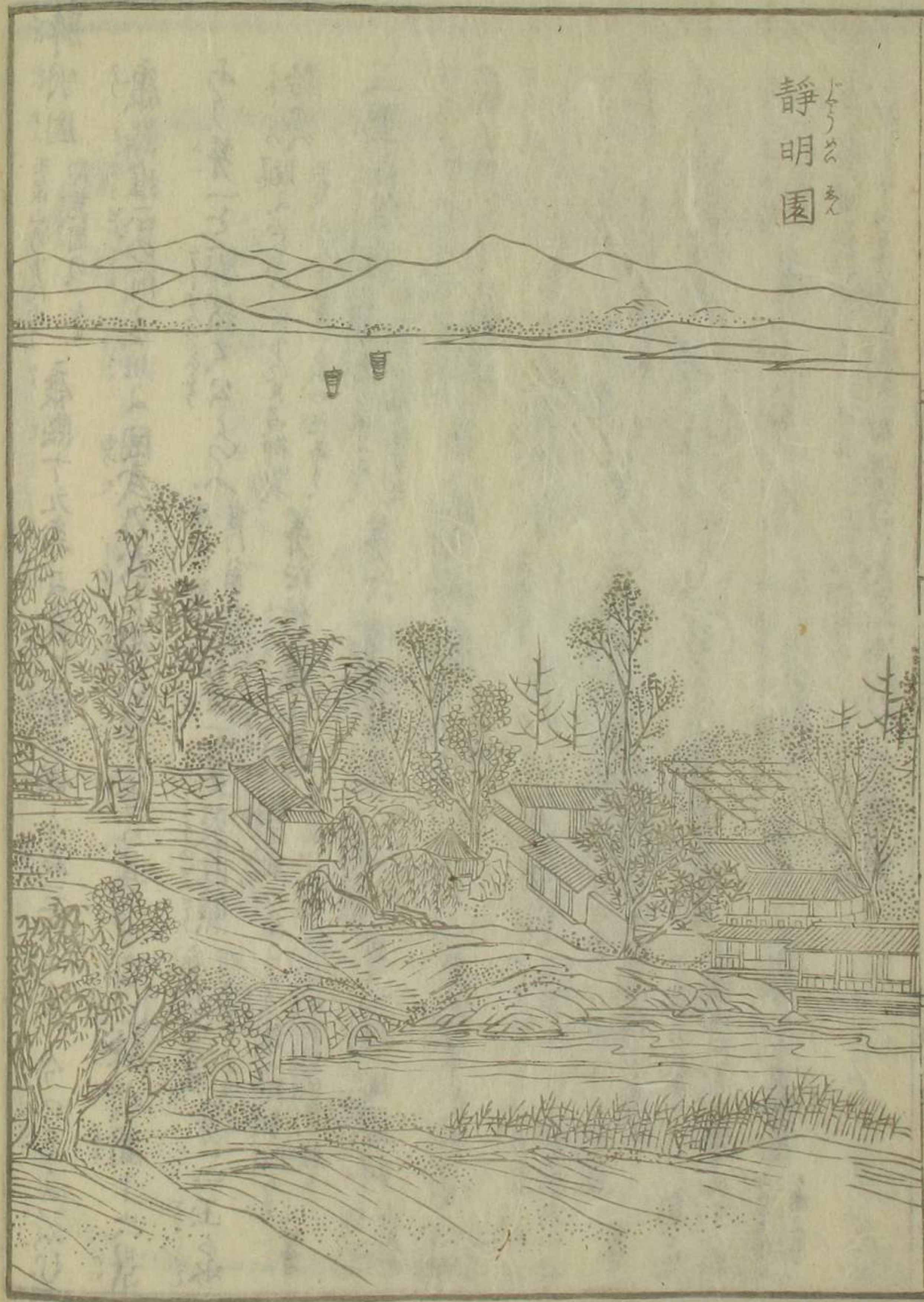
十三鏡影涵虛 臨晉法橋の西あり。南より 第十四製帛湖光 臨晉法橋の南あり。其

心は羅漢洞林麓 第十五雲外鐘聲 華嚴寺の南あり。 第十六翠雲嘉蔭 聖雲深處

あり。小南門南の東官門あり。又南官門の西南影湖橋あり。小東門外より長堤

石橋と云。上の三の坊あり。其の東湖橋は龍橋は佛園の外の翠雲道あり。

靜明園 しやうめい



車馬

順天府

苑園郊坳

卷之四

名公洞 王象之西二里 門又入之やぐて洞あり。廣と深と。後二洞又親音洞とも云

上華嚴寺下華嚴寺 後二里 明の英皇小帝の勅額あり。二洞あり。一ち

山の腰より二の殿の後より七真洞といふ。或は華華洞といふ。洞の中石壁

少は元の耶律丞相の詞明の大學士夏言が和韻と稱つけり。

耶律楚材鷓鴣天詞

花界傾頽事已遷。浩歌遙望意茫然。江山王氣空千劫。桃李春風又一年。橫翠嶂。紫寒烟。野花平碧怨啼鶯。不知何限人間夢。併觸沈思到酒邊。

夏言和韻

人世滄桑有变迁。靈岩玉洞自巋然。朝衣幾共游山日。佛界仍存刻石年。嗟歲月。惜風烟。等閒花發又啼鶯。只將彩筆題僧壁。玉帶長留向日邊。

西山 府の西三十里又 山中幾の雨若ありて白塔數十の山隈の青雲と相映し流

泉又多く或は荒池に渾きありてい草屋に伏す。或は塵沙の間に散漫す。

春夏の時に晴雲碧樹花香鳥聲相こもりし秋の紅葉のささるる丹浦

を飄々小似たり。冬の大雪の初て霽る。ふ峯峯。壺珠を積華と凝り。風をましく小畫なるとごとく。京師八景の一つ。西山霽雪の名あり。

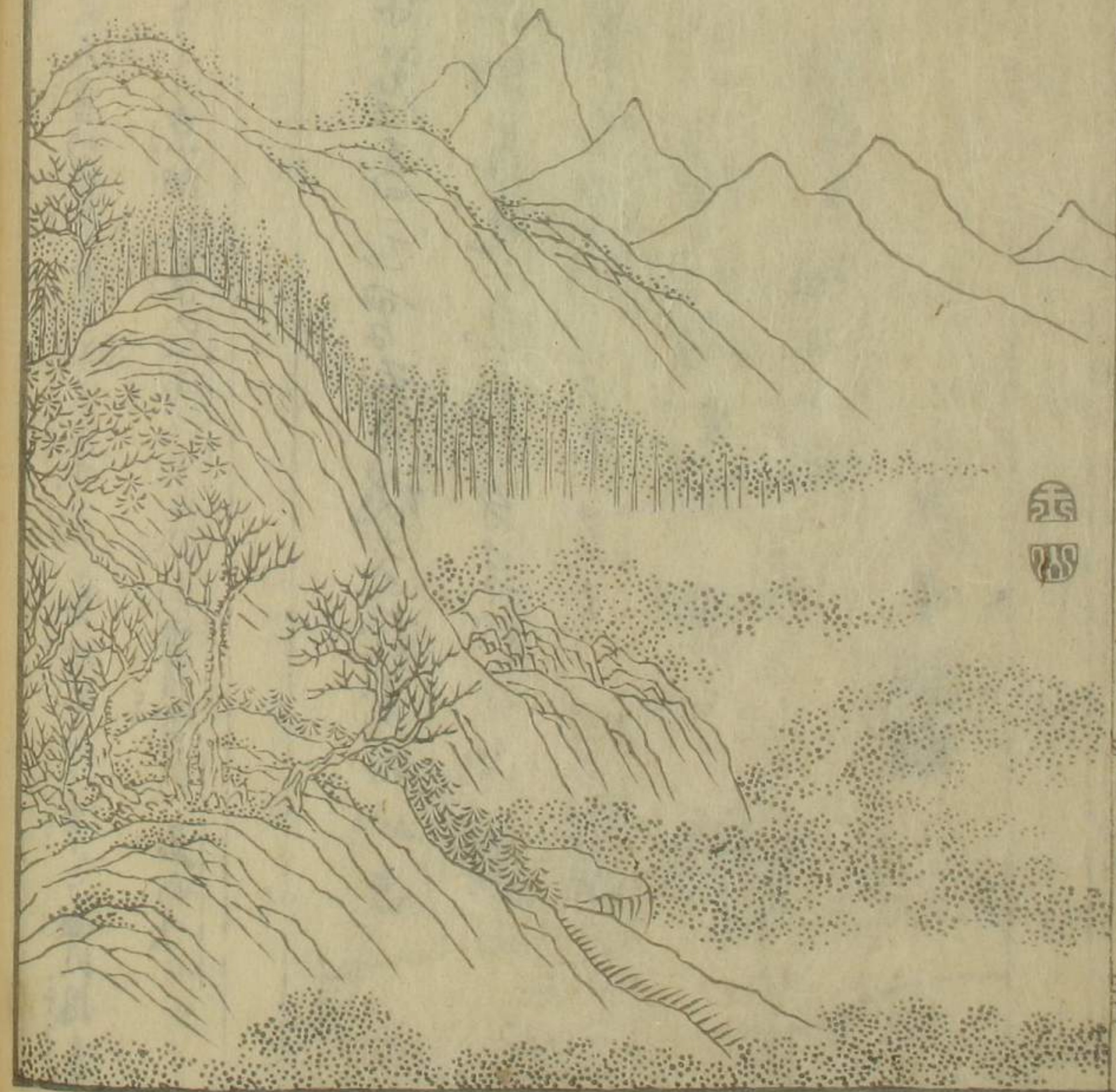
日、亦蒼蒼之。冒蒼翠。認春光。西山也。郊地在翻。出郭牙。來如。是。間。雲。裏。空。白。石。隱。紗。淡。意。洗。了。祀。源。後。秋。風。白。若。城。頭。雨。先。為。遊。人。一。解。新。吟。李。東。陽。西。山。詩。

三原堂



西山霽雪

山瀉復池勝  
披圖  
按水經洞名  
疑小  
有美品類中  
冷標  
縹朝烟白微  
茫晚  
岫音涓々通  
太液  
終古赴滄溟  
吳晟  
西山詩



順天府

苑園郊坰

卷之四



西山道中

宋玉

鶯花三月滿春暉  
 吉子閑殘菜葉肥  
 廢寺穿禾碑牛仆  
 斷橋行處柳成圍  
 抽芒小麦翻新浪  
 掠水輕漚潤麥肥  
 望子為沙峰圖  
 画西吟鞭早喜

謝塵鞅

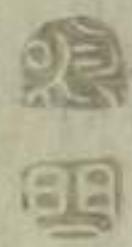
東都行人未賦文書



沙羅樹寫真

娑羅樹恭依皇祖元報  
 樹聞如意隨求得梵典曾標慶苑植  
 層心幢節古佛前碧眼耑僧來尚識  
 東土西天豈定形飛來靈鷲千雲昔  
 安知此樹不憶石因風作語猶冷  
 七葉龍葱湘蓋偃縱移根越十年遠  
 益部楚州疑附會那親月木依雲嶽  
 如桐如栝影團團雪覆霜疑翠蔚盤  
 不殊調御丈夫倚曾沐曼珠師利看

乾隆帝御製



○中管遊擊署 ○靜宜園子總署 ○普陀山 俱二四五

荷葉山 玉皇山の西南 岡阜隱沈して其狀荷葉の如し 俗以て名とす

十方普光寺 俗外佛寺と稱す 唐代の改稱あり 後殿の内ニ銅像の外佛一尊あり 唯の靈宗帝又小殿

の内ニは香檀木の外佛あり 唐の貞觀年中ニ造る 瘞心帝御製の碑乾隆

帝御書の額あり 殿の南ニ娑羅樹二株あり 此寺創建の時西域より

移り來り 植るをわたりて今本の南ニ三圓許あり 娑羅樹外國の交産木なり 葉圓

して葉圓なり 葉の裏に佛の影あり 佛の影の裏に佛の影あり 佛の影の裏に佛の影あり

觀音堂 外佛寺の 石盤あり 廣と較丈高と三丈たり 石磴の如く堂外

より登る 石盤上には周圍ありてこれを指し 小竇あり 白水涌出 其

源深く 涸くにしてこれと雲と冷然たり ○隆教寺 ○五華寺 ○慶泉

寺 ○圓通寺 ○右和菴 他二觀音堂の

西二三里あり

○此園水源洞と稱し 兩山相抱して小枝條をこせり 其中心より水乃涌出 其水清て

退翁亭 退翁亭の 亭の南流水流く 橋を渡べり 其の南の嶺ニ石門あり 其狀

巋然たり 此と烟霞窟と 朱臺草屋 退翁亭 愛退翁 未老先袖 簪行 藥亂 峯路 築

亭 雙樹 林間 中春 酒榭 靜裏 山泉 音滿 目市 朝貴 何人 期

廣應寺 外佛寺の西南 寺内ニ白松あり 其下より泉あり 此泉香山の諸寺眼下

にあり 寺より西を本園池とて山頂ニは玉皇廟あり 側ニ瀑布と稱する清水

靜宜園 香山の南あり 園の内東西二坊あり 中石橋と架し 其河と月河とふ

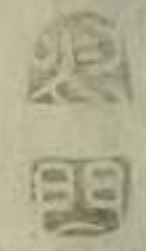
橋と渡る 園の南あり 内ニ勤政殿あり 南小の祝殿後ニ致遠齋 樓あり 館あり

西に觀音齋 德雲軒 東に樓を心直和平とす 練定園ニ二十八畝あり 復勤政殿

其一方の齋 鳴樓 ○福平軒 ○

靜宜園

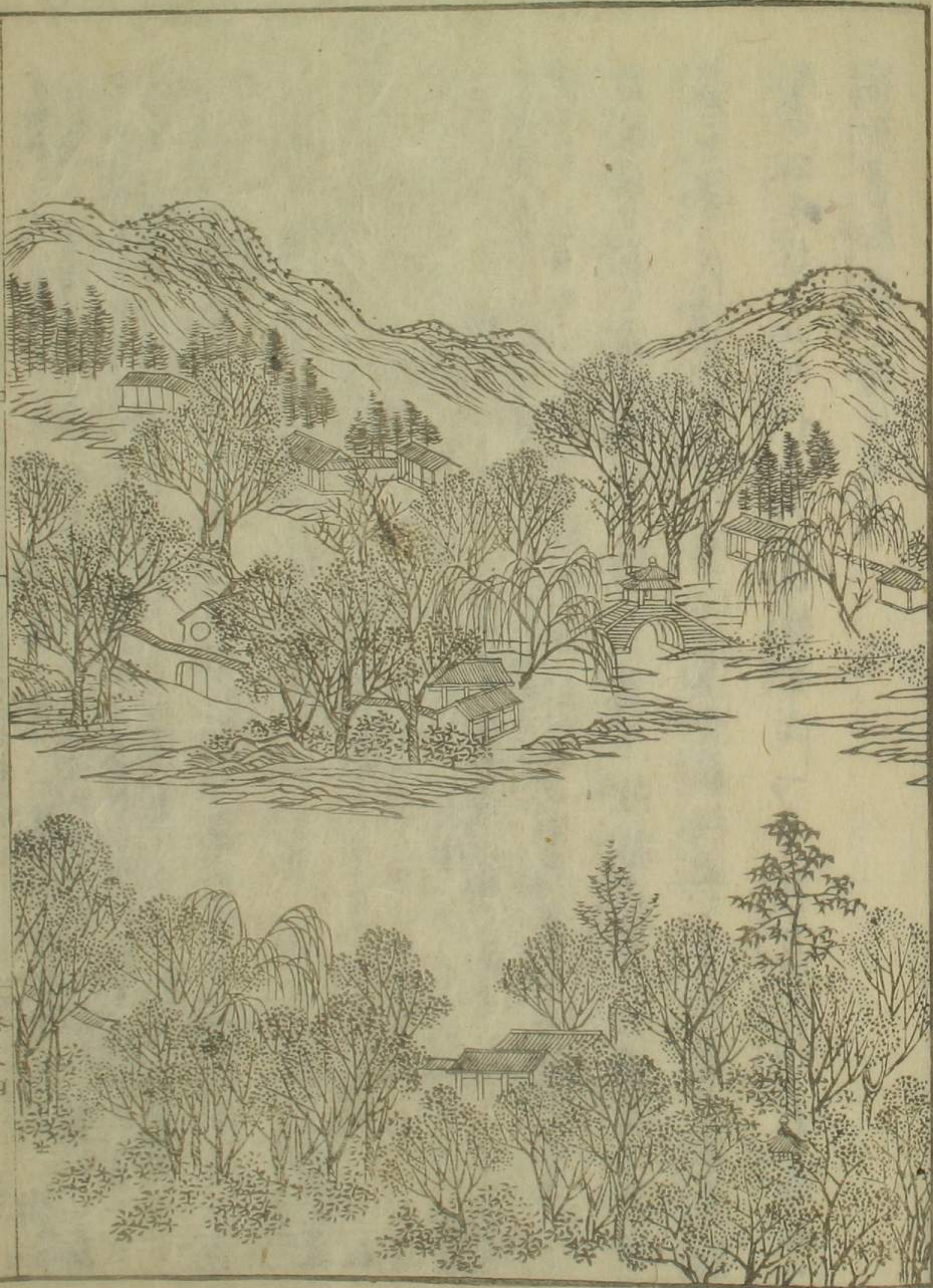
勤政殿有引卷之 乾隆帝  
悅心期有養好樂勵無荒  
漫擬靈祇面偏宜山号香  
問農頻駐驛咨來喜同堂  
家法傳勤政孜孜政暫忘



順天府

苑園郊坰

卷之四



虞朗訪及遊之堂あり。その御製二十八景の詩と鶴のり。○瀛珠岩○翠微亭○香雪洞○玉乳泉○狗秋林○雨香館○暉陽閣○芙蓉坪○香露窟山の岩間○御書西山齊雲の石碑あり。○栖月崖○香雪庵○玉華池○其西の峯石屹立○上は御旗の森石の字と勅せり。○瀛珠堂以上二十八景其四と奉て堂。

碧雲寺

香山あり。洪先とくをたむ。ありけり。松杉の鬱せり。中と外と二里あり。楹徑あり。八一の盤桓たる。殿の東は石の壁なり。其北は碧雲寺なり。其北嶺言遠なる。石磴數百級を登りて。佛殿あり。石の厨あり。佛殿の事と甯雲亭との石より廊廡をかん。元の耶律楚材の石阿利者より。香宅地を捨て。建ちをたむ。明代内監于經魏忠賢が後修造と加えて。香宅を造り。清朝乾隆の間に。羅漢堂藏經閣を建。御書の額希。御製の碑を賜ふ。此所代々天子の修幸はしく。憩息の所なり。扁額に皆御書。御題と掲げたり。

香山寺

蘇園圖二十八景の二ありて。瀛珠堂の西なり。

世宗此に幸し。修むる。大永安寺と賜ふ。殿石の二の碑あり。阿利者か宅と捨り。始末繁白く。雲の華あり。寺傍に御製石の碑あり。其碑石老潤りて玉の如く。殿の五重斜廊平欄たむ。る小軒閣をて。以て。西山一帶香山獨有翠華色の句に。令の世宗の咏なり。又明の泮泉軒を領て。采青軒とて。山中殊なる蹟多し。

一は甘露寺とも稱す。寺内より遠くを望む。其後にも橋欄の楹あり。又画廊より慈恩殿を登る。右は香爐閣。下は瞻雲石あり。石下は二の滝と三にふみひて瀛珠堂。香爐閣として。雲の勢と響く。故に名をく。又其處最も寺の精華を嘗て。此にありて。寺の知と發て。泉の涌と見る。望其地と寄せ。終る。果して泉と得たり。樹より寺傍其泉と流る。石の字と浮く。遠く水瑤とて。水瑤とて。水瑤とて。

宿香山寺

宋琬

黛色西山好  
年年馬上看  
紫萸逢九日  
幪被宿層臺  
拄杖松杉暝  
吹笙殿閣寒  
五陵回首處  
霜葉夢楓丹  
寒暄勝博書

碧雲寺



里  
六

入寺聞山雨  
群峰方夕陽  
派泉自成響  
林壑坐生涼  
竹覆春前雪  
花寒劫外香  
湯休何處是  
空望碧雲長

王士禛

張  
四



順天府

苑園郊坰

卷之四

洪光寺

西山の麓にあり。登る石磴九曲九十八盤にして磴毎に松栢生じ繁り

左右屏幃を立るごとし。短垣繞り石を以て枕を其間を坐して坐す。山

中の勝景一覽見して盡さず。十八盤とよまは寺門あり。寺内因殿あり。非

十八盤を今度標燈と云。十八盤とよまは寺門あり。寺内因殿あり。非

玉華寺

洪光寺の東にあり。釋迦園。○宗鏡大師之廟。釋迦園の北にあり。

香山の南麓にあり。香山あり。山は法海寺法華寺あり。互に相違ふ。法海寺の遺址あり。香山の南麓にあり。香山あり。山は法海寺法華寺あり。互に相違ふ。法海寺の遺址あり。

法海寺の遺址あり。香山の南麓にあり。香山あり。山は法海寺法華寺あり。互に相違ふ。法海寺の遺址あり。

法海寺の遺址あり。香山の南麓にあり。香山あり。山は法海寺法華寺あり。互に相違ふ。法海寺の遺址あり。

法海寺の遺址あり。香山の南麓にあり。香山あり。山は法海寺法華寺あり。互に相違ふ。法海寺の遺址あり。

法海寺の遺址あり。香山の南麓にあり。香山あり。山は法海寺法華寺あり。互に相違ふ。法海寺の遺址あり。

寶相寺

洪光寺の西にあり。其西に長松あり。乾隆二十七年勅して建御書り。額

御製の碑二あり。

九の碑は乾隆帝御書の。文は有り。佛亦釋と撰す。

中峯

香山の北にあり。西山流峯あり。中峯あり。石樓あり。眺つて亭あり。中峯あり。西山流峯あり。中峯あり。石樓あり。眺つて亭あり。

望詩中宮丙舍即花宮。松栢林前梵聲。風試上精廬高處望。樓臺金碧夕陽中。

翠巖寺

中峯の南にあり。故宇境内。廣くは山林の風致依り。清泉あり。蒼苔あり。

苔子口

中峯の南の方。龍泉潭あり。潭あり。其大過二橋。南教

釋宜園祀總署

釋宜園の東南二里許にあり。祀あり。其東小池あり。

盧師山

府の西三千里あり。隋の時一沙門あり。盧師と稱は。此山に居て。文青小青と云。二

龍を訓は。此時より盧師山の名あり。山中は盧師寺あり。寺を以て一里許に

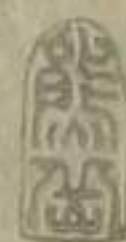
秘魔崖あり。師の晏坐せし處ありと云。

秘魔崖あり。師の晏坐せし處ありと云。秘魔崖あり。師の晏坐せし處ありと云。

秘魔崖あり。師の晏坐せし處ありと云。秘魔崖あり。師の晏坐せし處ありと云。

秘魔崖あり。師の晏坐せし處ありと云。秘魔崖あり。師の晏坐せし處ありと云。

盧師山



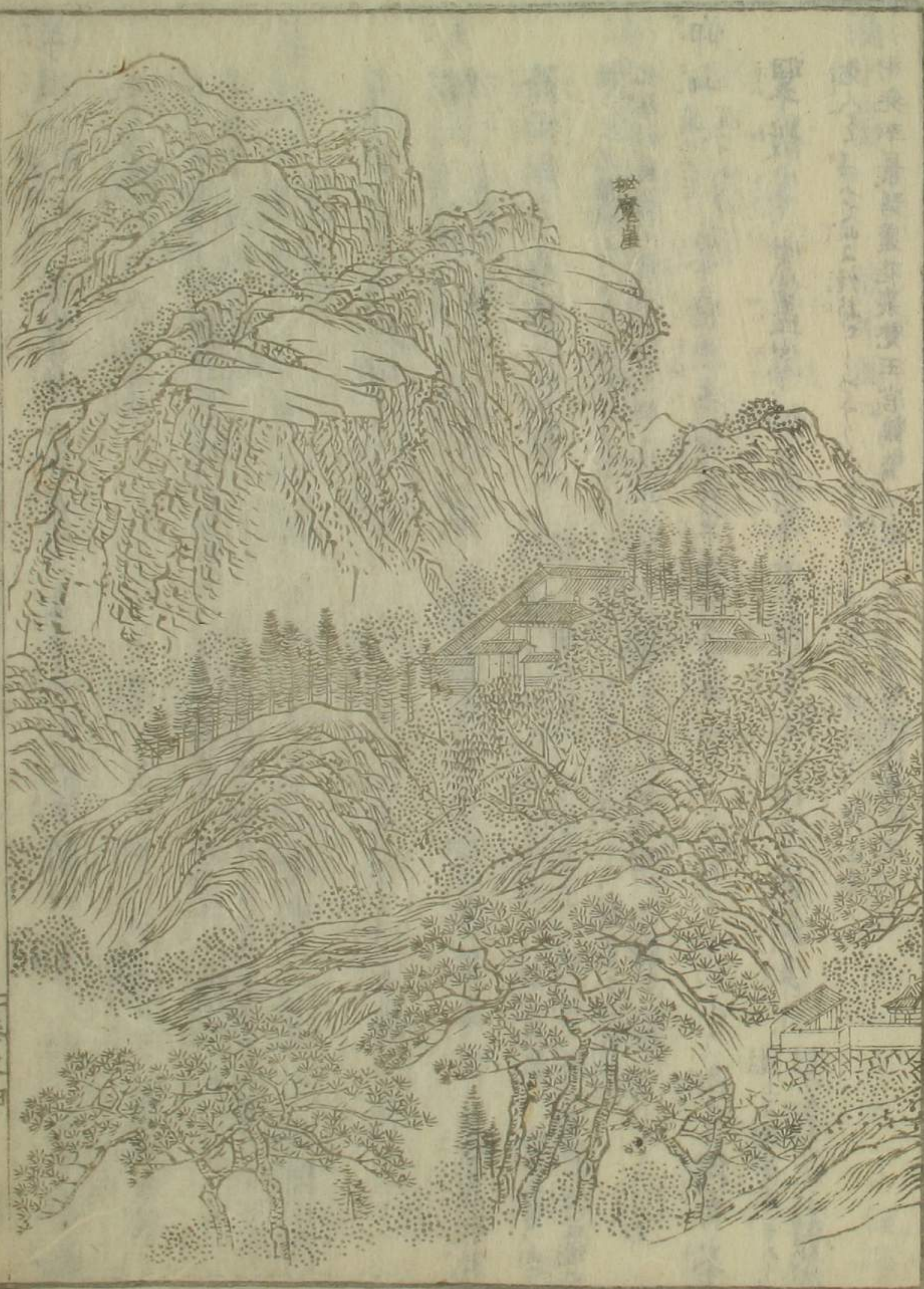
盧師夙昔經行地  
惆悵蒼崖古木風  
最憶深秋飛瀑下  
四山寒葉亂流中  
王士禛



順天府

苑園郊坳

卷之四



松麓崖



平披山 唐師山 山の東麓に平地あり、石を名く、又翠微山と号く、州の憲宗帝徳

幸の處方り、此嶺高し、其後、きと覺て此嶺と云、香泉寺あり、

唐昭宗御書あり、後、天寧寺あり、昭宗御書あり、其面より、憲宗帝書あり、

嘉禧寺 本名、嘉禧寺あり、 寺門の南一里許、徑の左右松檜あり、門内、又榆柳重く

とせし、もとて此邊地と云、日親は、山門方丈、壯麗なり、云々、

馬鞍山 房山縣の北二十里あり、 山中、萬壽寺あり、唐の武徳年中、建康昭乾

隆兩朝の御書の額あり、嶺上、十八格、唐の武徳年中、同僧法均の書、

仰山 府の西七十 峯、密拱秀、中、平頂の蓮華心なり、くわりのあり、旁、獨秀峯

翠微峯、紫蓋峯、妙高峯、紫微峯あり、中、禪刹あり、嶺上、梅陰、禪刹あり、

滴水巖 仰山嶺の南、 黄牛岡口より登る、其徑最險、萬丈溪を九、

と右、山路の形たる處、木をんで、横に、張公洞とて、石垣あり、聖屋

はして、丹者、これを滴水巖と云、老人をばへて、此、僧、持せり、つら、の、金、章、宗、遊、幸、有、詩、刻、石、金、色、界、

油雲寺 房山縣の西、 舊名、潭拓寺、燕人の諺、云く、先、潭拓ありて、後、

幽州ありし、此寺の古き、知る、唐、昭、宗、乃、同、今、の、寺、号、と、楊、

慈恩の所、嶺の西、雲、霧、乃、中、云、三、三、の、道、あり、九、六、里、許、あり、

一、排、あり、飛、曲、りて、軒、の、下、高、八、九、尺、今、枯、木、あり、

此山、交互、法、と、流、山、中、潭、あり、内、龍、潭、あり、龍、潭、其、潭、を、布、懸、りて、寺、を、建、つ、

許、と、蓋、の、正、附、と、し、

百苑山 府の西、 此山、花、卉、多し、因て、名、と、天、苑、と、名、る、若、あり、苑、と、嬌、題、は、

苑園郊坵

卷之四

順天府

唐土名勝圖會



筆架峯

湯泉

一號十  
八盤山

北湖

溫泉

合抱河



順天府

苑園郊坰

卷之四



香山十八盤  
盤乃種松栢  
惟見獨行僧  
稀逢來遊客  
宋章尊



南湖

てを愛とく。天華蔬とてして食ふ。唐熙の向山僧此花と朝廷又奉る  
 聖祖皇帝詞臣等又分ち揚ふ俱又詩ありて其の詞を記と。山は入て二里許離門  
 と建つ。文殊の舎像とて大三日なり成世なり。又揚あり。  
 文殊法身像と名く。其より善薩廟と登る。是百花山の巖なり。

西湖山 麻の西一  
百里あり 下又溪潭あり。又名く。

百望山南ハ西湖又阻り。燕平又通此此と去り百里にして。其其峯を記る。

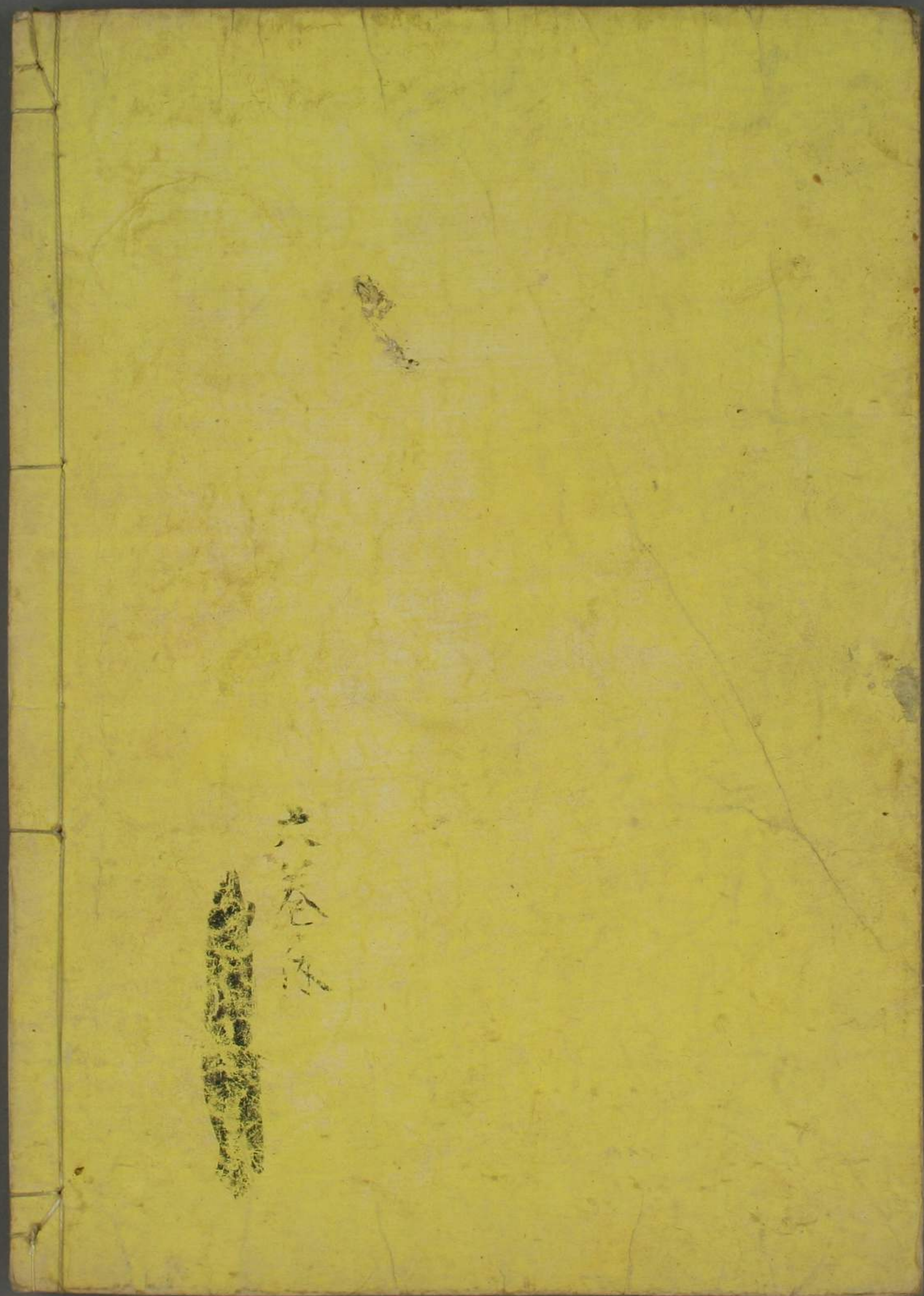
又百望山の名あり。 山の南又祠あり。高き五丈と云  
登りて衆師と争む。

湯泉 百望山の西  
六十里あり 山徑盤屈て。嶺又温泉あり。故又十八盤山と稱ん。温泉の處の石の  
跡入りて之を

又山頂の南ハ二の湖あり。每歲春の季夏の首の附湖あり。流して何と云れ。其を  
 合抱河といふ。西より峰あり。其秋葉葉の正し。山上の風景春くつひ變り。其たり。

唐土名勝圖會卷之四終

水越后高田  
 久村農林  
 油 豎春日早



六卷終